

4-3 心理学

研究・教育活動の概要と特色

心理学専攻分野の教員は、現在、教授3名、准教授2名、助教1名の6名構成である。それぞれの専門は社会・犯罪心理学、知覚・認知心理学、社会・生理心理学、応用・健康心理学、文化心理学と、多領域にわたっている。基礎研究から社会の多様な方面と連携した応用的な研究まで、研究の幅が広いことは、本専攻分野の大きな特色である。学部、大学院とも、卒業生は、学・官・民の多様な社会的分野で、バランスのよい活躍をしている。教員の研究は国際的水準の成果をあげている。また教育の結果である大学院生の研究発表の生産性は高く、とくに国際的学会や国際的ジャーナルでの発表を行う院生が多いことは、文学研究科内でも突出している。大会優秀発表賞などの受賞も数多い。その結果、日本学術振興会特別研究員としての採用も着実である。東北大学災害科学国際研究所や電気通信研究所との共同研究も活発に展開している。研究成果を、公開講座や公開シンポジウム、各種メディア等で社会的に還元する努力も十二分になされている。他の学問領域・機関と連携した共同研究、海外の研究者との共同研究も多い。さらに、モスクワ国立大学とは、教員の相互訪問・7名の学生の短期滞在受け入れ（7月）・留学の受け入れ（10月から）など、積極的に取り組んでいる。

I 組織

1 教員数（2015年5月20日現在）

教授：3

准教授：2

講師：0

助教：1

研究助手：0

教授：大淵憲一、行場次朗、阿部恒之

准教授：坂井信之、辻本昌弘

助教：上原俊介

2 在学生数（2015年5月20日現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
51	7	10	14	1

3 修了生・卒業生数（2010～2014年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
10	15	3	4
11	16	6	2
12	17	5	3
13	16	10	2
14	13	13	4
計	77	37	15

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2010～2014年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
10	4	0	4
11	2	0	2
12	3	0	3
13	1	0	1
14	2	0	2
計	12	0	12

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

中川知宏、2010年度、『青年期の集団と非行：非行の集団過程モデルの検証』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・行場次朗、教授・阿部恒之、教授・正村俊之、准教授・辻本昌弘

渥美恵美、2010年度、『リハビリテーションと対人関係 - 作業療法学生の社会的交流技能に関する研究 - 』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・行場次朗、教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘、准教授・下夷美幸

柴田理瑛、2010年度、『視覚的アウェアネスの生起と消失からの回復に関する実験心理学的検討』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・大淵憲一、教授・阿部恒之、准

教授・辻本昌弘、准教授・小泉政利

鈴木結花、2010年度、『粗さの触知覚におよぼす聴覚情報の影響に関する心理物理学的研究』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・大淵憲一、教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘、准教授・小泉政利

引地博之、2011年度、『地域内協力の促進 —地域コミットメントの効果とその形成機構—』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・行場次朗、教授・阿部恒之、教授・木村邦博、准教授・坂井信之、准教授・辻本昌弘

川嶋伸佳、2011年度、『社会的不平等と公正感 —マイクロ公正感因果モデルの検討—』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・行場次朗、教授・阿部恒之、教授・佐藤嘉倫、准教授・坂井信之、准教授・辻本昌弘

上原俊介、2012年度、『怒りの社会心理学的研究: 規範違反の知覚と怒り感情に対する人間関係タイプの影響』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・行場次朗、教授・阿部恒之、教授・木村邦博、准教授・坂井信之、准教授・辻本昌弘

高橋純一、2012年度、『パターンの情報特性と感性特性に依存して変容する視覚的短期記憶』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・大淵憲一、教授・阿部恒之、准教授・坂井信之、准教授・辻本昌弘、准教授・小泉政利

遠藤光男、2012年度、『顔認識過程の特性に関する心理学的研究: 熟達性の視点から捉えた顔検出過程』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・大淵憲一、教授・阿部恒之、准教授・坂井信之、准教授・辻本昌弘、准教授・小泉政利

近藤日出夫、2013年度、『重大事犯少年の発達過程と犯行特徴に関する実証的研究』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・行場次朗、教授・阿部恒之、准教授・坂井信之、准教授・辻本昌弘、教授・佐藤嘉倫

森 丈弓、2014年度、『犯罪リスク・アセスメントの研究: 非行少年用リスク・アセスメント・ツールの検討』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・行場次朗、教授・阿部恒之、准教授・坂井信之、准教授・辻本昌弘、教授・佐藤嘉倫

竹島康博、2014 年度、『感覚刺激の処理速度が視聴覚統合にもたらす影響の心理物理学的研究』

審査委員：（主査）教授 行場次朗、教授 大淵憲一、教授 阿部恒之
准教授 坂井信之、准教授 辻本昌弘、准教授 小泉政利

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
10	3	3	1	0	7
11	16	6	7	0	29
12	13	4	2	0	19
13	10	3	1	1	15
14	10	11	4	0	25
15	4	3	0	0	7
計	56	30	15	1	102

* 2015 年度は 5 月 20 日までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
10	21	39	14	3	77
11	24	28	0	0	52
12	2	44	4	0	50
13	9	39	1	0	49
14	12	54	0	1	67
15	2	2	0	0	4
計	70	206	19	4	299

* 2015 年度は 5 月 20 日までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

Abe T., Wiwattanapantuwong J., Honda A. 「Dark, cold, and hungry, but full of mutual trust: Manners among the 2011 Great East Japan Earthquake victims」 『*Psychology in Russia: State of the Art*』, 7, 4-13, March 2014.

朝岡 陸・行場次朗 「時間再生課題における視聴覚相互作用の影響」 『電子

- 情報通信学会』, 299, 91-96, 2013 年 11 月.
- 朝岡 陸・行場次朗 「感覚間・感覚内群化は視覚刺激の知覚時間を変容させる」
『電子情報通信学会技術研究報告』 347, 41-46, 2014.
- Asaoka, R., & Watanabe, Y. 「Differences between measuring methods of time estimation」 『Tohoku Psychologica Folia』 in press.
- 渥美恵美・大淵憲一. 「作業療法学生のための社会的スキル学習に対する臨床実習の効果」 『応用心理学研究』, 36, 114-123, 2011.
- 渥美恵美・大淵憲一・勅使河原麻衣. 「社会的交流技能自己評価尺度の妥当性の検証—臨床実習指導者評価を用いて—」 『感性福祉研究所年報』, 12, 163-174, 2011.
- 淵上康幸・外川江美・坂野剛崇・浦田洋 シンポジウム「未来は開かれている～若手心理専門職等の育成」 『犯罪心理学会研究』, 51, 206-207, 2013 年.
- 原田 章・景村幸弘・宮本友介・戸川直子・清川 清・安留誠吾・中西通雄・松浦敏雄 「情報教育における仮想的有能感」 『平成 22 年度情報教育研究集会講演論文集』, 1, 584-587, 2010 年 12 月.
- 原田 章 「人間関係の重要性に対する認識の仮想街空間構成法による測定を試み」 『追手門学院大学ベンチャービジネス・レビュー』, 4, 33-43, 2012 年 2 月.
- Hidaka, S., Shibata, H., Kurihara, M., Tanaka, A., Konno, A., Maruyama, S., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「Effect of second language exposure on brain activity for language processing among preschoolers」 『Neuroscience Research』, 73, 73-79, 2012.
- Hikichi, H. 「Local cooperation and social inequalities」 In K. Ohbuchi & N. Asai (Eds.), 『Inequality, Discrimination, and Conflict in Japan: Ways to Social Justice and Cooperation (chap. 9)』 Melbourne: Trans Pacific Press, 2011.
- Honda, A., Wiwattanapantuwong, J., & Abe, T. 「Japanese University Students' Attitudes toward The Fukushima Nuclear Disaster」 『Journal of Environmental Psychology』, 40, 147-156, December, 2014.
- 岩田聖子・原田 章 「CALL 英語学習者に影響を及ぼす要因の特定に向けて—CALL 学習者のコンピュータスキル及び英語力の観点から—」 『追手門学院大学一貫連携教育研究所紀要』, 1, 90-100, 2015 年 3 月.
- Karremans, J. C., Regalia, C., Paleari, F. G., Fincham, F. D., Cui, M., Takada, N., Ohbuchi, K., Terzino, K., Cross, S. E., & Uskul, A. K. 「Maintaining Harmony Across the

- Globe: The Cross-Cultural Association Between Closeness and Interpersonal Forgiveness」 『Social Psychology and Personality Science』, 2, 443-451, 2011.
- 川端壮康・荒川由美子・佐々木美奈子・菅原正和 「大学生の抑うつ傾向に対する心理教育的介入の実践的研究」 『学生相談研究』, 34(3), 225-235, 2014年3月.
- 川端壮康・大淵憲一 「大学生における非表出性攻撃と抑うつの関係について: 社会的情報処理モデルの立場から」 『尚絅学院大学紀要』, 68, 91-101, 2014年12月.
- 川端壮康・大淵憲一 「抑うつの認知的歪みが攻撃性を促進するメカニズムについて—共感性の影響を踏まえて—」 『尚絅学院大学紀要』, 69 (掲載予定)
- 川嶋伸佳・大淵憲一. 「日本における社会的不平等の正当化: 体制正当化理論の検証」, 大淵憲一 (編) 『日本思想からみた正義・公正観念: 社会心理学的検討 (平成19年度~21年度科学研究費補助金研究成果報告書)』, 113-125, 2010.
- 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子, 「社会的不平等とミクロ公正感: 不公正感受性の効果」 『法と心理』, 11(1), 47-57, 2011-10, 2011.
- 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子, 「多元的公正感と抗議行動: 社会不変信念、社会的効力感、変革コストの影響」 『社会心理学研究』, 27(2), 63-74, 2012.
- Kawashima, N. 「Social Inequality and Sense of Fairness in Japan: Multi-Level Sense of Fairness, Social Ideals and Rationalization Mechanisms」 K.Ohuchi and N. Asai (Eds.) 『Inequality, Discrimination, and Conflict in Japan: Ways to Social Justice and Cooperation』 Melbourne: Transpacific Press, 22-40, 2011.
- Kikuchi, F., Sato, T., Kawashima, M., & Abe, T. 「Is a humorous excuse better than lying?」 『Tohoku Psychologica Folia』, 69, 34-39, 2010.
- 小嶋かおり. 「絵本に見られる対人葛藤と心の理論による物語理解」 『新潟青陵大学短期大学部研究報告』, 41, 163-173, 2010.
- 小嶋かおり. 「日本の昔話と対人葛藤」 『文化』, 74, 2010.
- 森 丈弓. 「犯罪・非行のリスクアセスメント」 『青少年問題 財団法人青少年問題研究会』 640, pp.8-13, 2010.
- 森 丈弓. 「こんなときの叱り方のコツ 万引きをした」 『児童心理』 金子書房 9, pp.91-95, 2010.
- 森 丈弓. 「Mathematicaによる構造方程式モデリング」 『いわき明星大学人文学部紀要』, 24, 84-96, 2011.

- 森 丈弓. 「犯罪と非行」 林 洋一(監) 『心の科学 基礎から学ぶ心理学』 明星
大学出版部 pp.235-256, 2011.
- 森 丈弓. 「サイコパス」 林 洋一(監) 『心の科学 基礎から学ぶ心理学』 明星
大学出版部 pp.150-152, 2011.
- 森 丈弓. 「再犯のリスクアセスメント」 『カウンセリング実践ハンドブック』
丸善. pp.490-491, 2011.
- Nakamata, T. 「The tendency to approach positive stimuli and avoid negative stimuli」
『Tohoku Psychologica Folia』, 70, 21-25, 2011.
- 中俣友子・平野大二郎・阿部恒之 「人格を代表するのは顔・身体の中のどの部位か
—最期の別れで触れる場所—」 『日本顔学会誌』, 印刷中.
- 夏堀百合奈・大橋智樹・高田利武 「社会的比較と課題習熟度が社会的促進に与え
る影響について」 『心理行動科学科研究報告』, 2, 128-150, 2012.
- 西田知博・原田 章・中西通雄・松浦敏雄 「プログラミング導入教育における
コースウェアの違いによる学習効果の比較」 『情報処理学会研究報告』,
2013-CE-No.2, 1-10, 2013年12月.
- 岡本吉生 「救済しあう夫婦の子育て期」 日本加除出版 『住民行政の窓』第
359号 pp.128-131, 2011.
- 岡本吉生 「青少年問題この10年」 財団法人青少年問題研究会 『青少年問題』
第643号 第58巻夏季号 pp.8-13, 2011.
- 岡本吉生 「非行リスクとしての障害と関連問題」 生島浩・岡本吉生・廣井亮
一(編) 『非行臨床の新潮流』, 金剛出版, pp.69-81, 2011.
- 岡本吉生 「置手紙: 配偶者の突然の家出」 『戸籍時報』, 677, 74-76, 2011.
- 岡本吉生 「情状鑑定の方法と課題」 『青少年問題』, 59, 18-23, 2012.
- 岡本吉生 「夫婦の黙示録」 『住民行政の窓』, 376, 84-87, 2012.
- 岡本吉生 「お父さんとうまくいかない」 『人権のひろば』, 83, 32-33, 2012.
- 岡本吉生 (Sexton, T. L. 著) 「機能的家族療法 (FFT) の臨床実践」 『家族療
法研究』, 29, 2, 91-93, 2012.
- 岡本吉生 「離婚の後始末」 『戸籍時報』, 691, 97-99, 2012.
- 岡本英生・生島 浩 「大震災が犯罪者の立ち直りに与えた影響に関する研究—リ
スクマネジメントとしての社会支援の観点から—」 『明治安田こころの健
康財団研究助成論文集』, 47, 155-161, 2012.
- 岡本吉生 「家庭裁判所の家事事件」 (日本家族研究・家族療法学会編「家族療
法テキストブック」金剛出版, 2013)

- 岡本吉生 「利発な子どもが背負うもの」 『住民行政の窓』, 25, 6, 81-85, 2013年6月.
- 岡本吉生 「家庭裁判所の家事事件」 (日本家族研究・家族療法学会編「家族療法テキストブック」金剛出版, 2013年6月)
- 岡本吉生 「子どもの問題に悩む母親と姑の葛藤」 『人権のひろば』, 92, 34-35, 2013年7月.
- 岡本吉生 「上手な喧嘩, 下手な喧嘩」 『戸籍時報』, 708, 2014年2月.
- 岡本吉生 「成人初期の親密性と成人アタッチメント」 『青少年問題』, 656号, 42-47, 2014年.
- 岡本吉生 「愛の三角理論」 『住民行政の窓』, 26, 8, 121-125, 2014年.
- 岡本吉生 「「上手な夫婦喧嘩」を語る4人の妻とのグループセッション」 『人権のひろば』, 102, 32-33, 2015年.
- 岡本英生・森 丈弓・阿部恒之・斉藤豊治・山本雅昭・松原英世・平山真理・松本太郎 「東日本大震災による被害が犯罪発生に与えた影響」 『犯罪社会学研究』, 39, 84-93, 2014年.
- 小野間統子・瀧本 潤・坂井信之 「ノンアルコール飲料による酔酩感の心理学的検討」 『日本味と匂学会誌』, 20(3), 281-284, 2013年12月.
- 大沼卓也・瀧本 潤・坂井信之 「カテゴリーとしてのブランドが炭酸飲料のおいしさ評定に及ぼす影響」 『日本味と匂学会誌』, 20(3), 277-280, 2013年12月.
- Onuma, T., Fuchimoto, J., & Sakai, N. 「Brand categorization and hedonic transfer: Negative evaluations of a beverage transfer to a novel beverage from the same brand」 『Tohoku Psychologica Folia』, 72, 46-62, March, 2014.
- 大沼卓也・坂井信之 「ラットにおける味と匂いの連合学習と快不快価の転移」 『日本味と匂学会誌』, 21(3), 303-306, 2014.
- 齋藤五大・行場次朗 「双安定性をもつ視覚運動知覚を変容させる手の位置の効果。」電子情報通信学会技術研究報告. 347, 51-54. 2014年.
- Saito, T., & Ohbuchi, K. 「Gender differences in Japanese conflict avoidance: An interpretation from closeness」 『Tohoku Psychologica Folia』, 69, 1-7, 2011.
- Saito, T., & Ohbuchi, K. 「Who suffers pluralistic ignorance of conflict avoidance among Japanese? Individual differences in the value of social harmony」 『International Journal of Conflict Management』, 24, 112-125, 2013.
- Shibata, H., Gyoba, J., & Takeshima, Y. 「Perception of the end position of a limb loaded

- with a weigh」 『Attention, Perception, & Psychophysics』 , 74, 225-238, 2012.
- Shibata, M., Kawachi, Y., & Gyoba J. 「Combined effects of perceptual grouping cues on object representation: Evidence from motion-induced blindness」 『Attention, Perception, & Psychophysics』 , 72, 387-397, 2010.
- Shibata, M., Kawachi, Y., Yairi, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「A short noise burst can trigger the release of motion-induced blindness」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』 , 29, 85-86, 2010.
- Shibata, H., Kanda, M., Takeshima, Y., & Sakai, N. 「Role of the lateral prefrontal cortex in visual feedback processing following self-generated finger movement」 『Tohoku Psychologica Folia』 , 73, 1-8, 2014.
- 生島 浩 「犯罪・非行と家族ーリスク・ファミリーの臨床」 『犯罪と非行』 , 163, 5-21, 2010.
- 生島 浩 「少年非行と家族」 井上眞理子（編） 『家族社会学を学ぶ人のために』 , 世界思想社, 202-219, 2010年.
- 生島 浩 「非行臨床モデルの意義と課題」 生島浩・岡本吉生・廣井亮一（編） 『非行臨床の新潮流』 , 金剛出版, 135-147, 2011年.
- 生島 浩・岡本吉生・廣井亮一 「非行臨床の新潮流」 金剛出版, 2011年.
- 生島 浩・芳賀まゆき・北部大輔 「高齢犯罪者に対する更生援助プログラムに関する研究」 『明治安田こころの健康財団研究助成論文集』, 46, 187-195, 2011年.
- 杉原沙千子・生島 浩・久保 貴 「更生保護における犯罪心理臨床の歴史と展望」 『犯罪心理学研究 50周年記念特集号』 , 73-87, 2011年.
- 生島 浩 「リスク・マネジメントは立ち直り支援となり得るのか」 『青少年問題』 , 645, 14-19, 2012年.
- 生島 浩・石川祐介 「更生保護」 日本司法福祉学会編 『司法福祉』 , 60-71, 生活書院, 2012年.
- 生島 浩・三浦恵子 「医療観察制度」 日本司法福祉学会編 『司法福祉』 , 72-81, 生活書院, 2012年.
- 生島 浩 「更生保護におけるシステムズ・アプローチの展開」 『更生保護学研究』 , 創刊号, 96-104, 2012年.
- 庄司有里・生島 浩 「スクールカウンセラーによる非行問題への支援に関する一考察」 『福島大学心理臨床研究』 , 7, 51-58, 2012年.
- 生島 浩・北部大輔・庄司有里 「放射能不安によるリスク・ファミリーへの支

- 援一疎開家族へのアウトリーチを中心にー」 『明治安田こころの健康財団：研究助成論文集』,48,47-55, 2013年10月.
- 生島 浩 「非行・犯罪臨床における発達障害の基本理解」, 生島浩責任編集『保護観察のための発達処遇ハンドブック』, 日本更生保護協会, 74-83, 2014年3月.
- 生島 浩「学校臨床と家族」「非行臨床と家族」「犯罪臨床と家族」, 清水新二編『臨床家族社会学』, 放送大学教育振興会, 69-106, 2014年3月.
- 生島 浩 「悩みを抱えられない子どもたちへの支援」, 『児童心理』, 987, 金子書房, 96-100, 2014年6月.
- 生島 浩 「更生保護の現在ー若干の杞憂ー」, 『青少年問題』, 655, 10-17, 2014年7月.
- 菅藤健一・森 丈弓 「非行少年の風景構成法の描画特徴について」 『犯罪心理学研究』, 52, 11-19, 2015年.
- 須佐一行・瀬戸口智裕・大西一起・外川江美 「性非行のリスク要因に関する一研究」 『犯罪心理学研究』, 51, 120-121, 2013年.
- Tachibana, R., & Kawabata, H. 「The effects of social misdirection on magic tricks: How deceived and undeceived groups differ」 『i-Perception』, 5 (3), 143-146, March 2014.
- Takada, N. & Ohbuchi, K. 「True and hollow forgiveness, forgiveness motives, and conflict resolution」 『International Journal of Conflict Management』, 24, 184 -200, 2013.
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「Effects of non-native language exposure on the semantic processing of native language in preschool children」 『Neuroscience Research』, 69, 246-251, 2011.
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「Effects of development and non-native language exposure on the semantic processing of native language in preschoolers」 『Tohoku Psychologica Folia』, 69, 8-22, 2011.
- Takahashi, J., & Hatakeyama, T. 「Spatial and nonspatial working memory and visual search」 『Psychological Reports』, 108, 893-907, 2011.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Different effects of expanding/contracting motion on visual short-term memory」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science (Summary of Awarded Presentation)』, 30, 139-140, 2011.

- 高橋純一・畠山孝男 「視覚探索の低次・高次処理段階と心像能力の個人差の次元」
『イメージ心理学研究』, 9, 25-38, 2011.
- Takahashi, J., & Gyoba, J. 「Self-rated autistic-like traits and capacity of visual working memory」 『Psychological Reports』, 110, 879-890, 2012.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Internal criteria underlying affective responses to visual patterns」 『Gestalt Theory』, 34, 67-80, 2012.
- Takahashi, J., & Hatakeyama, T. 「Reported vividness in visual imagery and apparent motion」 『Journal of Mental Imagery』, 36, 51-60, 2012.
- Takahashi, J., & Yasunaga, D. 「Reported Visual Imagery and Apparent Motion: An ERP Study」 『NeuroReport』, 23, 904-910, 2012.
- Takahashi, J. 「Multiple intelligence theory can help promote inclusive education for children with intellectual disability and developmental disorders: Historical reviews of intelligence theory, measurement methods, and suggestions for inclusive education.」 『Creative Education』, in press.
- Takahashi, J. 「Suggestions for a teacher training program for inclusive education in a Japanese university.」 『Creative Education』, in press.
- Takahashi, J., Tamaki, K., & Yamawaki, N. 「Autism spectrum, attachment styles, and social skills in university students.」 『Creative Education』, in press.
- Takahashi, J., Hidaka, S., Teramoto, W., & Gyoba, J. 「Temporal characteristics of the effects of visual pattern redundancy on encoding and storage processes: Evidence from rapid serial visual presentation.」 『Psychological Research』, in press.
- Takahashi, J., Gyoba, J., & Yamawaki, N. 「Effect of spatial complexity on visual short-term memory and self-reported autistic-like traits in typically developed individuals.」 『Journal of Autism and Developmental Disorders』, 43, 1725-1731, 2013.
- Takahashi, J., & Yasunaga, D. 「Reported visual imagery and apparent motion: an event-related potential study.」 『NeuroReport』, 23, 904-910, 2012.
- 竹西正典・竹西亜古・金川智恵・原田 章 「福島原子力発電所事故における管理者メッセージの分析：リスクコミュニケーションの心理モデルに基づく官邸発表の検討」 『京都光華女子大学研究紀要』, 51, 25-38, 2013年12月.
- 竹西正典・竹西亜古・金川智恵・原田 章 「福島原子力発電所事故における管理者メッセージの分析(2)：東京電力発表のコンテンツ分析と受け手の評価」 『京都光華女子大学研究紀要』, 52, 105-119, 2014年12月.

- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「The auditory velocity illusion by sounds of different intensities」 『Tohoku Psychologica Folia』 , 69, 53-60, 2011.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「Modification of velocity perception by loud sounds」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』 , 30, 19-24, 2011.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「High-intensity sound increases the size of visually perceived objects」 『Attention, Perception, & Psychophysics』 ,75, 501-507, 2013.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「Changing Pitch of Sounds Alters Perceived Visual Motion Trajectory」 『Multisensory Research』 ,26, 317-332, 2013.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「Complexity of visual stimuli affects visual illusion induced by sound」 『Vision Research』 , 91, 1-7, 2013.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「Pattern dot quantity affects auditory facilitation effects on visual object representations」 『Perception』 , 43, 107-116, 2014, April.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「Hemispheric asymmetry in the auditory facilitation effect in dual-stream rapid serial visual presentation tasks」 『PLOS ONE』 , in press.
- Takeshima, Y., Saito, G., Tachibana, R., Asaoka, R., Gyoba, J., & Koizumi, M. 「Processing loads related to word order preference during sentence production in Japanese: An NIRS and eye tracking study」 『Tohoku Psychologica Folia』 , 73, 36-45, 2014.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「Spatial frequency modulates the degree of illusory second flash perception」 『Multisensory Research』 , 28, 1-10, 2015.
- 勅使河原麻衣・渥美恵美. 「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤：学生の悩みとの関連性」 『リハビリテーション教育研究』 , 15, 2011.
- 外川江美 「「暴れる子ども」の理解と対応」 『神奈川県警少年育成課機関誌「学警連だより」』 , 印刷中.
- 外川江美・大淵憲一 「T A Tを用いた性加害少年の心理理解について」 『犯罪心理学研究』 , 49, 特別号, 2-3, 2011.
- Uchida, Y., Kanagawa, C., Takenishi, A., Harada, A., Okawa, K., & Yabuno, H. 「How did the media report on the Great East Japan Earthquake? Objectivity and emotionality seeking in Japanese media coverage」 , PLOS ONE, 2015年5月.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Komatsu, S., & Ohbuchi, K. 「The role of social anxiety in anger against norm violations」 『Tohoku Psychologica Folia』 , 69, 40-52, 2010年10月.
- 上原俊介・船木真悟・大淵憲一 「関係規範の違反に対する怒り感情：人間関係タ

- イブ、欲求の関係特異性、及び欲求伝達の影響」 『実験社会心理学研究』, 51, 32-42, 2011年8月.
- 上原俊介・中川知宏・森 丈弓・国佐勇輔・大淵憲一 「怒りの動機を規定する人格要因: 共有的志向性の影響」 『文化』, 75, 40-55, 2011年12月.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Mori, T., Shimizu, K., & Ohbuchi, K. 「Dispositional determinant of anger at norm violations: Does it reflect an individual's selective responsibility for needs?」 『Tohoku Psychologica Folia』, 70, 10-20, 2011年3月.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Mori, T., & Ohbuchi, K. 「When does anger evoke self-interest and fairness motives? The moderating effects of perceived responsibility for needs」 『Japanese Psychological Research』, 54, 137-149, 2012年5月.
- 上原俊介・中川知宏・森 丈弓・清水かなこ・大淵憲一 「関係規範の違反に対するシグナルとしての怒り感情: 知覚された欲求責任違反の媒介的役割」 『社会心理学研究』, 27, 161-173, 2012年3月.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Tamura, T., & Mori, T. 「Anger in close relationships: Relationships, perceived violation of responsibility for needs, and feelings of anger」 『Tohoku Psychologica Folia』, 71, 33-41, 2012年3月.
- 上原俊介・中川知宏・国佐勇輔・岩淵絵里・田村 達・森 丈弓 「道徳的違反に対する怒り感情: 義憤を規定する状況要因の検討」 『社会心理学研究』, 28, 158-168, 2013年3月.
- 上原俊介・中川知宏・田村 達・小形佳祐・齊藤五大 「怒りと道徳的違反の知覚: 危害の正当性と義憤および私憤に対するその影響」 『文化』, 77, 1-12, 2013年12月.
- Wiwattanapantuwong, J., Lee, C., Honda, A., & Abe, T. 「Taiwanese perceptions of Japan and the use of nuclear power after the 2011 East Japan earthquake and tsunami disaster: An examination of the role of media and heuristic cues」 『Tohoku Psychologica Folia』, 70, 44-55, 2011.
- Wiwattanapantuwong, J., Zhang, Y., Honda, A., & Abe, T. 「The impact of the 2011 East Japan Earthquake and subsequent nuclear accident: A preliminary interview study among South Korean people」 『Tohoku Psychologica Folia』, 72, 16-25, September, 2013.
- 山口奈緒美 「葛藤解決における寛容性の研究: 認知方略が寛容性に与える影響」 『東北福祉大学研究紀要』, 39, 97-108, 2015年.

- 山本麻奈・森 丈弓・牛木潤子. 「薬物事犯受刑者の自己効力感と再犯との関連について」 『日本アルコール・薬物医学会雑誌』,48(6), 445-453, 2013 年.
- 山本麻奈・森 丈弓 「薬物プログラムによる薬物事犯受刑者の退所スキルの変化と再犯との関連について」 『心理臨床学研究』, 32, 716-721, 2015 年.
- Yamamoto, T., & Ohbuchi, K. 「Negative Effects of the Exposure to Benevolent Sexism on Women's Task Performance」 『Tohoku Psychologica Folia』, 70, 36-43, 2011.
- Yamamoto, T., & Ohbuchi, K. 「Maintaining the gender gap and benevolent sexism」 K. Ohbuchi & N. Asai (編) 『Inequality, discrimination and conflict in Japan』 (pp. 115-130). Balwyn North, Australia: Trans Pacific Press, 2011.
- 山本雄大・佐藤潤美・大淵憲一 「喫煙者に対する否定的評価と差別」 『心理学研究』, 85, 121-129, 2014 年 6 月.
- 山脇望美・山本雄大・熊谷智博・大淵憲一 「攻撃性の顕在的・潜在的測定による攻撃行動の予測」 『社会心理学研究』, 29, 25-31, 2013 年 8 月..

(2) 口頭発表 (ポスター発表を含む)

(国際学会)

- Asaoka, R., & Gyoba, J. 「Accuracy and resolution differences in time perception between the central and peripheral visual field」 The 10th Asia Pacific Conference on Vision, 2014, July.
- Fuchimoto, J., Onuma, T., & Sakai, N. 「The Effect of Ester Flavor on the Perception of Beer」 The 10th Pangborn Sensory Science Symposium, 2013.
- Harada, A., & Kagemura, Y. 「The projective method of the measurement for the fear of crime of children」 International Congress of Applied Psychology, 2010 年 7 月.
- Harada, A. 「Projective Measurement for Fear of Crime with Human Relation」 16th World CONGRESS, International Society of Criminology, 2011 年 8 月.
- Hikichi, H., Ohbuchi, K., & Aoki, T. 「Promotion of Cooperation among Community Residents: Effects of Familiarity with Local Historical Heritages and Commitment to the Community」 The 11th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, 2010.
- Hikichi, H. 「How do community residents determine cooperation to community activity?: Influence of social unfairness and commitment to the community」 東北大学文学研究科グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」第4回東アジア若手研究者国際シンポジウム, 2010.

- Hikichi, H. 「Social disparity and cooperation among community residents: Effect of sense of relative poverty and community commitment」 東北大学文学研究科グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」ワークショップ, 2010.
- Hikichi, H. 「Effect of local historical heritages on community commitment: history of glory and history of tragedy」 東北大学文学部 GCOE プログラム国際シンポジウム “Intergroup Conflict and Social Identity: Impact of History, Continuity and Stability of Group.”, 2010.
- Hikichi, H., Ohbuchi, K., & Aoki. 「Effects of the perceived relative deprivation on community commitment and willingness to participate in community activities」 12th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, 2011.
- Hikichi, H., Ohbuchi, K., & Aoki. 「Effects of local historical heritages of glorious or tragic past events on residents' community commitment」 Pre-Conference of 12th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology (Group Processes & Intergroup Relationships), 2011.
- Honda, A., Shibata, H., Hidaka, S., Gyoba, J., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. 「The Effects of head movement and accurate proprioceptive feedback in training of sound localization」 12th International Multisensory Research Forum (Fukuoka), 2011.
- Kanda, T., Honda, A., Shibata, H., Asai, N., Teramono, W., Sakamoto, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「The sense of verisimilitude has different spatial-temporal characteristics from those producing the sense of presence in the evaluation process of audiovisual contents」 12th International Multisensory Research Forum (Fukuoka), 2011.
- Kawabata, T., Muroki, T., Uchiyama, Y., Taya, K., & Ohbuchi, K. 「The Effect of Perspective Taking on Violent Crime」 第 49 回日本犯罪心理学会（於神戸国際会議場）, 2011.
- Kawabata, T., & Sugawara, M. 「Neuropsychology of Cooperativeness」 第 12 回ヨーロッパ心理学会（於イスタンブール）, 2011.
- Kawabata, T., Ohbuchi, K., & Tajima, H., 「Effects of empathy and cognitive biases in three types of affiliation in Japanese students」 International Congress of Psychology, 2012.
- Kawabata, T., & Ohbuchi, K. 「The Effects of Cognitive and Emotional Processes in Decision of the Aggressive Behavior in Japanese Students」 The 13th European

- Congress of Psychology, July 2013.
- Kawabata, T., Ohbuchi, K. 「Roles of Cognitive and Emotional Variables in the Decision Processes of Aggression among Japanese Male Delinquents.」 The 28th International Congress of Applied Psychology, July 2014.
- Kawachi, Y., Matsue, Y., Shibata, M., Imaizumi, O., & Gyoba, J. 「Self-stimulated prepulse inhibition」 29th International Congress of Clinical Neurophysiology, 2010.
- Kawachi, Y., Shibata, M., Kawabata, H., Kitamura, M., & Gyoba, J. 「An fMRI study on temporal characteristics of crossmodal/unimodal bouncing effects」 11th International Multisensory Research Forum, 2010.
- Kawashima, N., Ohbuchi, K., Kumagai, T., & Asai, N. 「Perceptions of unfairness and social protests among Japanese: Effects of the immutability belief」 Poster presentation at The 11th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, 2010.
- Kawashima, N. 「Who feel a sense of unfairness? : The Relationship between Socioeconomic Status and Micro Unfairness in Japan」 Verbal presentation at the Fourth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, 2010.
- Kawashima, N. 「Effects of the perceptions of Japanese society on macro fairness」 The 9th Workshop in the Center for the Study of Social Stratification and Inequality, 2010.
- Kawashima, N. 「Social Inequalities and Psychological Well-being in Japan: The Effects of Micro and Macro Fairness」 Verbal presentation at the International Symposium “Social Inequality and Justification of It,” Tokyo, December 18th, 2010.
- Kawashima, N., & Ohbuchi, K. 「Micro fairness mediates the relationship between social inequalities and psychological well-being.」 Poster presentation at The 12th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, San Antonio, January 28th, 2011.
- Kikuchi, F., Akita, Y., & Abe, T. 「Influence of olfactory cognition on the perceived effect of lip balm」 The 9th Meeting of the Tsukuba International Conference on Memory, 2011.
- Mori, T., Takahashi, M., Kanto, K., & Ohbuchi, K. 「Predictive validity of Youth Level of Service/Case Management Inventory among Japanese juvenile population」 Annual meetings of the American Society of Criminology, San Francisco, 2010.

- Nakamata, T. 「The Tendency to approach and avoid the pleasant and unpleasant stimuli」
Tohoku University Global COE “International workshop for young researchers”,
2010.
- Nakamata, T., & Ohbuchi, K. 「Predispositions to approach and avoid the positive and
negative stimuli.」 The 16th General Meeting of the European Association for Social
Psychology, 2011.
- Nakamata, T., & Abe, T. 「Eye Movement Response to Pleasant/Unpleasant Facial
Expression」 The 14th Annual Meeting of the Society for Personality and Social
Psychology, 2013.
- Nakamata, T., Hirano, D., & Abe, T. 「The Factors Affecting Littering –Signboards,
Prior Litters, Environment, and Monitoring Camera-」 The 13th European Congress
of Psychology, 2013.
- Okamoto, Y. 「Ways and Issues of Risk Assessment for Offenders with Intellectual
Disability in Expert Examination」 16th World Congress International Society for
Criminology, 2011.
- Okamoto, Y. 「Support toward offenders with intellectual disability: Collaboration with
family, community, and society」 16th World Congress International Society for
Criminology, 2011.
- Onuma, N., Fuchimoto, J., Matsumoto, S., & Sakai, N., 「Psychological study on on tipsy
feeling after drinking a non-alcoholic beer」 The 28th International Congress of
Applied Psychology, July 2014.
- Onuma, T., Fuchimoto, J., & Sakai, N. 「Is It True that Unfamiliar Brands Are the
Meaningless Symbols?」 The 10th Pangborn Sensory Science Symposium, 2013.
- Onuma, T., Fuchimoto, J., & Sakai, N. 「Fall in love at second look: gaze bias in the
comparison stage of visual decision making」 SenseAsia 2014: The Asian Sensory
and Consumer Research Symposium, May, 2014.
- Penwannakul, Y., & Sakai, N. 「Comparison of Perceived Asian Country Image Among
Thai Consumers」 The 6th Thailand-Japan International Academic Conference, 2013.
- Penwannakul, Y., & Sakai, N. 「Country-of-origin Effect as a Stereotype: Role of
experience and Country-of-origin Image」 The 7th Thailand-Japan International
Academic Conference, 2014.
- Saito, G., & Gyoba, J. 「Orientation of the palms alters bistable visual motion perception」
The 10th Asia-Pacific Conference on Vision. Takamatsu, Japan. July, 2014.

- Saito, G., & Gyoba, J. 「Proprioceptive information on hands alters visual motion event perception.」 52th Korean Society for Cognitive and Biological Psychology Conference. Korea, January 2015.
- Shibata, M., Yousuke., K, Yairi, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Latencies for the crossmodal release of motion-induced blindness」 11th International Multisensory Research Forum, 2010.
- Shojima, H. 「Community-Based Treatment of Juvenile Delinquents with Pervasive Developmental Disorders in Japan」 国際犯罪学会第 16 回世界大会, 神戸, 2011.
- Shojima, H. 「Psycho-therapeutic Rehabilitation Program for Juvenile delinquent in Japan」 第 8 回国際思春期青年期精神医学会議, Berlin, 2011.
- Shojima, H. 「Risk Management in the case of Fukushima Nuclear Crisis from The Great East Japan Earthquake: A report from the perspectives of adolescent delinquency and criminal psychology 」 The 30th National Organization of Forensic Social Work Annual Conference, 2013.
- Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「Spatial factors influencing the sound effects on the tactile perception of roughness」 11th International Multisensory Research Forum, Liverpool, 2010.
- Tachibana, R., & Gyoba, J. 「Effect of Different Types of Misdirection on Attention and Detection of Change」 28th International Congress of Applied Psychology, July 2014.
- Tachibana, R., & Gyoba, J. 「Comparison of Effectiveness of Different Types of Misdirection: Using Card Magic illusions」 The 10th Asia-pacific conference on Vision, July 2014.
- Tachibana, R., Saito, G., Asaoka, R., Gyoba, J., & Koizumi, M. 「The processing load according to word order preference in utterance -NIRS and eye tracking study in Kaqchikel Maya-.」 52th Korean Society for Cognitive and Biological Psychology Conference. Juju, Korea. January 2015.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., and Gyoba, J. 「Visual preference modulates the spatial location memory of visual patterns」 8th Tsukuba International Conference on Memory, 2010.
- Takahashi, J., Hidaka, S., Teramoto, W., and Gyoba, J. 「Encoding-efficiency of visual pattern modulates the audio-visual interaction in repetition blindness」 11th International Multisensory Research Forum, 2010.

- Takahashi, M., & Mori, M. 「The actuarial and clinical predictors of recidivism using YLS/CMI in a sample of Japanese juvenile offenders」 Annual meetings of the American Society of Criminology, San Francisco, 2010.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「The capacity of visual short-term memory for expanding and contracting objects」 15th annual meeting of the ASSC (Association for the Scientific Study of Consciousness), 2011.
- Takahashi, J., Hidaka, S., Teramoto, W., & Gyoba, J. 「Repetition blindness modulated by objects' encoding-efficiency」 9th Tsukuba International Conference on Memory, 2011.
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「An ERP study on the semantic processing of native language in preschoolers: The effects of development and non-native language exposure」 Tohoku International Symposium on Multidisciplinary Neuroscience, 2011.
- Takahashi, J., & Gyoba, J. 「Relationships between self-reported autistic-like traits and visual short-term memory in typically developed individuals.」 International Association for the Scientific Study of Intellectual and Developmental Disabilities (IASSID) 3rd Asia-Pacific Regional Congress, 2013.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「Louder sounds make objects' apparent sizes larger」 The 9th Tsukuba International Conference on Memory, 2011.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「The effect of auditory stimuli on visual size perception」 The 15th Annual Meeting of The Association for the Scientific Study of Consciousness, 2011.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「The occurrence rate of the fission illusion differs depending on the complexity of visual stimuli」 The 12th International Multisensory Research Forum, 2011.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「Differential effect of visual and auditory spatial cues on visual numerosity judgment」 Vision Sciences Society Annual Meeting, 2014, May.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「Alteration of visual speed and size perception by high-intensity sound and the applicability of these audio-visual illusions to product design」 28th International Congress of Applied Psychology, 2014, July.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「Visual field asymmetry in auditory facilitation effects for visual identification and localization performance」 The 10th Asia-Pacific Conference on Vision, 2014, July.

- Wiwattanapantuwong, J., & Abe, T. 「Psychological Impact on Natural Disaster Preparation: A Cross-Country Comparison between Thai and Japanese Citizen (The Preliminary Study)」 The 3rd Thailand-Japan International Academic Conference, 2010.
- Wiwattanapantuwong, J., & Abe, T. 「The Role of Emotions in Disaster Preparation: A Cross-Country Comparison between Japan and Thailand」 International Society for Research on Emotion, 2011.
- Wiwattanapantuwong, J., & Abe, T. 「Difference in Disaster Preparation Styles between Citizens of Central and Southern Thailand」 The 4th Thailand-Japan International Academic Conference, 2011.
- Wiwattanapantuwong, J., Honda, A., & Abe, T. 「Moral dilemmas in Japan after the Fukushima nuclear disaster: Effects of residential area and disaster experience」 International Society for Research on Emotion, 2011.
- Wiwattanapantuwong, J., & Abe, T. Citizen's viewpoints toward natural disaster's threat: An examination of cultural difference between Taiwan and Thailand. The 9th International Conference on Environmental, Cultural, Economics & Social Sustainability, 2013.
- Yamamoto, T., & Ohbuchi, K. 「Negative Effects of the Exposure to Benevolent Sexism on Women's task Performance.」 The 11th Annual Conference of Society for Personality and Social Psychology, 2010.
- Yamamoto, T., & Ohbuchi, K. 「Benevolent sexism: Do women expect it?」 GCOE International Symposium: Inequality, Discrimination and Social Identity, 2010.
- Yamamoto, T., & Ohbuchi, K. 「The Effect of Women's Social Status on the Attitude toward Benevolent Sexism」 The Thirteenth Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, 2011.
- Yamamoto, T., & Ohbuchi, K. 「Why do women accept benevolent sexism?」 The 13th Annual Meeting of Society for Personality and social Psychology, 2012.

(国内学会)

- 荒木 剛・佐藤 拓・菊地史倫・池田和浩 「侵入思考に対する自我違和的評価とコーピングの関係 (2)」 日本心理学会第 74 回大会, 2010.
- 朝岡 陸・渡邊洋一 「聴覚刺激と視覚刺激が時間評価に及ぼす影響」 東北心理学会第 67 回大会, 2013.

- 朝岡 陸・渡邊洋一 「聴覚的時間と視覚的時間の差異についての検討」 認知心理学会第 11 回大会, 2013.
- 朝岡 陸・渡邊洋一 「感覚刺激と刺激間隔が時間再生に及ぼす影響」 日本心理学会第 77 回大会, 2013.
- 朝岡 陸・行場次朗 「時間再生課題における視聴覚相互作用の影響」 電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会, 2013 年 11 月.
- 朝岡 陸・行場次朗 「音によって伸長する視覚的時間知覚」 第 5 回多感覚研究会, 2013 年 11 月.
- 朝岡 陸・行場次朗 「中心視と周辺視における時間知覚の正確性と解像度の差異」 日本基礎心理学会第 32 回大会, 2013 年 12 月.
- 朝岡 陸・行場次朗 「聴覚刺激は視覚的時間知覚を伸長・短縮させる」 日本認知心理学会第 12 回大会, 2014 年 6 月.
- 朝岡 陸・行場次朗 「聴覚刺激は視覚的時間知覚の正確性・安定性を高めるのか」 日本心理学会第 78 回大会, 2014 年 9 月.
- 朝岡 陸・行場次朗 「感覚間・感覚内群化は視覚刺激の知覚時間を変容させる」 電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会, 2014 年 12 月.
- 朝岡 陸・行場次朗 「感覚モダリティ内群化は音による視覚的時間知覚の伸縮効果を消失させる」 日本基礎心理学会第 34 回大会, 2014 年 12 月.
- 渥美恵美・大淵憲一・勅使河原麻衣 「臨床実習 I の指導者評価に対する社会的交流技能の効果の検討」 第 45 回日本作業療法学会, 2011.
- 張 燕・阿部恒之 「美容整形意識の日韓比較 -ソウルにおける面接調査-」 日本感情心理学会第 20 回大会, 2012.
- 張 燕・阿部恒之 「東アジアにおける美容整形の意識の比較」 東北心理学会第 66 回大会 新潟心理学会第 49 回大会 合同大会, 2012.
- 海老原聡子・行場次朗 「主要な概念カテゴリーを修飾する形容詞の感性特性」 日本認知心理学会第 12 回大会, 2014 年 6 月.
- 遠藤光男 「検出と基礎レベルの分類における顔認識過程の特性」 日本心理学会第 75 回大会, 2011.
- 瀧上康幸・外川江美・坂野剛崇・浦田 洋 シンポジウム「未来は開かれている～若手心理専門職等の育成」 日本犯罪心理学会第 51 回大会, 2013.
- 瀧本 潤・大沼卓也・坂井信之 「エステル香の添加が飲料の評価に及ぼす影響」 日本心理学会第 77 回大会, 2013.
- 権蛇 明・近藤日出夫・浦尾洋旭 「非行少年のレジリエンスとリスクに関する研

- 究(5)」 日本犯罪心理学会第 50 回大会, 2012.
- 濱口佳和・森 丈弓 「入院前の関係性攻撃と在院中の少年の社会的情報処理およびストレス反応との関連についての研究」 日本犯罪心理学会第 52 回大会, 2014 年.
- 原田 章・小俣謙二・島田貴仁・羽生和紀 「小学校高学年向け仮想街空間構成法の開発と評価」 日本犯罪心理学会第 48 回大会, 2010 年 10 月.
- 原田 章・岩田聖子 「CALL 授業に対する評価と英語習熟度の関係」 日本心理学会第 76 回大会, 2012 年 9 月.
- 原田 章・董 迪・松浦敏雄・西田知博 「文科系学生を対象とした PEN によるコンピュータプログラミング教育の効果」 日本教育心理学会第 54 回総会, 2012 年 11 月.
- 原田 章・荒井崇史・岩淵亜希子・朽尾真一・長尾俊明・平 治彦 「時系列表示を中心とした, タブレット利用を前提とする LMS の開発」 教育システム情報学会研究報告, 2015 年 1 月.
- 引地博之・大淵憲一・青木俊明. 「格差社会における地域内協力の形成機構—地域コミットメントと相対的貧困感の効果—」 日本応用心理学会第 77 回大会, 2010.
- 引地博之・大淵憲一・青木俊明. 「歴史資産による地域コミットメントの形成—栄誉の歴史と悲劇の歴史—」 日本社会心理学会第 51 回大会, 2010.
- 引地博之・大淵憲一 「物質主義傾向の要因とそれが相対的剥奪感に与える効果」 日本社会心理学会第 52 回大会, 2011.
- 平川奈々・大淵憲一 「従業員の職業価値観とリーダー・タイプの選好に関する研究」 日本社会心理学会第 53 回大会, 2012.
- 平松千枝子・吉川好昭・岡本吉生・須藤 明・市村彰英・亀井洋子・白倉憲二 「親の離婚を経験した子どもの成長に関する調査研究 —家族として再編するため—」 財団法人こども未来財団, 2013 年 3 月.
- 平野智久・高橋純一・行場次朗 「アレキシサイミア傾向者における顔表情認知特性」 東北心理学会第 66 回大会, 2013.
- 本多明生・Wiwattanapantuwong Juthatip・阿部恒之 「原子力発電所事故に対する大学生の態度: 震災復興活動への賛否ならびに事故収束の予測年数との関連性」 日本感情心理学会第 20 回大会, 神戸大学, 2012.
- 本多明生・Wiwattanapantuwong, Juthatip ・阿部恒之 「放射能汚染の恐怖は震災復興施策への反応を特徴付ける」 日本心理学会第 78 回大会, 2014 年 9 月

- 市村彰英・吉川好昭・岡本吉生・須藤 明 「親の離婚を経験した子どもの成長に関する調査研究（その2） ―質的な観点から―」 日本家族研究・家族療学会, 2013.
- 磯部志保里・行場次朗 「静止した誘導刺激による視覚的消失現象の分析」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 岩淵絵里・上原俊介 「拒絶の敏感さは関係構築反応を促進するか？」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 岩田聖子・原田 章 「CALL 学習者に影響を及ぼす要因の特定に向けて：CALL 学習者のコンピュータスキル及び英語力に関する質問紙開発」 外国語教育メディア学会第 52 回全国研究大会, 2012 年 8 月.
- 岩田聖子・原田 章 「CALL 学習者の英語伸長度に影響を及ぼす要因」 外国語教育メディア学会第 53 回全国研究大会, 2013 年 8 月.
- 岩田聖子・原田 章 「CALL 学習者の有効性について：CALL 授業を利用した通常クラスと再履修クラスの比較より」 外国語教育メディア学会第 54 回大会, 2014 年 8 月.
- 梶間幹男・森 丈弓・高橋 哲・菅藤健一・三谷厚・丸山もゆる・相澤 優・石黒裕子・内山八重・小野広明・吉澤 淳・大淵憲一 「3G リスクツールによる非行少年のリスクアセスメント(6)」 日本犯罪心理学会第 52 回大会, 2014 年.
- 柿崎星哉・鈴木結花・行場次朗 「触る位置で面の粗さ知覚が変わる？」 第 2 回多感覚研究会, 2010.
- 柿崎星哉・鈴木結花・行場次朗 「粗さの触知覚における頭部近傍面の優位性」 北海道心理学会・東北心理学会第 11 回合同大会, 2011.
- 柿崎星哉・鈴木結花・行場次朗 「触覚による粗さ知覚の頭部近傍面優位性 ―頭部からの距離依存性の検討―」 日本基礎心理学会第 30 回大会, 2011.
- 柿崎星哉・鈴木結花・行場次朗 「粗さ知覚の頭部近傍面優位性は頭部からの距離に依存して変化する」 第 3 回多感覚研究会, 2012.
- 柿崎星哉・鈴木結花・行場次朗 「粗さの触知覚に及ぼす空間的要因と視覚的身体情報の影響」 日本イメージ心理学会第 13 回大会, 2012.
- 柿崎星哉・鈴木結花・行場次朗 「粗さの触知覚に空間的要因が及ぼす影響 ―信号検出理論による検討―」 日本基礎心理学会第 31 回大会, 2012.
- 柿崎星哉・鈴木結花・行場次朗 「頭部と刺激の位置関係による触知覚の変容」 第 67 回東北心理学会, 2013.

- 角田 亮・森 丈弓・高橋 哲・岡部梨奈子 「矯正施設における処遇プログラムの効果検証を巡る諸問題(2)」,日本犯罪心理学会第 50 回大会,2012.
- 姜 寅皓・大淵憲一 「運動部での体罰に対する道徳判断」 東北心理学会第 68 回大会, 2014 年 11 月.
- 神田光荣・坂井信之 「香水が人物の印象形成に及ぼす影響」 日本味と匂学会第 45 回大会, 2011.
- 神田光荣・坂井信之 「人物の印象形成における香水の効果」 東北心理学会第 66 回大会, 2012.
- 神田光荣・大和久美紀・坂井信之 「柔軟剤の香りが人物の印象形成に及ぼす影響」 日本心理学会第 76 回大会,2012.
- 神田光荣・松井千笑・小野間統子・坂井信之 「食物の咀嚼回数やおいしさ評定における共食の影響」 日本味と匂学会第 46 回大会, 2012.
- 神田光荣・坂井信之 「香りによる人物の印象が瞳孔径の変化に及ぼす影響」 日本心理学会第 77 回大会, 2013.
- 神田光荣・坂井信之 「香りが人物の印象に与える影響—NIRS による検討—」 日本味と匂学会第 47 回大会, 2013.
- 神田光荣・坂井信之 「香りが顔の選好に及ぼす影響」 日本顔学会第 18 回大会, 2013.
- 神田敬幸・本多明生・柴田 寛・浅井暢子・寺本 渉・坂本修一・岩谷幸雄・行場次朗・鈴木陽一 「視聴覚コンテンツにおける臨場感・迫真性の規定因」 第 16 回日本バーチャルリアリティ学会大会, 2011.
- 神田敬幸・本多明生・柴田 寛・浅井暢子・寺本 渉・坂本修一・岩谷幸雄・行場次朗・鈴木陽一 「視聴覚コンテンツの臨場感と迫真性に関する実験的研究—シンバル演奏場面における視野制限と音圧レベルの効果—」 電子情報通信学会(ヒューマン情報処理研究会), 2011.
- 加藤ちあき・阿部恒之. 「携帯型ゲームの生理心理学的効果」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 川端壮康・小泉嘉子・桂 重樹・田村嘉勝 「大学教員の研究意欲に影響を及ぼす要因 (I) ~地方私立大学を対象として 大学教育学会第 37 回大会, 2015 年 6 月 (発表予定)
- 川嶋伸佳 「低階層者における社会的不平等の合理化機構: 不平等への敏感さの効果」 科学技術と日本人の価値意識第 2 回研究ワークショップ, 2010.
- 川嶋伸佳 「格差と公正感: 社会的不平等維持メカニズムの検討」 第 2 回公正研

- 研究会, 2010.
- 川嶋伸佳 「多元的公正感の要因：階層モデルと集団価値モデルの複合的効果」
社会的葛藤研究会第1回ワークショップ, 2010.
- 川嶋伸佳・大淵憲一 「社会的不平等と社会に対する知覚の関係」 東北心理学会第
64回大会, 2010.
- 川嶋伸佳・大淵憲一 「日本における不平等の合理化機構：社会に対する信念がマ
クロ公正感に及ぼす効果」 日本社会心理学会第51回大会, 2010.
- 川嶋伸佳 「ミクロ公正感の要因：社会的経済的地位と不公正への敏感さの効果」
法と心理学会第11回大会, 2010.
- 川嶋伸佳 「社会経済的地位に対する認知とミクロ公正感」 若手研究者のための
公正研究ワークショップ, 2011.
- 川嶋伸佳・大淵憲一 「階層帰属意識とミクロ公正感」 日本社会心理学会第52回
大会, 2011.
- 川嶋伸佳 「社会的不平等とミクロ公正感：公正関心の多様性の基づく検討」 日
本社会心理学会第52回大会ワークショップ「『関係性』に注目した公正概念
の検討—手続きなのか人間関係なのか—」, 2011.
- 慶野友祐・宮崎章夫 「処理モードの異なるスピーチ場面の想起が気分と想起内容
に与える影響」 東北心理学会第68回大会, 2014年11月.
- 菊地史倫・佐藤 拓 「嘘つきの代償—嘘の露見が弁解の効能に与える影響—」
日本認知心理学会第8回大会, 2010.
- 菊地史倫・佐藤 拓・阿部恒之 「ユーモア受入の余地—他者との関係性・状況の
影響—」 東北心理学会第64回大会, 2010.
- 菊地史倫・佐藤 拓・阿部恒之 「嘘の誤算—嘘の露見が弁解の効能に与える影響
—」 日本心理学会第74回大会, 2010.
- 北原 良・山田 毅・東山哲也・小山明子・坂井智美・立川絵理・外川江美 「身体イ
メージが個人の気分や行動に与える影響について」 日本犯罪心理学会第52
回大会, 2014年9月.
- 古橋徹也・森 丈弓・権蛇 明・大橋雅夫・津 富宏 「ミニシンポジウム 少
年保護手続における法務省式ケースアセスメントツール(MJCA)の有効性と
今後の課題」 日本犯罪心理学会第52回大会, 2014年.
- 小泉嘉子・川端壮康・桂 重樹・田村嘉勝 「大学教育の研究意欲に影響を及ぼ
す要因 (I) 地方小規模私立大学における調査を対象として」 日本教育心理
学会第56回総会, 2014年9月.

- 小嶋かおり・大淵憲一 「葛藤時の子どもの行動に対する親の原因帰属」 東北心理学会第 64 回大会, 2010 年 9 月.
- 小嶋かおり・大淵憲一 「対立者の動機推測と対人葛藤方略」 社会心理学会第 52 回大会, 2011 年 9 月.
- 小嶋かおり 「親への期待と葛藤時の原因帰属、関係満足度との関連性の検討」 東北心理学会第 66 回大会, 2012 年 7 月.
- 小嶋かおり・大淵憲一 「対人葛藤における動機推測が問題解決志向型方略を促す効果」 東北心理学会第 67 回大会, 2013 年 5 月.
- 権蛇 明・近藤日出夫・浦尾洋旭 「非行少年のリスクとレジリエンスに関する研究(5)」 日本犯罪心理学会第 50 回大会, 2012.
- 馬 艶青・阿部恒之 「身体意識尺度の作成」 日本感情心理学会第 22 回大会, 2014 年 5 月
- 蓑内絵梨・松原千春・森下洋子・海老原聡子・行場次朗 「環境色彩が居住者の感情状態及び周辺住民の印象評価に与える影響 - 色彩施行から約 1 年経過後のフォローアップスタディー」 日本認知心理学会第 12 回大会, 2014 年 6 月.
- 森 丈弓・高橋 哲・菅藤健一・丸山もゆる・相澤優・石黒裕子・内山八重・小野広明・吉澤淳・大淵憲一 「3 G リスクツールによる非行少年のリスクアセスメント(4)」 日本犯罪心理学会第 75 回大会 目白大学, 2010.
- 森 丈弓・高橋 哲・菅藤健一・三谷 厚・丸山もゆる・相澤 優・石黒裕子・内山八重・小野広明・吉澤淳・大淵憲一 「YLS による再犯予測テーブルの作成」 日本犯罪心理学会第 50 回大会, 2012.
- 森 丈弓・東山哲也・西田篤史 「法務省式ケースアセスメントツール(MJCA)に係る基礎的研究 I ~MJCA の開発及び信頼性・妥当性の検証~」 日本犯罪心理学会第 52 回大会, 2014 年.
- 森 丈弓・名取洋典・小崎茉貴 「SNS 疲れを測る(1) 受動的 SNS ストレスイベント尺度の作成」 日本心理学会第 78 回大会, 2014 年.
- 中俣友子・大淵憲一 「快・不快表情に対する接近回避反応」 北海道心理学会・東北心理学会合同第 11 回大会 (兼 北海道心理学会第 58 回大会、東北心理学会第 65 回大会) 2011.
- 中俣友子 「中学生の友人関係における怒り表出に関する研究—日本とオーストラリアの比較—」 日本心理学会第 75 回大会, 2011.
- 中俣友子・阿部恒之 「快・不快表情に対する反応 - 視線の動きに注目して-」 日本感情心理学会第 20 回大会, 2012.

- 中俣友子・阿部恒之 「単純作業における反応合理性」東北心理学会第 66 回大会・新潟心理学会第 49 回大会, 2012.
- 中俣友子・平野大二郎・阿部恒之 「ゴミの不法投棄抑制と嫌悪感情」 日本感情心理学会第 21 回大会, 2013.
- 中俣友子・阿部恒之 「人格を代表する身体・顔の部位——最期の別れでどこに触れるか」 日本顔学会第 18 回大会 (フォーラム顔学 2013), 2013 年 11 月
- 中俣友子・阿部恒之 「ゴミの不法投棄抑制に対する看板と環境の効果——名取川における現場実験」 日本社会心理学会第 54 回大会, 2013 年 11 月
- 中俣友子・阿部恒之 「現場実験によるゴミの不法投棄抑制要因の検討」 日本感情心理学会第 22 回大会, 2014 年 5 月.
- 中俣友子 「割れ窓理論再考：環境手がかりと状況的規範が秩序違反行為に与える影響」 日本心理学会第 78 回大会 (公募シンポジウム), 2014 年 9 月.
- 名取洋典・森 丈弓・小崎茉貴 「SNS 疲れを測る(2) 能動的 SNS ストレスイベント尺度の作成」 日本心理学会第 78 回大会, 2014 年.
- 夏堀百合奈 「社会的比較と課題習熟度が社会的促進に与える影響について」 東北心理学会第 66 回大会, 2012.
- 夏堀百合奈・大淵憲一 「社会的促進・抑制と社会的比較の関連について」 日本社会心理学会第 54 回大会, 2013.
- 西村 玲 「完全主義の類型と自己嫌悪感の関連」 東北心理学会第 66 回大会, 2012.
- 西村 玲・清水健司 「完全主義の類型と自己嫌悪感の関連 —非完全主義者という観点を加えて—」 日本心理学会第 76 回大会, 2012.
- 西村 玲・大淵憲一 「完全主義者における許容目標のあり方」 日本心理学会第 77 回大会, 2013.
- 小形佳祐・福野光輝 「嬉しい嘘を見抜けるか」 東北心理学会第 66 回大会, 2012.
- 小形佳祐・阿部恒之 「覚醒水準と唾液中コルチゾールのサーカディアンリズム—生活リズムの観点から—」 日本感情心理学会第 21 回大会, 2013.
- 小形佳祐・阿部恒之 「真偽判断に及ぼす制御焦点の影響」 日本感情心理学会第 22 回大会, 2014 年 6 月
- 小形佳祐・阿部恒之 「嘘検出における感度と反応バイアスの性差について」 日本心理学会第 78 回大会, 2014 年 9 月
- 小形佳祐・阿部恒之 「不信判断に対する制御焦点の影響」 東北心理学会第 68 回大会, 2014 年 11 月.

- 岡部梨奈子・森 丈弓・須藤 明 「大学生におけるサイバーストーキング被害の分析」 日本犯罪心理学会第 50 回大会,2012.
- 岡本吉生 「夫婦葛藤における妻の対処行動」 日本応用心理学会第 79 回大会, 2012.
- 岡本吉生 「知的障害のある犯罪者の支援：家族，地域，社会の連携から」 日本犯罪心理学会第 49 回大会, 2011.
- 岡本吉生・大淵憲一・安香 宏・瓜生 武・杉原紗千子・渡辺昭一 「犯罪心理学のこれまでとこれから」 日本犯罪心理学会第 50 回大会, 2012.
- 岡本吉生・岡本潤子 「離婚と子ども」 日本家族研究・家族療学会地域ワークショップ in 長崎, 2012.
- 岡本吉生・山口恵美子・棚村政行 「離婚と子どもの面会交流 —新しい家族臨床の課題を学ぶ—」 日本家族研究・家族療学会第 30 回東京大会ワークショップ, 2013.
- 岡本吉生・市村彰英・吉川好昭・須藤 明 「親の離婚を経験した子どもの成長に関する調査研究（その 1） —量的な観点から—」 日本家族研究・家族療学会, 2013 年 6 月.
- 岡本吉生・須藤 明・村尾泰弘・丸山泰弘 「刑事事件における情状鑑定の実情と課題」 日本司法福祉学会第 15 回大会, 2004 年.
- 小野間統子・渕本 潤・坂井信之 「ノンアルコール飲料による酩酊感の心理学的検討」 日本味と匂学会第 47 回大会, 2013.
- 大沼卓也・渕本 潤・坂井信之 「視覚的意思決定の初期段階における視線の偏り：注視パターン別の初回滞留時間の検討」 日本心理学会第 77 回大会, 2013.
- 大沼卓也・渕本 潤・坂井信之 「カテゴリーとしてのブランドが炭酸飲料のおいしさ評定に及ぼす影響」 日本味と匂学会第 47 回大会, 2013.
- 大沼卓也・荒木茂樹・坂井信之 「ワインボトルを用いた視線のカスケードモデルの検討」 日本感情心理学会第 21 回大会, 2013.
- 大沼卓也・坂井信之 「ロコミ情報がカレーのおいしさ評定に及ぼす影響」 東北心理学会第 67 回大会, 2013.
- 大沼卓也・渕本 潤・坂井信之 「視線のカスケードモデルの刺激特異性の検討」 日本顔学会第 18 回大会, 2013 年 11 月.
- 大沼卓也・坂井信之 「選択肢の空間的位置が注意と選好判断に及ぼす影響」 日本感情心理学会第 22 回大会, 2014 年 5 月.
- 大沼卓也・坂井信之 「ラットにおける味と匂いの連合学習と快不快価の転移」

- 日本味と匂学会第 48 回大会, 2014 年 10 月.
- 大沼卓也・坂井信之 「匂いと味の学習における組み合わせ特異性の検討」 東北心理学会第 68 回大会, 2014 年 11 月.
- ペンワンナクン ユワディー・坂井信之 「商品に対する消費者の知覚と評価における原産国効果 — タイの消費者を対象に —」 日本応用心理学会第 81 回大会, 2014 年.
- 李 佳容・阿部恒之 「日台の化粧習慣と美容意識」 北海道心理学会・東北心理学会 第 11 回合同大会, 2011.
- 李 佳容・阿部恒之 「化粧意識についての日台比較—半構造化面接を中心に—」 日本感情心理学会第 19 回大会・日本パーソナリティ心理学会第 20 回大会合同大会, 2011.
- 齋藤五大・巖島行雄 「知覚情報と事前知識が行為の意図理解に及ぼす影響の検討」 東北心理学会第 67 回大会, 2013.
- 齋藤五大・巖島行雄・大井 京・齋藤洋典 「動作の出現頻度の変化に対する「気づき」が動作理解に及ぼす影響」 日本認知心理学会第 11 回大会, 2013.
- 齋藤五大・巖島行雄・大井 京・齋藤洋典 「視覚情報と先行知識が動作の理解に及ぼす影響—NIRS を用いた動作の予期に関わる神経基盤の検討—」 日本心理学会第 77 回大会, 2013.
- 齋藤五大・行場次朗 「把持動作姿勢は視覚的注意を促進するか」 日本基礎心理学会第 32 回大会. 2013 年 12 月.
- 齋藤五大・行場次朗 「自分の手の向きが stream/bounce 知覚を変容する」 日本認知心理学会第 12 回大会. 2014 年 6 月.
- 齋藤五大・行場次朗 「手の自己受容感覚が双安定性をもつ視覚運動知覚をシフトする」 日本心理学会第 78 回大会. 2014 年 9 月.
- 齋藤五大・行場次朗 「手を合わせると反発知覚が増加する」 日本認知科学会第 31 回大会. 2014 年 9 月.
- 齋藤五大・竹島康博・立花 良・朝岡 陸・行場次朗・小泉政利 「語順選好による発話時の処理負荷に関する NIRS および視線計測を用いた検討 —日本語を対象とした予備的検討—」 東北心理学会第 68 回大会, 2014 年 11 月.
- 齋藤五大・行場次朗 「双安定性をもつ視覚運動知覚を変容させる手の位置の効果。」 電子情報通信学会 (HIP) . 2014 年 12 月.
- 齋藤愛雅・松岡和生 「色字共感覚(Grapheme-Color Synesthesia)の認知特性-日本語を含む検出テスト開発の試み-」 東北心理学会第 66 回大会, 2012.

- 齋藤愛雅・松岡和生 「色字共感覚(Grapheme-Color Synesthesia)の認知特性-共感覚者の創造的特性についての検討-」 日本イメージ心理学会第13回大会, 2012.
- 齋藤高史・大淵憲一 「日本人の葛藤回避における性差：親密性に注目して」 日本社会心理学会第51回大会, 2010.
- 齋藤高史・大淵憲一・川嶋伸佳 「日本人における社会的調和」. 東北心理学会第64回大会, 2010.
- 齋藤高史 「日本人における社会的調和価値：抗議行動と政治的コミュニケーションとの関連」 社会的葛藤研究会第1回ワークショップ, 2010.
- 齋藤高史 「日本人の葛藤回避と社会的調和価値：葛藤回避の抑制メカニズムを探る」 科学技術と日本人の価値意識第2回研究ワークショップ, 2010.
- 齋藤高史・山本雄大・大淵憲一 「携帯メールの即返行動：集合的勘違いか?」 日本社会心理学会第52回大会, 名古屋大学, 2011.
- 齋藤高史 「集合的勘違いが携帯メールの即返行動を促進するのか?」 社会的葛藤研究会第2回ワークショップ, 岩手県立大学, 2011.
- 齋藤高史・山本雄大・大淵憲一 「携帯メールの即返行動：集合的勘違いか?」 日本社会心理学会第52回大会, 2011.
- 坂本光司・神田光栄・坂井信之・永友茂美 「玄関における香りが女性の印象形成に及ぼす影響」 日本味と匂学会第46回大会, 2012.
- 櫻井研三・鈴木結花・坂本修一・行場次朗・鈴木陽一 「視覚と前庭覚のクロスモーダルな随伴性残効について」 電子情報通信学会（ヒューマン情報処理研究会）, 2010.
- 佐藤潤美・山本雄大・大淵憲一 「シングリズム：独身者差別は存在するか?」 日本社会心理学会第52回大会, 2011.
- 佐藤潤美・山本雄大・大淵憲一 「独身者差別における結婚関連信念の影響」 日本社会心理学会第53回大会, 2012.
- 佐藤潤美・山本雄大・大淵憲一 「独身者差別の国際比較研究」 日本社会心理学会第54回大会, 2013年11月.
- 関向諒太・岡本卓也・今井 章 「不決断傾向とサポートタイプが意思決定場面における情報探索にあたえる影響」 日本心理学会第77回大会, 2013.
- 関向諒太・阿部恒之 「地震防災準備行動への影響因の検討」 日本心理学会第78回大会, 2014年9月.
- 柴田 寛・乾 敏郎・小川健二 「社会的な文脈で行われる手の動作の理解における下前頭回の役割」 第34回日本神経科学大会, 2011.

- 柴田 寛・高橋純一・行場次朗 「立礼動作に対する主観的印象の検討」 日本認知科学会第 29 回大会, 2012.
- 柴田 寛・神田光荣・竹島康博・坂井信之 「運動後の視覚フィードバック処理に
関与する脳活動」 電子情報通信学会 (NC), 2014 年 3 月.
- 柴田理瑛・斉藤昂之・行場次朗 「断続音聴取時に生じる運動物体の速度知覚の
遅延」 日本認知心理学会第 8 回大会, 2010.
- 柴田理瑛・行場次朗 「断続的な聴覚刺激呈示が運動物体の速度知覚に及ぼす影
響」 日本感性福祉学会第 10 回大会, 2010.
- 設楽茉莉絵・河島三幸・阿部恒之 「ときめきは表情にあらわれるか」 日本心理
学会第 74 回大会, 2010.
- 設楽茉莉絵・河島三幸・阿部恒之 「ときめいている顔の表情と魅力」 東北心理
学会第 64 回大会, 2010.
- 庄子道生・坂井信之 「水素含有入浴剤の使用がヒトの心理と生理に及ぼす影響」
味と匂学会第 48 回大会, 2014 年 10 月.
- 庄子道生 「テキスト理解における図示の効果」 東北心理学会第 68 回大会, 2014
年 11 月.
- 生島 浩 「リスク・ファミリーの臨床」 日本家族研究・家族療法学会第 27 回
大会, 大会長講演, 2010.
- 孫 倩穎・阿部恒之 「中国人留学生の日本文化適応—日常習慣の変化—」 東北
心理学会第 68 回大会, 2014 年 11 月.
- 須藤 明・岡本吉生・村尾泰弘 「裁判員裁判における経験科学の寄与」 日本
犯罪心理学会第 50 回大会, 2012.
- 須佐一行・瀬戸口智裕・大西一起・外川江美 「性非行のリスク要因に関する一
研究」 日本犯罪心理学会第 51 回大会, 2013.
- 鈴木結花・寺本 渉・行場次朗 「多感覚情報の順序判断」 東北心理学会第 64 回
大会, 2010.
- 鈴木結花 「幼児を対象とした意味処理に関する ERP 研究 (ワークショップ「幼児
期の認知発達とその脳内機構の探求: ERP, MRI, NIRS を用いた試み」 日本
心理学会第 74 回大会, 2010.
- 鈴木結花・河地庸介 「触運動知覚を変容させる聴覚・触覚刺激の時間特性」 第
2 回多感覚研究会, 2010.
- 鈴木結花・河地庸介 「運動情報のない聴覚刺激による触覚運動知覚の変容」 日
本基礎心理学会第 29 回大会, 2010.

- 立花 良・川畑秀明 「ミスディレクションによる視覚的注意の検討」 東北心理学会第 67 回大会, 2013.
- 立花 良・川畑秀明 「ミスディレクションが変化の検出に及ぼす影響」 日本認知心理学会第 11 回大会, 2013.
- 立花 良・川畑秀明 「Social misdirection がトリック検出に及ぼす影響」 日本心理学会第 77 回大会, 2013.
- 立花 良・川畑秀明 「トリック検出におけるソーシャルミスディレクションの影響 ～検出群と非検出群の違い～」 電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会 (HIP), 2013 年 10 月.
- 立花 良・行場次朗 「異なるミスディレクションにおける変化検出率の比較」 日本基礎心理学会第 32 回大会, 2013 年 12 月.
- 立花 良・行場次朗 「異なる種類のミスディレクションにおける変化検出の比較」 日本心理学会「注意と認知」研究会 第 12 回合宿研究会, 2014 年 3 月.
- 立花 良・行場次朗 「ミスディレクションによる視覚的注意の検討とその応用」 知覚・認知・感性心理学の動向研究会, 2014 年 3 月.
- 立花 良・行場次朗 「どのような手品が視覚的注意をより誘導するか」 日本認知心理学会第 12 回大会, 2014 年 6 月.
- 立花 良・行場次朗 「自然情景画像における人物検出の検討」 日本基礎心理学会第 33 回大会, 2014 年 12 月.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「拡大/縮小運動によって変容する視覚的短期記憶」 日本認知心理学会第 8 回大会, 2010.
- 高橋純一・日高聡太・寺本 渉・行場次朗 「視覚表象の符号化に要する情報負荷量が反復の見落とし現象に及ぼす影響」 日本イメージ心理学会第 11 回大会, 2010.
- 高橋純一・日高聡太・寺本 渉・行場次朗 「視覚刺激の冗長度が反復の見落とし現象に及ぼす影響とその時間特性に関する検討」 日本心理学会第 74 回大会, 2010.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「視覚パターン認知に影響を及ぼす主要な感性因子の推定」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「視覚的短期記憶を変容させる拡大/縮小運動」 電子情報通信学会 (HIP), 2010.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「拡大/縮小運動が視覚的短期記憶に及ぼす影響

- とその時間特性の検討」 日本感性福祉学会第 10 回大会, 2010.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「視覚的短期記憶の保持時間に依存して変容する拡大・縮小運動情報の優位性」 日本基礎心理学会第 29 回大会, 2010.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「視覚的選好 (visual preference) に依存して変容する視覚的短期記憶」 日本認知心理学会第 9 回大会, 2011.
- 高橋純一・行場次朗 「健常大学生を対象とした自閉症スペクトラム指数における視覚的短期記憶容量の違い」 日本教育心理学会第 53 回大会, 2011.
- 高橋純一・行場次朗 「視覚表象と聴覚表象の長期持続性の違いについて」 東北心理学会第 65 回大会, 2011.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「拡大/縮小運動情報に依存して変容する視覚的短期記憶容量」 日本心理学会第 75 回大会, 2011.
- 高橋純一・行場次朗 「健常大学生を対象とした自閉症スペクトラム指数と視覚的短期記憶容量の関連」 電子情報通信学会 (HIP), 2011.
- 高橋純一・日高聡太・寺本 渉・行場次朗 「視覚パターンの情報負荷量が視覚表象の符号化および記憶保持過程に及ぼす非対称的な影響—反復の見落とし現象を指標として—」 日本基礎心理学会第 30 回大会, 2011.
- 高橋純一・行場次朗・山脇望美 「健常者における自閉症スペクトラム指数と視覚的短期記憶容量」 日本認知心理学会第 10 回大会, 2012.
- 高橋純一・行場次朗・山脇望美 「健常大学生における自閉症スペクトラム指数と視覚的短期記憶容量の個人差」 東北心理学会第 66 回大会, 2012.
- 高橋純一・安永大地 「心的イメージ鮮明性の個人差と仮現運動:ERP を指標として」 日本イメージ心理学会第 13 回大会, 2012.
- 高橋純一 「低出生体重児の認知特性の解明と発達支援への応用」 日本特殊教育学会第 51 回大会自主シンポジウム, 2013.
- 高橋純一・玉木宏樹・鶴巻正子 「発達障害/発達障害が疑われる児童の心的操作に関する予備的検討」 日本認知心理学会第 11 回大会, 2013.
- 高橋純一・村井諒平・平野智久・行場次朗 「視覚情報処理段階に依存して変容するネガティブ顔/ポジティブ顔優位性効果」 東北心理学会第 66 回大会, 2013.
- 高橋純一・玉木宏樹・山脇望美 「健常大学生を対象とした自閉症スペクトラム指数及び愛着スタイルの個人差と社会スキルとの関連」 電子情報通信学会 (HIP), 2012.
- 高橋 哲・森 丈弓・角田 亮・岡部梨奈子 「矯正施設における処遇プログラムの効果検証を巡る諸問題(3)」, 日本犯罪心理学会第 50 回大会, 2012.

- 玉木宏樹・高橋純一 「大学生の愛着スタイルとソーシャルスキルとの関連」 東北心理学会第 66 回大会, 2012.
- 竹島康博・行場次朗・柴田理瑛 「速度錯覚における視聴覚相互作用の検討」 日本認知心理学会第 8 回大会, 2010.
- 竹島康博・行場次朗 「聴覚刺激によって生じる大きさ錯視」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 竹島康博・行場次朗 「聴覚刺激によって引き起こされる大きさ錯視」 電子情報通信学会 (HIP), 2010.
- 竹島康博・行場次朗 「情報負荷量が分裂錯覚 (“fission” illusion) の生起に与える影響の検討」 日本基礎心理学会第 29 回大会, 2010.
- 竹島康博・行場次朗 「視覚刺激形状の情報負荷量操作による分裂錯覚の特性の検討」 第 2 回多感覚研究会, 2010.
- 竹島康博・行場次朗 「視聴覚相互作用による大きさ錯視」 日本認知心理学会第 9 回大会, 2011.
- 竹島康博・行場次朗 「視聴覚統合が即時数量把握に及ぼす影響」 北海道・東北心理学会第 11 回合同大会, 2011.
- 竹島康博・行場次朗 「知覚処理効率に依存して生起する分裂錯覚」 日本心理学会第 75 回大会, 2011. 竹島康博・行場次朗. 「課題によって変容する聴覚手掛りと視覚手掛りの処理促進効果」 日本基礎心理学会第 30 回大会, 2011.
- 竹島康博・行場次朗 「数量把握処理に聴覚刺激が与える影響」 第 3 回多感覚研究会, 2012.
- 竹島康博・行場次朗 「視覚パターンの複雑さの操作が分裂錯覚に与える影響」 電子情報通信学会 (HIP), 2012.
- 竹島康博・行場次朗 「聴覚情報によって変容する視覚運動軌道」 日本認知心理学会第 10 回大会, 2012.
- 竹島康博・行場次朗 「聴覚刺激のピッチ変化が引き起こす視覚運動軌道錯覚」 東北心理学会第 66 回大会・新潟心理学会第 49 回大会合同大会, 2012.
- 竹島康博・行場次朗 「聴覚刺激が注意の瞬きに与える影響における視野非対称性」 日本心理学会第 76 回大会, 2012.
- 竹島康博・行場次朗 「音による視覚表象形成の促進効果と物体構成要素数との関連」 日本イメージ心理学会第 13 回大会, 2012.
- 竹島康博・行場次朗 「視聴覚統合における視覚表象形成における視野非対称性」 日本基礎心理学会第 31 回大会, 2012.

- 竹島康博・行場次朗 「視聴覚統合における時空間処理の視野非対称性」 電子情報通信学会 (HIP), 2012.
- 竹島康博・行場次朗 「聴覚刺激によって変容する物体の大きさ知覚」 第4回多感覚研究会, 2012.
- 竹島康博・行場次朗 「物体構成要素数による処理負荷が視聴覚統合に与える影響」 東北心理学会第67回大会, 2013.
- 竹島康博・行場次朗 「聴覚刺激による即時数量把握処理の促進効果」 日本認知心理学会第11回大会, 2013.
- 竹島康博・行場次朗 「視覚と聴覚による注意誘導／誘引が及ぼす影響の違い」 日本心理学会第77回大会, 2013.
- 竹島康博・行場次朗 「即時の把握と数え上げ処理を促進させる視聴覚相互作用」 電子情報通信学会 (HIP), 2013年11月.
- 竹島康博・行場次朗 「視聴覚統合による促進効果における物体数による違い」 第5回多感覚研究会, 2013年11月.
- 竹島康博・行場次朗 「幾何学図形を用いた知覚前情動処理による知覚促進」 日本基礎心理学会第32回大会, 2013年12月.
- 竹島康博・行場次朗 「前知覚的情動処理によるターゲット検出の促進効果」 日本認知心理学会第12回大会, 2014年6月.
- 竹島康博・行場次朗 「視覚刺激の空間周波数は視聴覚間の同期時間窓を変容させる」 日本心理学会第78回大会, 2014年9月.
- 竹島康博・齋藤五大・朝岡 陸・立花 良・行場次朗・小泉政利 「語順選好による発話時の処理負荷に関する NIRS および視線計測を用いた検討 ―カクチケル語を対象とした検討―」 東北心理学会第68回大会, 2014年11月.
- 竹島康博・行場次朗 「幾何学図形により駆動される前知覚的情動処理による視覚処理の促進効果」 電子情報通信学会 (HIP), 2014年3月.
- 竹島康博・行場次朗 「Hemispheric asymmetry in the auditory facilitation effect in dual-stream rapid serial visual presentation tasks」 日本基礎心理学会第33回大会サテライトオーラルセッション, 2014年12月.
- 竹島康博・行場次朗 「分裂錯覚の生起に影響を与える視覚刺激の特性」 日本基礎心理学会第33回大会, 2014年12月.
- 勅使河原麻衣・渥美恵美 「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤：学生の悩みとの関連性」 日本リハビリテーション学校協会第23回教育研究大会・教員研修会, 2010.

- 手島啓文・大淵憲一 「プライミングが道徳的行動に与える効果の心理学的検討」
東北心理学会第 67 回大会, 2013.
- 手島啓文・大淵憲一 「プライミングが道徳性に与える効果の心理学的検討」
日本社会心理学会第 54 回大会, 2013 年 11 月.
- 手島啓文・大淵憲一 「昔話の映像呈示が道徳性に与える効果の心理学的検討」
日本社会心理学会第 55 回大会, 2014 年 7 月.
- 手島啓文・大淵憲一 「昔話映像が道徳関連語アクセシビリティに与える効果の
検討」 東北心理学会第 68 回大会, 2014 年 11 月.
- 外川江美・井上愛弓・坂井智美・立川絵理 「性非行の理解について」 日本犯罪心
理学会第 52 回大会, 2014 年 9.
- 上原俊介・中川知宏・森 丈弓 「怒り表出における絆促進の規定因とその効果」
東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 上原俊介・国佐勇輔・岩淵絵里 「義憤としての怒りを探る：拉致行為に対する怒
り喚起反応の差異」 日本社会心理学会第 51 回大会, 2010.
- 上原俊介・中川知宏・国佐勇輔・岩淵絵里 「道徳的違反に対する怒り：義憤の怒
りを規定する状況要因の検討」 日本社会心理学会第 52 回大会, 2011.
- 上原俊介・中川知宏・国佐勇輔・岩淵絵里 「道徳的違反に対する怒り：義憤の怒
りを規定する状況要因の検討」 日本社会心理学会第 52 回大会, 2011.
- 上原俊介・中川知宏・田村 達 「道徳的違反に対する義憤としての怒り感情：
Justice Sensitivity は義憤を喚起させるか？」 日本社会心理学会第 52 回大会,
2012.
- 上原俊介・中川知宏・田村 達・森 丈弓・小形佳祐 「何が義憤の怒りを生起
させるか？公正と配慮の道徳観」 東北心理学会第 67 回大会, 2013.
- 上原俊介・中川知宏・田村 達・小形佳祐・齋藤五大 「怒りと道徳的違反の知
覚：危害の正当性と義憤および私憤に対するその影響」 日本心理学会第 77
回大会, 2013.
- 浦尾洋旭・小粥展生・雨宮一洋・天野史織・竹内由希・射場優子・近藤日出夫 「非
行少年のリスクとレジリエンスに関する研究(6)」 日本犯罪心理学会第 50 回
大会, 2012.
- Wiwattanapantuwong, J., ・阿部恒之 「防災意識の国際比較研究」 東北心理学会第
24 回大会, 2010.
- Wiwattanapantuwong, J. ・阿部恒之 「防災意識に与える被災感情の影響—タイにお
ける面接調査—」 北海道心理学会・東北心理学会第 11 回大会, 2011.

- Wiwattanapantuwong, J.・阿部恒之 「被災感情が防災意識に与える影響—日本とタイの国際比較—」 日本感情心理学会第 19 回・日本パーソナリティ心理学会第 20 回合同大会, 2011.
- Wiwattanapantuwong J.・本多明生・阿部恒之 「東日本大震災における逸脱行動とその許容性に関する実態調査」日本心理学会第 76 回大会, 専修大学生田キャンパス, 2012.
- Wiwattanapantuwong J.・張 燕・本多明生・阿部恒之 「韓国における東日本大震災の評価」東北心理学会第 66 回大会 新潟心理学会第 49 回大会, 新潟大学, 2012.
- Wiwattanapantuwong J.・本多明生・阿部恒之 「東日本大震災の復興活動に対する感情評価」日本感情心理学会第 20 回大会, 神戸大学, 2012.
- Wiwattanapantuwong J.・本多明生・阿部恒之 「東日本大震災・復興活動に対する感情的地域差」日本感情心理学会第 21 回大会, 東北大学, 2013.
- Wiwattanapantuwong, J.・阿部恒之 「逸脱行動に対する感情評価の検討—災害時の創発規範—」 日本感情心理学会第 22 回大会, 2014 年 5 月
- 山本麻奈・森 丈弓・牛木潤子 「薬物事犯受刑者の対処スキルと再犯との関連について」 日本犯罪心理学会第 50 回大会, 2012.
- 山本麻奈・森 丈弓・牛木潤子 「薬物事犯受刑者における自尊感情と再犯との関連について」 日本犯罪心理学会第 52 回大会, 2014 年.
- 山本雄大・佐藤潤美・大淵憲一 「喫煙者に対する否定的ステレオタイプと差別」東北心理学会第 66 回大会, 2012.
- 山本雄大・佐藤潤美 「シングリズムに対する結婚の制御可能性認知の影響」 日本応用心理学会第 79 回大会, 2012.
- 山本雄大・佐藤潤美・大淵憲一 「喫煙者に対する否定的ステレオタイプと差別」日本社会心理学会第 53 回大会, 2012.
- 山本雄大・佐藤潤美・大淵憲一 「婚姻が階層帰属意識に与える影響」 日本社会心理学会第 54 回大会, 2013 年 11 月.
- 山脇望美・大淵憲一 「CRTA による攻撃性の測定」北海道心理学会・東北心理学会第 11 回大会, 2011.
- 山脇望美・高橋純一・畠山孝男 「健常大学生を対象とした自閉症スペクトラム指数と視覚イメージ鮮明性との関連」 日本イメージ心理学会第 13 回大会, 2012.
- 姚 佳・井戸田博樹・原田 章 「インターネットのロコミが購買行動に及ぼす

影響—女子学生の化粧品購買のアンケート調査から— 経営情報学会全国
研究発表大会, 2014年6月.

(3) その他

クララ・E・ヒル著「ヘルピングスキル：探求・洞察・行動のためのこころの援助
法」金子書房（藤生英行・岡本吉生・下村英雄・柿井俊明訳）、12～17章（195
～287ページ）を訳出, 2014年9月.

3 大学院生・学部生の受賞状況

2010年度

高橋純一 (DC) 日本基礎心理学会第29回大会優秀発表賞

2011年度

遠藤光男(DC)他 日本基礎心理学会優秀論文賞

2012年度

高橋純一(DC)他 第10回日本認知心理学会優秀発表賞（総合性評価部門）

竹島康博(DC) 日本基礎心理学会第31回大会優秀発表賞

柿崎星哉 日本基礎心理学会第31回大会優秀発表賞

2013年度

Wiwattanapantuwong Juthatip 他 日本感情心理学会第21回大会独創研究賞

中俣友子・平野大二郎・阿部恒之 日本感情心理学会第21回大会発表賞（グ
ッド・プレゼンテーション賞）

中俣友子・阿部恒之 日本顔学会第18回大会（フォーラム顔学2013）原島賞

2014年度

関向諒太・阿部恒之 日本心理学会第78回大会優秀発表賞

2015年度

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

2010年度 1名 (DC1 1名、DC2 0名、PD 0名)

2011年度 2名 (DC1 0名、DC2 0名、PD 2名)

2012年度 1名 (DC1 1名、DC2 0名、PD 0名)

2013年度 1名 (DC1 0名、DC2 0名、PD 1名)

2014年度 0名 (DC1 0名、DC2 0名、PD 0名)

2015年度 2名 (DC1 1名、DC2 0名、PD 1名)

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2013年度 学部 計1名 ハワイ大学 (アメリカ合衆国)

5-2 留学生の受け入れ状況 (学部・大学院)

年度	学部	大学院	計
10	1	1	2
11	1	4	5
12	0	3	3
13	1	4	5
14	1	4	5
15	4	1	5
計	8	17	25

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
10	0	2	2
11	0	4	4
12	0	1	1
13	0	0	0
14	0	1	1
15	0	2	2
計	0	10	10

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

中川知宏 (近畿大学) 2010年度

渥美恵美 (東北福祉大学) 2010年度

柴田理瑛 (東北福祉大学) 2010年度

川嶋伸佳 (東北大学) 2011年度

柴田 寛 (東北文化学園大学) 2012年度

鈴木結花 (東北大学) 2012年度

柏瀬啓起（日産自動車電子電装開発研究所）2012年度
遠藤光男（琉球大学）2013年度
鈴木結花（株式会社花王ビューティサイエンス研究所）2013年度
上原俊介（東北大学）2013年度
本吉 勇（東京大学教養学部大学院総合文化研究科）2013年度
本多明生（山梨英和学院大学）2014年度
高橋純一（福島大学）2014年度
今野晃嗣（帝京科学大学アニマルサイエンス学科）2014年度
引地博之（千葉大学）2014年度
川嶋伸佳（京都文教大学）2014年度
引地博之（Harvard T. H. Chan School of Public Health）2015年度
森 丈弓（甲南女子大学）2015年度
竹島康博（文京学院大学）2015年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人（2010年度～2015年5月20日）

2010年度 0名
2011年度 1名
2012年度 0名
2013年度 5名
2014年度 5名
2015年度 0名

8 客員研究員の受け入れ状況（2010年度～2015年度）

2010年度 0名
2011年度 0名
2012年度 0名
2013年度 1名
2014年度 3名
2015年度 1名

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

Tohoku Psychologica Folia (年刊)

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

東北心理学会事務局 (1949 年度～2013 年度)

東北グループダイナミクス研究会 (1990 年度～現在)

日本認定心理士会北海道・東北支部事務局 (2012 年度～2014 年度)

12 専攻分野主催の研究会等活動状況

国際多感覚研究フォーラム (2011 年 10 月 17～20 日)

日本イメージ心理学会第 13 回大会 (2012 年 9 月 29～30 日)

日本認知科学会第 29 回大会 (2012 年 12 月 13～15 日)

日本感情心理学会第 21 回大会 (2013 年 5 月 11～12 日)

日本顔学会第 18 回大会 (2013 年 11 月 9～10 日)

日本認知心理学会第 12 回大会 (2014 年 6 月 28～29 日)

日本犯罪心理学会第 53 回大会 (2015 年 9 月 26～27 日)

13 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

心理学専攻分野としての研究活動、教育活動ともに、毎年、着実な努力と進展がみられる。2010 年度から 2015 年度まで、学部学生、大学院生は文学部・文学研究科内で最も所属院生・学生数が多い専攻分野の一つである。

1933 年以来、心理学研究室では、日本で最も古い欧文心理学学術誌として『Tohoku Psychologica Folia』誌を刊行している。2015 年で、巻数は 74 巻を数える。本誌は、古くから心理学の国際的抄録誌『Psychological Abstracts』の収録対象誌であり、同時にデータベース『PsycLIT』の収録対象誌になっている。海外からの投稿論文も掲載されている。継続的な国際発信の努力のあらわれであるといえる。

心理学専攻分野では、教員の研究は質量ともに優れた水準にあり、その結果は教育に効果的に反映されている。幸い現在、教員定員 6 名がすべて充足されているために、学生の研究のニーズに応じられる教育領域の幅広さが確保されている。

課程博士の授与数は 2010 年度から昨年度まで 12 名であり、毎年、後期課程の定員 3 にほぼ見合った数の課程博士を輩出している。

大学院生が国際学会において発表を行った件数は合計 69 件に及び、文学研究科でも突出している。これは、国内の各大学が国際学会を開催する努力をしてきたことにも起

因するが、自発的に国外で発表を行う大学院生の増加をも反映しているといえる。2010～15年の間に、9名の大学院生（のべ人数）がそれぞれの学会で学会賞を受賞したことは、特筆に価する。社会人大学院生も、大学教員のほか、医師、看護師、矯正関係機関など近接領域からの入学もみられる。

国外からの留学生も学部学生、大学院生とも例年コンスタントに受け入れており、国際貢献を果たしている。特に全学的な学術交流協定対象大学であるモスクワ国立大学とは、教員レベル・学生レベルでの交流に積極的に取り組み、全学的な活動方針を具体化している。

官公庁や産業界、自治体、教育界からの貢献の要請にも、共同研究や研修講師、講演および特別講義、各種委員などのさまざまなかたちで、十二分に応えている。

Ⅲ 教員の研究活動（2010年度～2015年5月20日）

1 教員の論文発表等

1-1 論文

大淵憲一教授

大淵憲一 「日本思想からみた正義・公正観念：社会心理学的検討。平成19年度～21年度科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究、課題番号19653060）研究成果報告書」2010年3月。

大淵憲一「家族と暴力：現代日本の「車輪の下」」『家族療法研究』第27巻, 227-233, 2010年4月。

Ohbuchi, K., & Atsumi, E. 「Avoidance brings Japanese employees what they care about in conflict management: Its functionality and “Good Member” image」『Negotiation and Conflict Management』, 第3巻, 117-129, 2010年5月

大淵憲一 「民族間の融和は可能か：接触仮説の可能性」『TASC Monthly』, 第414号, 8-13, 2010年6月。

大淵憲一「反社会性の行動遺伝学」『青少年問題』第57巻（秋季号、No. 640）, 2-7, 2010年10月。

Takaku, S., Green, J. D., & Ohbuchi, K. 「A cross-national examination of the perpetrator-victim account estimation bias as a function of different types of accounts」『Asian Journal of Social Psychology』, 第13巻, 274-285, 2010年12月。

大淵憲一「日本における社会階層と価値観」『東北大学文学研究科年報』60巻, 107-128, 2010年（2011年1月刊行）。

Saito, T., & Ohbuchi, K. 「Gender differences in Japanese conflict avoidance: An

- interpretation from closeness」『Tohoku Psychologica Folia』第 69 卷, 1-7, 2010 年 (2011 年 3 月刊行) .
- Uehara, S., Nakagawa, T., Komatsu, S., & Ohbuchi, K. 「The role of social anxiety in anger against norm violations」『Tohoku Psychologica Folia』第 69 卷, 40-52, 2010 年 (2011 年 3 月刊行) .
- 渥美恵美・大淵憲一 「作業療法学生の社会的スキル学習に対する臨床実習の効果」『応用心理学研究』, 第 36 卷, 114-123, 2011 年 3 月.
- 渥美恵美・大淵憲一・勅使河原麻衣「社会的交流技能自己評価尺度の妥当性の検証—臨床実習指導者評価を用いて」『感性福祉研究所年報』第 12 卷, 163-174, 2011 年 3 月.
- 上原俊介・船木真悟・大淵憲一. 「関係規範の違反に対する怒り感情: 人間関係タイプ、欲求の関係特異性、及び欲求伝達の影響」『実験社会心理学研究』第 51 卷, 32-42, 2011 年 8 月.
- 上原俊介・中川知宏・森丈弓・国佐勇輔・大淵憲一「怒りの動機を規定する人格要因: 共有的志向性の影響」『文化』第 75 卷, 40-55, 2011 年 12 月.
- 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子「多元的公正感と抗議行動: 社会不変信念、社会的効力感、変革コストの影響」『社会心理学研究』第 27 卷, 63-74, 2011 年 (2012 年 1 月刊行) .
- 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子「社会的不平等とマイクロ公正感: 不公正感受性の効果」『法と心理』第 11 卷, 47-57, 2011 年 11 月.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Mori, T., Shimizu, K., & Ohbuchi, K. 「Dispositional determinant of anger at norm violations: Does it reflect an individual's selective responsibility for needs?」『Tohoku Psychologica Folia』第 70 卷, 10-20, 2011 年 (2012 年 3 月刊行) .
- 上原俊介・中川知宏・森丈弓・清水かな子・大淵憲一「関係規範の違反に対するシグナルとしての怒り感情: 知覚された欲求責任違反の媒介的役割」『社会心理学研究』第 27 卷, 161-173, 2012 年 3 月.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Mori, T., & Ohbuchi, K. 「When does anger evoke self-interest and fairness motives? The moderating effects of perceived responsibility for needs」『Japanese Psychological Research』第 54 卷, 137-149, 2012 年 5 月.
- Yamamoto, T., & Ohbuchi, K. 「Negative Effects of the Exposure to Benevolent Sexism on Women's Task Performance」『Tohoku Psychologica Folia』第 70 卷, 36-43, 2011 年 (2012 年 3 月刊行) .

- 八田武俊・大淵憲一・八田純子「日本語版怒り反すう尺度作成の試み」『応用心理学研究』第38巻, 231-238, 2013年3月.
- Hatta, T., & Ohbuchi, K. 「The effects of spatial distance spreading on social presence, negotiation continuation norm and exit behavior in the electronic negotiation」『Journal of Media and Communication Studies』第5巻, 52-55, 2013年5月.
- 大淵憲一「心理学における正義研究パラダイム」『法社会学』第78巻, 74-83, 2013年3月.
- Saito, T., & Ohbuchi, K. 「Who suffers pluralistic ignorance of conflict avoidance among Japanese? Individual differences in the value of social harmony」『International Journal of Conflict Management』第24巻, 112-125, 2013年5月.
- Takada, N., & Ohbuchi, K. 「True and hollow forgiveness, forgiveness motives, and conflict resolution」『International Journal of Conflict Management』第24巻, 184-200, 2013年5月.
- 山脇望美・山本雄大・熊谷智博・大淵憲一「攻撃性の顕在的・潜在的測度による攻撃行動の予測」『社会心理学研究』, 29, 25-31. 2013年8月.
- 大淵憲一「日本重大犯罪案件青少年の心理学的角度分析」『2014年暴力與毒品犯罪心理與矯治兩岸／国際学術研究会大会手冊』19-29, 2014年5月.
- Ohbuchi, K., & Kondo, H. 「Psychological analysis of serious juvenile violence in Japan」『Asian Journal of Criminology』DOI 10.1007/s11417-014-9199-1, 2014年12月.
- 山本雄大・佐藤潤美・大淵憲一「喫煙者に対する否定的評価と差別」『心理学研究』, 85, 121-129, 2014年6月.
- 大淵憲一「伝統的価値観の国際比較：日本、韓国、中国、米国における神道的価値観」『文化』, 78 (1,2), 42-109, 2014年10月.
- 大淵憲一「伝統的価値観（仏教、儒教、神道）の国際比較：価値観支持率を指標とする分析」『東北大学文学研究科年報』, 64, 65-86, 2014年12月.
- 川端壮康・大淵憲一「大学生における非表出性攻撃と抑うつの関係について：社会的情報処理モデルの立場から」『尚綱学院大学紀要』, 68, 91-101, 2014年12月.
- 大淵憲一「伝統的価値観の国際比較：日本、韓国、中国、米国における仏教的価値観」『東北文化研究室紀要』, 56, 1-20, 2015年3月.
- 渥美恵美・勅使河原麻衣・大淵憲一「作業療法学生の適性評価尺度作成の試み」『リハビリテーション教育研究』, 20, 98-99, 2015年2月.
- 川端壮康・大淵憲一「抑うつの認知的歪みが攻撃性を促進するメカニズムにつ

いて：共感性の影響を踏まえて」 『尚絅学院大学紀要』, 69 (掲載予定)

行場次朗教授

Shibata, M., Kawachi, Y., & Gyoba J. 「Combined effects of perceptual grouping cues on object representation: Evidence from motion-induced blindness」 『Attention, Perception, & Psychophysics』, 72, 387-397, 2010年2月.

Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「Effects of development and non-native language exposure on the semantic processing of native language in preschoolers」 『Tohoku Psychologica Folia』, 69, . 53-60, 2010年3月.

Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「The auditory velocity illusion by sounds of different intensities」 『Tohoku Psychologica Folia』, 69, 53-60, 2010年3月.

寺本 渉・吉田和博・浅井暢子・日高聡太・行場次朗・鈴木陽一 「臨場感の素朴な理解」 『日本バーチャルリアリティ学会論文誌』, 15, 7-16, 2010年3月.

Teramoto, W., Manaka, Y., Hidaka, S., Sugita, Y., Miyauchi, R., Sakamoto, S., Gyoba, J., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. 「Visual motion perception induced by sounds in vertical plane」 『Neuroscience Letters』, 479, 221-225, 2010年8月.

Hidaka, S., Teramoto, W., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Sound can prolong the visible persistence of moving visual objects」 『Vision Research』, 50, 2093-2099, 2010年9月.

Shibata, M., Kawachi, Y., Yairi, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「A short noise burst can trigger the release of motion-induced blindness」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』, 29, 85-86, 2010年9月.

寺本 渉・吉田和博・日高聡太・浅井暢子・行場次朗・坂本修一・岩谷幸雄・鈴木陽一 「「迫真性」を規定する時空間情報」 『日本バーチャルリアリティ学会論文誌』, 15, 483-486, 9月 2010.

Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Auditory temporal cues can modulate visual representational momentum」 『Attention, Perception & Psychophysics』, 72, 2215-2226, 2010年11月.

Dailey, M.N., Joyce, C., Lyons, M.J., Kamachi, M., Ishi, H., Gyoba, J., & Cottrell, G.W. 「Evidence and a Computational Explanation of Cultural Differences in Facial Expression Recognition」 『Emotion』, 10, 874-893, 2010年12月.

Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi,

- M. 「Effects of non-native language exposure on the semantic processing of native language in preschool children」 『Neuroscience Research』 , 69, 246-251, 2011 年 3 月.
- Kawachi, Y., Kawabe, T., & Gyoba, J. 「Stream/bounce event perception reveals a temporal limit of motion correspondence based on surface feature over space and time」 『i-Perception』 , 2, 428-439, 2011 年 5 月.
- Inaba, Y., Kobayashi, R., Ishi, H., Gyoba, J., & Akamatsu, S. 「Impression Transformation of 3D Face Based On Morphable 3D Model of Face and Semantic Differential Method」 『画像電子学会誌』 40, 96-104, 2011 年 8 月.
- Kawabata, H., & Gyoba, J. 「Infants' perception of concavity and convexity of shaded objects」 『Japanese Psychological Research』 , 53, 312-318, 2011 年 9 月.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「Modification of velocity perception by loud sounds」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』 , The Japanese Journal of Psychonomic Science. 30, 19-24, 2011 年 9 月.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Different effects of expanding/contracting motion on visual short-term memory」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science (Summary of Awarded Presentation)』 , The Japanese Journal of Psychonomic Science. 30, 139-140, 2011 年 9 月.
- Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「Effects of sound on the tactile perception of roughness in peri-head space」 『Seeing and Perceiving』 , 24, 471-483, 2011 年 9 月.
- Hidaka, S., Nagai, M., Sekuler, A. B., Bennett, P. J., & Gyoba, J. 「Inhibition of target detection in apparent motion trajectory」 『Journal of Vision』 , 11, 1-12, 2011 年 9 月.
- Kawachi, Y., Kawabata, H., Suzuki, M., Shibata, M., Imaizumi, O., & Gyoba, J. 「Topographic distribution of brain activities corresponding to psychological structures underlying affective meanings: An fMRI study.」 『Japanese Psychological Research』 , 53, 361-371, 2011 年 11 月.
- Shibata, H., Gyoba, J., & Takeshima, Y. 「Perception of the end position of a limb loaded with a weigh」 『Attention, Perception, & Psychophysics』 , 74, 225-238, 2012 年 1 月.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Internal criteria underlying affective responses to visual patterns」 『Gestalt Theory』 , 34, 67-80, 2012 年 3 月.
- Teramoto, W., Hidaka, S., Sugita, Y., Sakamoto, S., Gyoba, J., Iwaya, Y., & Suzuki, Y.

- 「Sounds can alter the perceived direction of a moving visual object」 『Journal of Vision』 , 12, 1-12, 2012 年 3 月.
- Hidaka, S., Shibata, H., Kurihara, M., Tanaka, A., Konno, A., Maruyama, S., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「Effect of second language exposure on brain activity for language processing among preschoolers」 『Neuroscience Research』 , 73, 73-79, 2012 年 5 月.
- Takahashi, J., & Gyoba, J. 「Self-rated autistic-like traits and capacity of visual working memory」 『Psychological Reports』 , 110, 879-890, 2012 年 6 月.
- Teramoto, W., Sakamoto, S., Furune, F., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Compression of auditory space during forward self-motion. 」 『PLoS ONE』 , 7, 1-7, 2012 年 6 月.
- 行場次朗・寺本 渉 「臨場感と迫真性」 『映像情報メディア学会誌』 , 66, 561-563, 2012 年 7 月.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「Changing Pitch of Sounds Alters Perceived Visual Motion Trajectory」 『Multisensory Research』 , 26, 317-332, 2013 年 1 月.
- Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Occluded motion alters event perception.」 『Attention Perception & Psychophysics』 , 75, 491-500, 2013 年 4 月.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「High-intensity sound increases the size of visually perceived objects」 『Attention, Perception, & Psychophysics』 , 75, 501-507, 2013 年 4 月.
- Sakamoto, S., Teramoto, W., Furune, F., Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「Compression of perceived auditory space during forward self-motion.」 『The Journal of the Acoustical Society of America』 26, 317-332, 2013 年 5 月.
- Honda, A., Shibata, H., Hidaka, S., Gyoba, J., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. 「Effects of head movement and proprioceptive feedback in training of sound localization」 『i-Perception』 , 4, 253-264, 2013 年 6 月.
- Takahashi, J., Gyoba, J., & Yamawaki, N. 「Effect of spatial complexity on visual short-term memory and self-reported autistic-like traits in typically developed individuals.」 『Journal of Autism and Developmental Disorders』 , 43, 1725-1731, 2013 年 7 月.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「Visual field asymmetry in the facilitation effects of audio-visual integration on visual representation」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』 , 32, 139-140, 2013 年 9 月.
- Kakizaki, S., Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「Effects of spatial factors on tactile roughness

- perception-A study based on signal detection theory」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』 , 32, 131-132, 2013 年 9 月.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「Complexity of visual stimuli affects visual illusion induced by sound」 『Vision Research』 , 91, 1-7, 2013 年 10 月.
- Takahashi, J., Hidaka, S., Teramoto, W., & Gyoba, J. 「Temporal characteristics of the effects of visual pattern redundancy on encoding and storage processes: Evidence from rapid serial visual presentation.」 『Psychological Research』 , 77, 687-697, 2013 年 11 月.
- Sakamoto, S., Terashima, H., Teramoto, W., Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「Difference of the perceived auditory space between walking and passive self-motion」 『Journal of the Acoustic Society of America』 , 134, 4062, 2013 年 11 月.
- Kamachi, M., Bruce, V., Mukaida, S., Gyoba, J., Yoshikawa, S., & Akamatsu, S.
「Dynamic properties influence the perception of facial expressions」 『Perception』, 42, 875-887, 2013 年 11 月.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「Pattern dot quantity affects auditory facilitation effects on visual object representations」 『Perception』 , 43, 107-116, 2014 年 1 月.
- Kawachi, Y., Matsue, Y., Shibata, M., Imaizumi, O., & Gyoba, J. 「Auditory startle reflex inhibited by preceding self-action」 『Psychophysiology』 , 51, 97-102, 2014 年 1 月.
- Kamachi, M., Bruce, V., Mukaida, S., Gyoba, J., Yoshikawa, Y., & Akamatsu, S.
「Dynamic properties influence the perception of facial expressions」 『Perception』 42, 1266-1278, 2014 年 3 月
- Takahashi, J., Yasunaga, D., & Gyoba, J. 「Differences in the efficiency of pattern encoding in relation to autistic-like traits: An event-related potential study」 『Journal of Autism and Developmental Disorders』 , 44, 2895-2906, 2014 年 6 月.
- Teramoto, W., Cui, Z., Sakamoto, S., & Gyoba, J. 「Distortion of auditory space during visually induced self-motion in depth」 『Frontiers in Psychology』 , 5, 1-7, 2014 年 8 月
- 高橋純一・村井諒平・平野智久・行場次朗 「ネガティブ顔優位性効果とポジティブ顔優位性効果の異なる生起過程」 『認知科学』 , 21, 363-371, 2014 年 9 月
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「Hemispheric asymmetry in the auditory facilitation effect in dual-stream rapid serial visual presentation tasks」 『PLOS ONE』 , 9, 1-10, 2014 年 8 月

柴田 寛・高橋純一・行場次朗「お辞儀の主観的印象と社会的文脈に対する適切さ」『心理学研究』, 85, 571-578, 2014年12月

Takeshima, Y., Saito, G., Tachibana, R., Asaoka, R., Gyoba, J., & Koizumi, M.

「Processing loads related to word order preference during sentence production in Japanese: An NIRS and eye tracking study.」『Tohoku Psychologica Folia』 73, 36-45. 2014年12月

Takahashi, J., Hirano, T., and Gyoba, J. 「Effects of facial expressions on visual short-term memory in relation to alexithymia traits」『Personality and Individual Differences』, 83, 128-135, 2015年4月

Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「Spatial frequency modulates the degree of illusory second flash perception.」『Multisensory Research』 28, 1-10 2015年1月

Takahashi, J., Kawachi, Y., and Gyoba, J. 「Visual Short-Term Memory is Modulated by Visual Preference for Spatial Configuration between Objects」『Gestalt Theory』
印刷中

行場次朗 「空間感性の重要性：臨場感と迫真性」『画像ラボ』 印刷中

阿部恒之教授,

今野晃嗣・荒井沙穂理・阿部恒之 「顔だちマップを用いた犬種の形態印象の分類」『日本顔学会誌』, 10, 63-72, 2010年9月.

阿部恒之 「化粧と感情の心理学的研究概観」『におい・かおり環境学会誌』, 42, 5, 338-343, 2011年9月.

阿部恒之 「化粧心理学のご紹介」『コスメチックレポート—コスメチックからのメッセージ』, 200, 8, 2011年10月.

遠藤光男・桐田隆博・阿部恒之 「顔の部品検出に及ぼす全体情報の効果」『基礎心理学研究』, 29(2), 130-143, 2011年3月.

河島三幸・設楽茉莉絵・阿部恒之 「ときめきによる女性の表情と魅力の変化」『日本顔学会誌』, 11, 107-115, 2011年9月.

阿部恒之 「姿を整えていきいきと」『ふれあいケア』, 18(5), 21-24, 2012年5月.

阿部恒之 「日常生活の錯視—森川論文へのコメント」, 『心理学評論』, 55(3), 362-366, 2012年12月.

Wiwattanapantuwong, J., Lee, C-J., Honda, A., & Abe, T. 「Taiwanese perceptions of Japan and the use of nuclear power after the 2011 East Japan earthquake and tsunami disaster: An examination of the role of media and heuristic cues」, 『Tohoku

- Psychologica Folia (2011)』, 70, 44-55, 2012年3月.
- 菊地史倫・秋田美佳・阿部恒之 「嗅覚がリップクリームの使用感に与える影響」,
『心理学研究』, 84, 5, 515-521, 2013年12月.
- 中俣友子・平野大二郎・阿部恒之 「人格を代表するのは顔・身体の中の部位か
—最期の別れで触れる場所」, 『日本顔学会誌』, 13, 1, 87-98, 2013年10
月.
- Abe, T., Wiwattanapantuwong, J., & Honda, A. 「Dark, cold and hungry, but full of
mutual trust: Manners among the 2011 Great East Japan Earthquake victims」,
『Psychology in Russia: State of the Art』, 7, 1, 4-13, 2014年6月.
- 阿部恒之 「怒りと微笑の機縁」, 『日本顔学会誌』, 14, 1, 5-11, 2014年10月.
- Honda, H., Wiwattanapantuwong, J., & Abe, T. 「Japanese university students' attitudes
toward the Fukushima nuclear disaster」, 『Journal of Environmental Psychology』,
40, 147-156, 2014年6月.
- Wiwattanapantuwong, J., Zhang, Y., Honda, A., & Abe, T. 「The impact of the 2011 East
Japan Earthquake and subsequent nuclear accident: A preliminary interview study
among South Korean people」, 『Tohoku Psychologica Folia (2013)』, 72, 16-25,
2014年3月.
- 織田弥生・高野ルリ子・阿部恒之・菊地賢一 「感情・覚醒チェックリストの作
成と信頼性・妥当性の検討」, 『心理学研究』85(6), 579-589, (2015年2月)

坂井信之准教授

- 碓 哲崇・安松啓子・坂井信之・池西岳樹・新倉祐司・萩森夏芽 「スペアミン
トによる C57BL/6 マウスの甘味、苦味、うま味応答の抑制」 『日本味と匂学
会誌』, 18(3), 273-276, 2011年12月.
- 坂井信之・藤本まなみ・村田 恵 「うま味と相乗効果を示す香料の選定」 『日
本味と匂学会誌』, 18(3), 375-378, 2011年12月.
- 松井千笑・神田光荣・坂井信之 「食べている人を見ることで摂取量は増大する
か? (による共著『日本味と匂学会誌』, 18(3), 273-276, 2011年12月.
- 吉松宏苑・坂井信之・池西岳樹・新倉祐司・萩森夏芽・碓 哲崇 「ミント系香
料のアロマとフレーバーの違い—心理評価と NIRS による脳機能の計測の関
連性—」 『日本味と匂学会誌』, 18(3), 423-426, 2011年12月.
- 神田光荣・坂井信之 「香水が人物の印象形成に及ぼす影響」 『日本味と匂学会
誌』, 18(3), 579-582, 2011年12月.

- 坂井信之 「香りの活用でビジネスの可能性が広がる」『週刊エコノミスト』, 2011年 12/20 新年特大号, 2011年 12月.
- 坂井信之 「食品・日用品の認知と評価～味覚と嗅覚の複合感覚を中心に～」『日本官能評価学会誌』, 16, 21-24, 2012年 4月.
- 坂井信之 「共食することによって生じる「おいしさの亢進」に関する行動科学的研究」『公益財団法人アサヒビール学術振興財団食生活科学・文化及び環境に関する研究助成研究紀要』, 第 25 卷 (2010 年度) 2012年 6月.
- Sakai, N., Yoshimatsu, H., Ikenishi, T., Niikura, Y., Kondo, N., & Sako, N. 「The promoting effect of mint odor on recovery from the mental stress evoked by simple summation task.」『Tohoku Psychological Folia』, 70, 26-35, 2012年 7月.
- 坂井信之 「においを感じるメカニズム」『臨床看護』, 38, 1806-1809, 2012年 11月.
- 坂井信之 「におい・かおりに関する評価法」『臨床看護』, 38, 1810-1812, 2012年 11月.
- 坂井信之 「におい・かおりの特性」『臨床看護』, 38, 1813-1815, 2012年 11月.
- 坂井信之 「においの用語解説」『臨床看護』, 38, 1874-1875, 2012年 11月.
- 碓 哲崇・安松啓子・坂井信之・池西岳樹・新倉祐司・萩森夏芽 「スペアミントによる味覚抑制はカルボン酸に起因する」『日本味と匂学会誌』, 19, 333-336, 2012年 12月.
- 坂井信之・大沼卓也・今田純雄 「選択することがカレーのおいしさ評定に及ぼす効果」『日本味と匂学会誌』, 19, 409-412, 2012年 12月.
- 神田光栄・松井千笑・小野間統子・坂井信之 「食物の咀嚼回数やおいしさ評定における共食の影響」『日本味と匂学会誌』, 19, 413-416, 2012年 12月.
- 坂本光司・神田光栄・坂井信之・永友茂美 「玄関における香りが女性の印象形成に及ぼす影響」『日本味と匂学会誌』, 19, 469-472, 2012年 12月.
- 坂井信之・斉藤幸子 「脳計測でにおいをはかる- fMRI (機能的核磁気共鳴画像法)・NIRS (近赤外分光法) で測る-」『Aroma Research』, 14, 23-28, 2013年 1月.
- 大和久美紀・坂井信之 「香りによる対人印象・魅力の変化」『Fragrance Journal』, 2013-3, 81-86, 2013年 3月.
- 田中観自・陳 娜・坂井信之・渡邊克巳 「食器の材質・質感における感覚間統合が味覚評価に及ぼす影響」『電子情報通信学会技術報告』, 113(128), 7-10, 2013年 7月.

- 坂井信之 「消費者はどのようにしておいしさを感じているのか？」 『ソフト・ドリンク技術資料』, 170, 2013年8月
- 大沼卓也・澁本 潤・坂井信之 「カテゴリーとしてのブランドが炭酸飲料のおいしさ評定に及ぼす影響」 『日本味と匂学会誌』, 20, 277-280, 2013年12月
- 小野間統子・澁本 潤・坂井信之 「ノンアルコール飲料による酩酊感の心理学的検討」 『日本味と匂学会誌』, 20, 281-284, 2013年12月
- 松本彩和・澁本 潤・坂井信之 「エナジードリンク風味の飲料が作業と気分に及ぼす心理的影響の検討」 『日本味と匂学会誌』, 20, 387-390, 2013年12月
- Onuma, T., Fuchimoto, J., & Sakai, N. 「Brand categorization and hedonic transfer: Negative evaluations of a beverage transfer to a novel beverage from the same brand.」 *Tohoku Psychological Folia*, 72, 46-62, 2013年3月
- Sakai, N. 「The psychology of eating from the point of view of experimental, social, and applied psychology.」 『Psychology in Russia: State of the Art』, 7(1), 14-22, 2014年3月
- 坂井信之 「香りは人の印象をどう変えるか？」 『TASC MONTHLY』, 463, 12-18, 2014年7月
- 坂井信之 「香りと味の相互作用と融合」 『香料』, 263, 43-50, 2014年9月
- 坂井信之 「おいしさを感じる脳と心の仕組み～“舌”ではなく、“眼”と“鼻”で味わうおいしさ～」 『杉山産業化学研究所年報』平成25年, 90-108, 2014年10月
- 庄子道生・坂井信之 「水素・ヒノキ精油含有入浴剤の使用がヒトの心理と生理に及ぼす影響」 『日本味と匂学会誌』, 21, 453-456, 2015年2月
- 大沼卓也・坂井信之 「ラットにおける味と匂いの連合学習と快・不快価の転移」 『日本味と匂学会誌』, 21, 303-306, 2015年2月
- Shibata, H., Kanda, M., Takashima, Y. and Sakai, N. 「Role of the lateral prefrontal cortex in visual feedback processing following self-generated finger movement.」 『Tohoku Psychologica Folia』, 73, 1-8, 2015年3月
- 東田一仁・坂井信之・碓 哲崇・堀田正人 「ヒトの心理状態が歯の色彩認知に及ぼす影響」 『歯科の色彩』, 21(1), 12-21, 2015年4月

辻本昌弘准教授

- Koike, S., Nakamaru, M., & Tsujimoto, M. 「Evolution of cooperation in rotating indivisible goods game」 『Journal of Theoretical Biology』, 264, 143-153, 2010.

辻本昌弘・KUDA Alejandro 「アルゼンチン日系人の生活と体験—20世紀前半のブエノスアイレスを中心に—」 『文化』, 76, 1-22, 2012年9月.

廣瀬文章・辻本昌弘 「地域社会における伝統の継承」 『質的心理学研究』, 12, 66-81, 2013年3月.

上原俊介助教

Uehara, S., Nakagawa, T., Komatsu, S., & Ohbuchi, K. 「The role of social anxiety in anger against norm violations」 『Tohoku Psychologica Folia』, 69, 40-52, 2010年10月.

上原俊介・船木真悟・大淵憲一 「関係規範の違反に対する怒り感情: 人間関係タイプ、欲求の関係特異性、及び欲求伝達の影響」 『実験社会心理学研究』, 51, 32-42, 2011年8月.

上原俊介・中川知宏・森 丈弓・国佐勇輔・大淵憲一 「怒りの動機を規定する人格要因: 共有的志向性の影響」 『文化』, 75, 40-55, 2011年12月.

Uehara, S., Nakagawa, T., Mori, T., Shimizu, K., & Ohbuchi, K. 「Dispositional determinant of anger at norm violations: Does it reflect an individual's selective responsibility for needs?」 『Tohoku Psychologica Folia』, 70, 10-20, 2011年3月.

Uehara, S., Nakagawa, T., Mori, T., & Ohbuchi, K. 「When does anger evoke self-interest and fairness motives? The moderating effects of perceived responsibility for needs」 『Japanese Psychological Research』, 54, 137-149, 2012年5月.

上原俊介・中川知宏・森 丈弓・清水かなこ・大淵憲一 「関係規範の違反に対するシグナルとしての怒り感情: 知覚された欲求責任違反の媒介的役割」 『社会心理学研究』, 27, 161-173, 2012年3月

Uehara, S., Nakagawa, T., Tamura, T., & Mori, T. 「Anger in close relationships: Relationships, perceived violation of responsibility for needs, and feelings of anger」 『Tohoku Psychologica Folia』, 71, 33-41, 2012年3月.

上原俊介・中川知宏・国佐勇輔・岩淵絵里・田村 達・森 丈弓 「道徳的違反に対する怒り感情: 義憤を規定する状況要因の検討」 『社会心理学研究』, 28, 158-168, 2013年3月.

上原俊介・中川知宏・田村 達・小形佳祐・齊藤五大 「怒りと道徳的違反の知覚: 危害の正当性と義憤および私憤に対するその影響」 『文化』, 77, 1-12, 2013年12月.

Uehara, S., Nakagawa, T., & Tamura, T. 「What leads to evocation of moral outrage?

Exploring the role of personal morality」『International Journal of Psychological Studies』, 6, 58-67, 2014年1月.

上原俊介・中川知宏・田村 達 「怒りの利己性：公正敏感さは怒りの道德感を誘起するか」『実験社会心理学研究』, 54, 89-100, 2015年3月.

柴田寛助手（2011年度の業績）

Hidaka, S., Shibata, H., Kurihara, M., Tanaka, A., Konno, A., Maruyama, S., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「Effect of second language exposure on brain activity for language processing among preschoolers」『Neuroscience Research』, 73, 73-79, 2012.

Shibata, H., Gyoba, J., & Takeshima, Y. 「Perception of the end position of a limb loaded with a weigh」『Attention, Perception, & Psychophysics』, 74, 225-238, 2012.

1-2 著書・編著

大淵憲一教授

<単著>

大淵憲一 『謝罪の研究：釈明の心理とはたらき』東北大学出版会, 2010年4月

大淵憲一 『新版 人を傷つける心：攻撃性の社会心理学』サイエンス社, 2011年10月

大淵憲一 『紛争と葛藤の心理学：人はなぜ対立し、どう和解するのか』サイエンス社, 2015年1月.

大淵憲一 『失敗しない謝り方』CCCメディアハウス, 2015年5月

<共同編著>

高橋順一・渡辺文夫・大淵憲一（共編著）『人間科学研究法ハンドブック、第2版』ナカニシヤ出版, 2011年11月.

阿部恒之・大淵憲一・仁平義明・行場次朗・辻本昌弘・坂井信之（共著）『心理学の視点24』国際文献印刷社, 2012年4月.

大淵憲一・戴 伸峰（共著）『犯罪心理學』台北：雙葉出版社, 2012年8月.

Ohbuchi, K. & Asai, N. (共編著), 『Inequality, discrimination and conflict in Japan: Ways to social justice and cooperation』Balwyn North, Australia: Trans Pacific Press, 2012年1月.

海保博之・楠見 孝（監修）、佐藤達哉・岡市廣成・遠藤利彦・大淵憲一・小川俊樹（編集）『心理学総合事典 新装版』朝倉書店, 2015年1月

<分担執筆>

Ohbuchi, K. 「Social class and values in Japan」 K. Ohbuchi & N. Asai (編) 『Inequality, discrimination and conflict in Japan』 (pp. 22-40). Balwyn North, Australia: Trans Pacific Press, 2011 年 11 月.

Yamamoto, T., & Ohbuchi, K. 「Maintaining the gender gap and benevolent sexism」 K. Ohbuchi & N. Asai (編) 『Inequality, discrimination and conflict in Japan』 (pp. 115-130). Balwyn North, Australia: Trans Pacific Press, 2011 年 11 月.

Ohbuchi, K. 「Preface」 K. Ohbuchi & N. Asai (編) 『Inequality, discrimination and conflict in Japan: Ways to social justice and cooperation』 Balwyn North, Australia: Trans Pacific Press, x-xii, 2011 年 11 月.

大淵憲一「よりよい社会を求めて」佐藤嘉倫・木村敏明(編) 『不平等生成メカニズムの解明：格差・階層・公正』 ミネルヴァ書房, 321-336, 2013 年 3 月

川嶋伸佳・大淵憲一「不平等と不公正感」佐藤嘉倫・木村敏明(編) 『不平等生成メカニズムの解明：格差・階層・公正』 ミネルヴァ書房, 299-320, 2013 年 3 月.

大淵憲一「現代の犯罪の特徴」谷口泰富・藤田主一・桐生正幸(編) 『現代社会と応用心理学7：クローズアップ犯罪』福村出版, 16-21, 2013 年 8 月.

大淵憲一「殺人：誰でもいいから殺したかった！」谷口泰富・藤田主一・桐生正幸(編) 『現代社会と応用心理学7：クローズアップ犯罪』福村出版, 22-31, 2013 年 8 月.

大淵憲一「人間関係の親密さと葛藤解決：アタッチメントの効果」安川文朗・石原明子(編) 『現代社会と紛争解決学：学際的理論と応用』ナカニシヤ出版, 82-103, 2014 年 3 月.

大淵憲一「集団間葛藤研究の新展開：葛藤と紛争の社会心理学」大坊郁夫・竹村和久(編) 『社会心理学の新展開』, 北大路書房, 2014 年 3 月.

行場次朗教授

<共同編著>

阿部恒之・大淵憲一・行場次朗・坂井信之・辻本昌弘・仁平義明 『心理学の視点 24』 国際文献印刷社, 2012 年 9 月.

行場次朗・箱田裕司 『新・知性と感性の心理』 福村出版 2014 年 3 月

<分担執筆>

行場次朗 「美」 『よくわかる認知科学』 乾 俊郎・吉川左紀子・川口潤 (編)

- ミネルヴァ書房 pp.138-139 2010年1月
- 行場次郎 「感性の基本次元と脳内基盤」 『知覚と感性』三浦佳世（編） 北大路書房 pp.56-68 2010年8月
- Kawabata, H., & Gyoba, J. 「Neural substrates of sensitivity to affective meaning.」 『CARLS series of Advanced studies of Logic and Sensibility』, pp. 10-19, 慶應義塾大学出版会 2011年4月
- 行場次郎 「形とイメージ」 『感覚・知覚・認知の基礎』乾敏郎（編） オーム社 pp.137-151 2012年1月.
- 行場次郎 「感覚の仕組み」「知覚的体制化と補完」 『認知心理学ハンドブック』日本認知心理学会（編） 有斐閣 pp.28-29 pp.42-43 2013年12月

阿部恒之教授

<共同編著>

阿部恒之・大淵憲一・行場次郎・坂井信之・辻本昌弘・仁平義明 『心理学の視点 24』 国際文献印刷社, 2012年9月.

<分担執筆>

阿部恒之 「化粧的神奇力量」, 『化粧療癒力』, 資生堂美容解答中心等（編）・陳惠莉（訳）, 聯徑出版（台北） pp.10-20, 2011年4月.

阿部恒之 「東日本大震災で体験したこと, 感じたこと, 考えたこと」, 『今を生きる—東日本大震災から明日へ! 復興と再生への提言 (1.人間として)』, 座小田豊・尾崎彰宏（編）, 東北大学出版会, pp.83-102, 2012年3月.

阿部恒之 「東日本大震災における被災者の生活—助け合いと犯罪」, 『大災害と犯罪』, 法律文化社, pp. 114-131, 2013年3月.

阿部恒之・ジュターチップ=ウィワッターナーパンツォン・本多明生 「被災者のマナー—体験から立ち上がった課題」, 平川 新・今村文彦（編） 『東日本大震災を分析する 2・震災と人間・まち・記録』, 明石書店, pp.68-81, 2013年6月.

坂井信之准教授

<共同編著>

阿部恒之・大淵憲一・行場次郎・坂井信之・辻本昌弘・仁平義明 『心理学の視点 24』 国際文献印刷社, 2012年9月..

<分担執筆>

坂井信之 「おいしさの心理学」 日下部裕子・和田有史編『味わいの認知科学
～舌の先から脳の向こうまで～』勁草書房, 2011年10月.

坂井信之 「香りの効能」 熊倉功夫・伏木亨編『だしとは何か』アイ・ケイコ
ーポレーション, 2012年3月.

坂井信之 「五感と香りの心理メカニズム」 『嗅覚と匂い・香りの産業利用最
前線』(株式会社エヌ・ティー・エス), pp.145-154, 2013年2月.

坂井信之 「おいしさ認知における脳の働きと商品開発、マーケティングへの応
用」 『顧客も気づいていない将来ニーズの発掘と新製品開発への活用』(情
報技術協会), 2013年8月

坂井信之 「05 知覚 12 嗅覚・味覚」 『誠信 心理学辞典新版』 pp.175-177 2014年
9月 誠信書房

辻本昌弘准教授

<単著>

辻本昌弘『語り—移動の近代を生きる あるアルゼンチン移民の肖像』新曜社,
2013年9月.

<共同編著>

阿部恒之・大淵憲一・行場次朗・坂井信之・辻本昌弘・仁平義明 『心理学の視
点 24』 国際文献社, 2012年9月.

<分担執筆>

Tsujimoto, M. 「Status, selection, and exchange in an Okinawan mutual aid system」 K.
Kimura (編) 『Minorities and Diversity』 Trans Pacific Press, pp.100-112, 2011年.
辻本昌弘 「文化と自己」 林洋一(監修) 『心の科学』 明星大学出版部,
pp.216-234, 2011年5月.

村本由紀子・辻本昌弘 「文化的存在としての人間」 唐沢穰・村本由紀子(編)
『社会と個人のダイナミクス』 誠信書房, pp.266-285, 2011年9月.

Tsujimoto, M. 「Migration, economic adaptation and mutual cooperation: Japanese
rotating savings and credit associations in Argentina」 N. Yoshihara (編) 『Global
Migration and Ethnic Communities: Studies of Asia and South America』 Trans
Pacific Press, pp.163-175, 2012年.

辻本昌弘 「マイノリティと不平等—困難を生きる技法—」 佐藤嘉倫・木村敏明
(編著) 『不平等生成メカニズムの解明—格差・階層・公正—』 ミネルヴァ
書房, pp. 139-160, 2013年3月.

上原俊介助教

<分担執筆>

Uehara, S., & Nakagawa, T. 「When does moral outrage arise? Two possibilities.」 M. G. Penrod & S. N. Paulk (編) 『Psychology of anger: New research』, Nova Science Publishers, 27-47, 2014年1月.

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

大淵憲一教授

大淵憲一 「刑事裁判における謝罪」, 『季刊 社会安全』, 第76巻, 1, 2010年3月.

熊谷智博・大淵憲一(監訳) 『紛争と平和構築の社会心理学: 集団間の葛藤とその解決』 (D. Bar-Tal (Ed.), Intergroup conflicts and their resolution: A social psychological perspective. New York: Psychology Press, 2011). 北大路書房、2012年10月.

大淵憲一 「自己統制が人生を決定する?」 『刑政』第124巻, 第1号, 64-65, 2013年1月.

大淵憲一 「犯罪研究における自己統制」 『刑政』第124巻, 第5号, 66-67, 2013年5月.

大淵憲一 「自己統制研究の進展: 自己統制は能力か努力か?」 『刑政』第124巻, 第9号, 66-67, 2013年9月.

繁杵算男・四本裕子(監訳)、大淵憲一ほか(訳) 『APA心理学大辞典』 (American Psychological Association 『APA Dictionary of Psychology』 Washington, D. C.: American Psychological Association, 2006) 培風館, 2013年9月.

大淵憲一 「暴力とは何か」 『子どもの虹情報研修センター紀要』第11巻, 39-56, 2013年12月.

大淵憲一 「自己統制研究の社会心理学1: 自己統制の心的資源」 『刑政』第125巻, 第1号, 66-67, 2014年1月.

子安増生・二宮克美(監訳)、青年期発達百科事典編集委員会(編) 『青年期発達百科事典』 (Brown, B. B. & Prinstein, M. J. (Ed.), Encyclopedia of adolescence. New York: Academic Press, 2011), 丸善出版, 2014年1月.

大淵憲一 「自己統制の社会心理学2: 排斥と暴力」 『刑政』第125巻, 第5号, 64-65, 2014年5月.

大淵憲一「自己統制の発達とその支援」『刑政』第125巻、第9号、78、2014年9月.

行場次朗教授

行場次朗 感覚・知覚領域の約2000項目の訳担当 繁榊算男・四本裕子（監訳）
『APA心理学大辞典』 培風館 2013年9月

阿部恒之教授

<事典項目>

阿部恒之 「感情の理論」, 平凡社『最新・心理学事典』, 2013年12月.

<パンフレット・ニューズレター等>

阿部恒之・野家啓一 「特別対談—東北地方太平洋沖地震について改めて言葉の力について考えた」, 『考えるということ』, 6, 2-11, 2011年7月.

阿部恒之 「東日本大震災の顔」, 『顔学会ニューズレター』, 46, 2, 2011年8月.

阿部恒之 「青葉山の避難生活」, 『応用心理学のクロスロード』, 4, 20-21, 2011年12月.

阿部恒之 書評「震災・復興の社会学（松井克浩著）」, 新潟日報（12月18日）2011.

阿部恒之 「化粧文化研究者ネットワーク研究会報告（第22回）」『顔学会ニューズレター』, 49, 2012年8月.

阿部恒之 「フォーラム顔学2012実施報告（2013年度大会予告）」『顔学会ニューズレター』, 50, 2012年12月.

阿部恒之 「フォーラム顔学2013シンポジストレポート“機縁”」『顔学会ニューズレター』, 52, 2013年9月.

阿部恒之 「「防災・復興研究会(フォーラム顔学エクスカージョン)」『顔学会ニューズレター』, 53, 2013年12月.

阿部恒之「3.11 東日本大震災以後の“防災文化”研究への深化」, 『考えるということ』, 9, 17-23, 2014年10月発行予定.

<新聞・雑誌取材>

阿部恒之 「まっげエステご用心」 読売新聞 （5月11日付）, 2010.

阿部恒之 「技術&トレンド」 日経ビジネス （6月7日付）, 2010.

阿部恒之 「女心を呪縛する、マイナス5歳」 POCO21 （6月10日付）, 2010.

- 阿部恒之 「歴史の万華鏡／顔学～メイクアップ（前編）」 ヘアモード （9月号），2010.
- 阿部恒之 「歴史の万華鏡／顔学～メイクアップ（後編）」 ヘアモード （10月号），2010.
- 阿部恒之 「メイクセラピー（化粧療法）」 共同通信取材による配信で地方紙12紙に掲載（静岡新聞夕刊，6月30日；伊瀬新聞，7月5日；日本海新聞，7月5日；岐阜新聞，7月6日；東奥新聞，7月8日；岩手日報，7月8日；中国新聞，7月8日；神戸新聞，7月9日；河北新報，7月11日；四国新聞，7月19日；長崎新聞，8月23日；新潟日報，9月23日），2010.
- 阿部恒之 「震災後の行動」 河北新報 （5月5日付），2011.
- 阿部恒之 「化粧が私たちを元気にする」 リビング仙台 （5月14日付），2011.
- 阿部恒之 「日本の被災地なぜ治安よい？」 神戸新聞 （6月21日付），2011.
- 阿部恒之 「助け合いや支援で犯罪抑制 震災との関連」 産経新聞 （8月9日付），2011.
- 阿部恒之 「犯罪学会世界大会 国，東電の過失指摘も」 神戸新聞 （8月10日付），2011.
- 阿部恒之 「好感を持たれるには？心理学的考察」 河北ウイークリーせんだい（9月1日付），2011.
- 阿部恒之 「教育ルネッサンス：学校と震災 40」 読売新聞（11月25日付），2011.
- Abe, T. “Quand le rouge à lèvres redonne estime et courage（口紅が自信と勇気を取り戻してくれるとき）” Le Monde(11月30日付), 2011.
- 阿部恒之 「美容の知恵袋(カネボウ共同研究成果)」 産経新聞(1月6日付)，2012.
- 阿部恒之 「資生堂の復興支援写真展」 河北新報（1月31日付），2012.
- 阿部恒之 「東北大の被災地支援事業（加齢研のサイエンスカフェ）」 河北新報（7月24日付），2012.
- 阿部恒之 「復興の狼煙講演会アナウンス」 読売新聞備後版（11月29日付），山陽新聞備後版（11月30日付），朝日新聞備後版（11月30日付），他に，中国新聞・太陽新聞。・経済ジャーナル等，2012.
- 阿部恒之 「東北大-河北合同調査」 河北新報（3月10日付），2013.
- 阿部恒之 「名取川美化研究」 河北新報みやぎ版（5月20日付），2013.
- 阿部恒之 「マナー金メダル」 河北新報（4月29日付），2014.

<新聞連載>

阿部恒之 「紙面センサー」 河北新報 (2011年10月31日から2012年3月31日まで毎月月末6回連載)

<その他報道>

阿部恒之 ラジオ出演 「あなたを守る防災ラジオ」, FM 仙台 (1月2日・16日, 12月21日), 2011.

阿部恒之 ラジオ出演 「あなたを守る防災ラジオ」, FM 仙台 (1月1日・15日, 12月2日・16日), 2012.

阿部恒之 ラジオ出演 「あなたを守る防災ラジオ」, FM 仙台 (12月1日・15日), 2013.

坂井信之准教授

<テレビ・新聞・雑誌等取材>

坂井信之 「広がる“においビジネス”」NHK 総合「クローズアップ現代」2010年5月18日放送

坂井信之 「脳育スペシャル第5弾脳をダメす！」フジテレビ「エチカの鏡」2010年7月18日放送

坂井信之 「絶えず変化！至福をもたらす“味覚”」NHK 教育「サイエンスゼロ」2010年7月31日放送

坂井信之 「イチおし アロマパワーで私が変わる」NHK 総合「あさいち」2010年12月6日放送

坂井信之 「大学イメージの香水発表」神戸新聞 2011年3月7日

坂井信之 「梅酒人気が続く」東奥日報 2011年3月11日

坂井信之 「においビジネス」関西テレビ「スーパーニュースアンカー」2012年2月3日放送

坂井信之 「麺の食べ方」日本テレビ「これがニッポンの新常識 発見！コレ★スタン by ZIP!」2012年3月31日放送

坂井信之 「香りビジネス最前線」テレビ新広島「知りためプラス」2012年4月21日放送

坂井信之 「ストレス」テレビ東京「たけしのニッポンのミカタ！」2012年6月29日放送

坂井信之 「雨のニオイはなんのニオイ？」CBC ラジオ「気分爽快！多田しげおの朝から PON」2012年7月25日放送

坂井信之 「デブロフの人」関西テレビ特番 2012年8月2日放送

坂井信之 「ピーマンみたいに苦い食べ物オトナになると食べられるようになるのはなぜ？」NHK総合「ギャクテン教室！」2012年10月8日放送

坂井信之 「レギュラー化記念 SP」NHK総合「突撃！アッとホーム」2013年3月16日放送

坂井信之 「今年の香りは“甘いフルーツ系”」web R25 2013年7月23日公開
(http://r25.yahoo.co.jp/fushigi/wxr_detail/?id=20130723-00031181-r25)

坂井信之 「わたしたちの舌がだまされやすい理由」WIRED.jp 2013年8月7日公開
(<http://wired.jp/2013/08/07/psychologytaste-and-smell/>)

坂井信之 「The pleasures and paradoxes of taste」NHK国際「Science View」2013年10月8日放送

坂井信之 「セロリ！魅惑の新世界」NHK総合「ためしてガッテン」2014年1月15日放送

坂井信之 「観光列車の科学」日本テレビ「所さんの目がテン！」2014年2月23日放送

坂井信之 「「ニオイ」が記憶を呼び覚ますワケ」web R25 2014年5月4日公開
(http://r25.yahoo.co.jp/fushigi/wxr_detail/?id=20140504-00035810-r25)

坂井信之 「焼けるニオイが食欲をそそるワケ」web R25 2014年5月10日公開
(http://r25.yahoo.co.jp/fushigi/wxr_detail/?id=20140510-00035840-r25)

坂井信之 「ニオイの心理学」週間SPA 2014年5月13・20合併号

坂井信之 「「お日様のニオイ」は何のニオイ？」web R25 2014年5月18日公開
(http://r25.yahoo.co.jp/fushigi/wxr_detail/?id=20140518-00035873-r25)

坂井信之 「僕らの体臭は何m先まで届くの？」web R25 2014年5月25日公開
(http://r25.yahoo.co.jp/fushigi/wxr_detail/?id=20140525-00035904-r25)

坂井信之 「スメルハラスメント」ニッポン放送「垣花正あなたとハッピー」2014年5月20日放送

坂井信之 「スメルハラスメント原因は自分」産経新聞 2014年6月7日号

坂井信之 「「雨のニオイ」は下水のニオイ？」web R25 2014年6月16日公開
(http://r25.yahoo.co.jp/fushigi/wxr_detail/?id=20140616-00036279-r25)

坂井信之 「“くさいニオイ”に惹かれる理由」web R25 2014年6月23日公開
(http://r25.yahoo.co.jp/fushigi/wxr_detail/?id=20140623-00036308-r25)

坂井信之 「酒臭さは梅干し・海藻で打ち消せる」web R25 2014年6月29日公開
(http://r25.yahoo.co.jp/fushigi/wxr_detail/?id=20140629-00036331-r25)

坂井信之 「なぜ女性は「いいニオイ」がする？」 web R25 2014年7月8日公開
(http://r25.yahoo.co.jp/fushigi/wxr_detail/?id=20140708-00036800-r25)

坂井信之 「腐敗臭が取れないゴミ箱に注意！」 web R25 2014年7月17日公開
(http://r25.yahoo.co.jp/fushigi/wxr_detail/?id=20140717-00036854-r25)

坂井信之 「スメルハラスメント」 NHK 総合「News Web」2014年7月18日放送

坂井信之 「スメハラ」 『仙台放送スーパーニュース』2014年8月20日放送

坂井信之 「猫舌」 『読売テレビかんさい情報ネット ten.』2014年10月1日放送

坂井信之 「クルマの臭いを検証する」 『ベストカー』講談社2014年11月10日号

坂井信之 「かぎとれ香りの新市場」 『日本経済新聞』2014年10月21日

坂井信之 「駅弁の科学」 『所さんの目がテン!』日本テレビ2015年3月22日放送

辻本昌弘准教授

<翻訳>

J. E. Lansford／辻本昌弘（訳）「移民をめぐる諸問題」 子安増生・二宮克美（監訳）青年期発達百科事典編集委員会（編）『青年期発達百科事典』第2巻，丸善出版，pp. 29-37, 2014年3月.

E. K. Seaton & A. N. Gilbert／辻本昌弘（訳）「マイノリティ青年の民族的・人種的アイデンティティ」 子安増生・二宮克美（監訳）青年期発達百科事典編集委員会（編）『青年期発達百科事典』第2巻，丸善出版，pp. 369-377, 2014年3月.

<書評>

辻本昌弘 書評「石黒広昭・亀田達也（編）「文化と実践：心の本質的社会性を問う」（2010年，新曜社）」『社会心理学研究』, 26, 93-94, 2010年8月.

辻本昌弘 書評「日比野愛子・渡部 幹・石井敬子（著）「つながれない社会：グループ・ダイナミックスの3つの眼」（2014年，ナカニシヤ出版）」『社会心理学研究』, 30, 236, 2015年3月.

上原俊介助教

<翻訳>

太幡直也・佐藤 拓・菊地史倫（監訳）『虚偽と欺瞞：その落とし穴ときっかけ（仮題）』（Vrij, A., Detecting lies and deceit: Pitfalls and opportunities: Second

edition. Chichester, England: John Wiley & Sons, 2008) , 福村出版, 印刷中.

1-4 口頭・ポスター発表

大淵憲一教授

<講演・シンポジウム・ワークショップ：国際学会等>

大淵憲一「犯罪心理学：緊張理論と統制理論」（招待講演）台湾中央警察大学特別講演（中央警察大学、台北市、台湾）, 2014年5月20日

大淵憲一「日本における重大事犯青少年の心理学的分析」（招待講演）2014年暴力與毒品犯罪心理與矯治兩岸／国際学術研討会（玄奘大学、新竹市、台湾）, 2014年5月22日

大淵憲一「犯罪心理学：緊張理論と青少年の暴力」（招待講演）台湾国立中正大学犯罪抑制学会特別講演（中正大学、嘉義市、台湾）, 2014年5月23日

Ohbuchi, K. 「Psychological analysis of adolescents committing serious violence in Japan」（招待講演）Keynote speech at the 6th Annual Conference Asian Criminological Society（大阪商業大学、東大阪市）, 2014年6月27日

Ohbuchi, K. 「Psychology of youth violence」（招待講演）台湾心理学会2014年大会（台湾大学、台北、11月8日）, 2014年11月8日.

<講演・シンポジウム・ワークショップ：国内学会等>

大淵憲一「家庭と暴力：社会心理学の観点から」（招待講演）. 日本家族研究・家族療法学会第27回福島大会基調講演（福島県郡山市、ビッグパレットふくしま, 6月4日）, 2010.

大淵憲一「犯罪心理学における倫理」（コメンテーター）. 日本犯罪心理学会第48回大会シンポジウム（目白大学, 9月18日）, 2010.

大淵憲一「コンフリクト・リゾリューション教育：学校での紛争解決教育（CRE）の可能性」（コメンテーター）. 日本応用心理学会第78回大会シンポジウム（信州大学, 2011年9月10日）.

大淵憲一 シンポジウム「法と正義の相克」（コメンテーター）. 2012年度日本法社会学会学術大会（京都女子大学）, 2012年5月13日.

大淵憲一 「犯罪心理学のこれまでとこれから」（司会）. 日本犯罪心理学会第50回大会シンポジウム（大正大学）, 2012年9月8日.

大淵憲一 「非行からの立ち直り」（司会）. 日本犯罪心理学会第51回大会シンポジウム（大阪教育大学）, 2013年9月28日.

大淵憲一 「攻撃性の社会心理学：潜在意識と衝動的攻撃」（招待講演）. 日本

矯正医学会第 60 回総会（東京、星陵会館）, 2013 年 10 月 24 日.

大淵憲一 「John Dovidio : Included but invisible? The benefits and costs of inclusion」
（企画、司会）、日本社会心理学会第 54 回大会（沖縄県宜野湾市、沖縄国際
大学）, 2013 年 11 月 2 日.

大淵憲一 特別ワークショップ「日本の社会心理学に期待するもの：理論と方法
論の観点から考える」（企画、モデレーター）、日本社会心理学会第 54 回大
会（沖縄県宜野湾市、沖縄国際大学）, 2013 年 11 月 3 日.

<国際学会での一般研究発表>

Hikichi, H., Ohbuchi, K., & Aoki, T. 「Promotion of Cooperation among Community
Residents: Effects of Familiarity with Local Historical Heritages and Commitment to
the Community」. The 11th Annual Meeting of the Society for Personality and Social
Psychology (Las Vegas, USA, 1 月 28-30 日), 2010.

Kawashima, N., Ohbuchi, K., Kumagai, T., & Asai, N. 「Perceptions of unfairness and
social protests among Japanese: Effects of the immutability belief」 Poster
presentation at The 11th Annual Meeting of the Society for Personality and Social
Psychology, 2010.

Yamamoto, T., & Ohbuchi, K. 「Negative Effects of the Exposure to Benevolent Sexism
on Women's task Performance.」 The 11th Annual Conference of Society for
Personality and Social Psychology, 2010.

Yamamoto, T., & Ohbuchi, K. 「Benevolent sexism: Do women expect it?」 GCOE
International Symposium: Inequality, Discrimination and Social Identity, 2010.

Yamamoto, T., & Ohbuchi, K. 「The Effect of Women's Social Status on the Attitude
toward Benevolent Sexism」 The 13th Annual Meeting of the Society for Personality
and Social Psychology (San Antonio, TX), 2011.

Kawashima, N., & Ohbuchi, K. 「Micro fairness mediates the relationship between social
inequalities and psychological well-being」 Poster presentation at The 12th Annual
Meeting of the Society for Personality and Social Psychology (San Antonio, TX),
2011.

Nakamata, T., & Ohbuchi, K. 「Predispositions to approach and avoid the positive and
negative stimuli」 The 16th General Meeting of the European Association for Social
Psychology (Sweden), 2011.

Togawa, E., & Ohbuchi, K. Approach to juvenile sexual offenders with TAT. Paper
presented at the 16th World Congress of the International Society for Criminology

- (Kobe International Conference Center, Kobe), 2011.
- Nakagawa, T., & Ohbuchi, K. 「Effect of collective low self-control and strain in delinquency with peer」 Poster presented at the the 16th World Congress of the International Society for Criminology (Kobe International Conference Center, Kobe), 2011.
- Kawabata, T. Muroki, T. Abe, S., Uchiyama, Y., Taya, K., & Ohbuchi, K. 「The Effect of Type of Perspective Taking on Violent Crime」 Poster presented at the 16th World Congress of the International Society for Criminology (Kobe International Conference Center, Kobe) 2011.
- Yamamoto T., & Ohbuchi K. 「Why do women accept benevolent sexism?: An examination of two motivational concerns」 Poster presented at the 13th Annual Meeting of Society for Personality and Social psychology (San Diego), 2012.
- Asai, N., & Ohbuchi, K. 「Impact of Extended Contact on Chinese Attitude toward Japan before and after the Earthquake 2011」 Poster presented at the 13th Annual Meeting of Society for Personality and Social psychology (San Diego), 2012.
- Kawabata, T., Ohbuchi, K., & Tajima, H., 「Effects of empathy and cognitive biases in three types of aggression in Japanese students」 Poster presented at the International Congress of Psychology 2012 (Cape Town, South Africa), 2012
- Kumagai, T., & Ohbuchi, K. 「Effect of perceived morality of conflicted outgroup on support for reparation policies」 Poster presented at the 20th Conference of International Society of Research on Aggression (Luxemburg), 2012.
- Kawabata, T., Tajima, H., & Ohbuchi, K. 「The effects of cognitive and emotional processes in decision of the aggressive behavior in Japanese students」 Poster presented at the 13th European Congress of Psychology (Stockholm), 2013.
- Kawabata, T., Ohbuchi, K., & Fuchigami, Y. 「Roles of cognitive and emotional variables in the decision processes of aggression among Japanese male delinquents」 Poster presented at the 28th International Congress of Applied Psychology (Paris), 2014.
- Yamawaki, N., Kono, S., Kumagai, T., & Ohbuchi, K. 「Aggression-justifying implicit cognitive biases as a predictor of aggressive behavior」 Poster presented at the 6th Annual conference, Asia Criminological Society (Osaka), 2014.
- Aoki, T. & Ohbuchi, K. (February 28, 2015). 「The impact of morality on fair process effect」 Poster presentation at the 16th Annual Convention of the Society for Personality and Social Psychology (Long Beach), 2015.

Yamawaki, N., Kono, S., Kumagai, T., & Ohbuchi, K 「The type of implicit cognitive biases in justifying aggression and aggressive behavior」 Poster presented at the 16th Annual Convention of the Society for Personality and Social Psychology (Long Beach), 2015.

<国内学会での一般研究発表>

省 略

行場次朗教授

<招待講演・学会主催シンポジウム>

行場次朗 『臨床的問題への基礎心理学的アプローチ』 日本基礎心理学会 2009年度第2回フォーラム 2010年3月 企画・司会

行場次朗 『東日本大震災は被災地の心理学者に何を考えさせたか』 北海道・東北合同心理学会第11回大会企画シンポジウム 2010年9月 企画・司会

Gyoba, J. 『Investigating the sensory relevance of affective dimensions and the corresponding brain activities』 12th International Multisensory Research Forum 2011年10月 特別講演

行場次朗 『「美感」研究の新展開』 日本心理学会第75回大会ワークショップ 2011年9月 指定討論

行場次朗 『「こころ」のサイエンスー心理学が解き明かす心のしくみー』 2011年度日本基礎心理学会公開シンポジウム 2011年11月 企画・司会

行場次朗・宮崎謙一 『食を豊かにする多感覚知覚』 東北心理学会第66回大会・新潟心理学会第49回大会企画シンポジウム 2012年7月 企画・司会

行場次朗 『人間の記憶と現代社会：認知心理学による問題提起と解決』 日本認知心理学会・平成24年度文部科学省研究費助成金(研究成果公開促進費)「研究成果公開発表(B)」補助事業 2012年10月企画

行場次朗 『認知心理学は産業・社会にどう貢献するか』 日本認知心理学会第11回大会 社会連携シンポジウム 指定討論 2013年6月

行場次朗 「迫真性と臨場感の感性心理学」 『魅力の知覚心理学:モノ,人,空間』 日本心理学会第77回大会公募シンポジウム 講演 2013年9月

行場次朗 『発達心理学に脳科学から迫る』 日本発達心理学会東北地区シンポジウム 指定討論 2013年12月

行場次朗 「人・モノ・文化・自然の出会いを支える「空間感性」の重要性」 『人・モノ・文化・自然の出会いを支える「空間感性」の重要性』 電子情報通信

学会総合大会企画シンポジウム 講演 2014年3月

行場次朗 「超々高齢社会における認知研究の新しい切り口を考える」 日本認知科学会第31回大会ワークショップ 指定討論 2014年9月

Gyoba, J. 「Importance of Affective Perception for Space as Bases of Interactions among people, Objects, Culture and Nature」 The Third Social Science and Humanities Forum between Japan and Russia (Joint Seminar) The Dialogue between the Traditonal and the Present 招待講演 2015年3月

行場次朗 「感性次元の感覚関連性の重要性とその様々な計測法について」 花王感性科学研究所 招待講演 2015年4月

<国際学会での一般研究発表>

Takahashi, J., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Visual preference modulates the spatial location memory of visual patterns」 8th Tsukuba International Conference on Memory, (Tsukuba, March), 2010.

Kawachi, Y., Shibata, M., Kawabata, H., Kitamura, M., & Gyoba, J. 「An fMRI study on temporal characteristics of crossmodal/unimodal bouncing effects」 International Multisensory Forum, (Liverpool, June), 2010.

Shibata, M., Yousuke, K., Yairi, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Latencies for the crossmodal release of motion-induced blindness」 11th International Multisensory Research Forum, (Liverpool, June), 2010.

Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「Spatial factors influencing the sound effects on the tactile perception of roughness」 11th International Multisensory Research Forum, (Liverpool, June), 2010.

Teramoto, W., Hidaka, S., Sugita, Y., Sakamoto, S., Gyoba, J., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. 「The contribution of spectral-cue-based sound localization to illusory visual motion perception」 11th International Multisensory Research Forum, (Liverpool, June), 2010.

Hidaka, S., Teramoto, W., Sugita, Y., Manaka, Y., Miyauchi, R., Sakamoto, S., Gyoba, J., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. 「Sounds can induce illusory visual motion perception」 11th International Multisensory Research Forum, (Liverpool, June), 2010.

Takahashi, J., Hidaka, S., Teramoto, W., & Gyoba, J. 「Encoding-efficiency of visual pattern modulates the audio-visual interaction in repetition blindness」 11th International Multisensory Research Forum, (Liverpool, June), 2010.

Sakuta, Y. Ishi, H. Akamatsu, S., & Gyoba, J. 「The effects of the facial impressions on

- the mere exposure effect –On the aspect of facial expressions」 European Conference on Facial Expression (Duisburg, July), 2010.
- Teramoto, W., Hidaka, S., Sugita, Y., Sakamoto, S., Gyoba, J., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. 「Effects of the alternation of sounds on the perceived direction of visual motion」 European Conference on Visual Perception, (Lausanne, August), 2010.
- Kawachi, Y., Matsue, Y., Shibata, M., Imaizumi, O., & Gyoba, J. 「Self-stimulated prepulse inhibition」 International Congress of Clinical Neurophysiology, (Kobe, November), 2010.
- Kawachi, Y., Shibata, M., Kawabata, H., Kitamura, M., & Gyoba, J. 「An fMRI study on temporal characteristics of crossmodal/unimodal bouncing effects」 11th International Multisensory Research Forum, (Fukuoka, October), 2010.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「The capacity of visual short-term memory for expanding and contracting objects」 15th annual meeting of the ASSC (Association for the Scientific Study of Consciousness), (Kyoto, June), 2011.
- Takahashi, J., Hidaka, S., Teramoto, W., & Gyoba, J. 「Repetition blindness modulated by objects' encoding-efficiency」 9th Tsukuba International Conference on Memory, (Tsukuba, March) 2011.
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「An ERP study on the semantic processing of native language in preschoolers: The effects of development and non-native language exposure」 Tohoku International Symposium on Multidisciplinary Neuroscience, (Sendai, January), 2011.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「Louder sounds make objects' apparent sizes larger」 The 9th Tsukuba International Conference on Memory, 2011.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「The effect of auditory stimuli on visual size perception」 The 15th Annual Meeting of The Association for the Scientific Study of Consciousness, 2011.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「The occurrence rate of the fission illusion differs depending on the complexity of visual stimuli」 The 12th International Multisensory Research Forum, 2011.
- Honda, A., Shibata, H., Hidaka, S., Gyoba, J., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. 「The Effects of head movement and accurate proprioceptive feedback in training of sound localization」 12th International Multisensory Research Forum (Fukuoka), 2011.

- Kanda, T., Honda, A., Shibata, H., Asai, N., Teramono, W., Sakamoto, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「The sense of verisimilitude has different spatial-temporal characteristics from those producing the sense of presence in the evaluation process of audiovisual contents」 12th International Multisensory Research Forum (Fukuoka), 2011.
- Sakuta, Y., Ishi, H., Akamatsu, S., & Gyoba, J. 「Mere exposure increases false alarms for caricatured faces.」 The Fifth International Conference on Memory (ICOM-5 Abstracts, p.127) (York, August) , 2011.
- Gyoba, J., Asai, N., Hidaka, S., Honda, A., Shibata, H., & Teramoto, W. 「The sense of verisimilitude has different spatial-temporal characteristics from those producing the sense of presence in appreciating audio-visual contents.」 31th International Congress of Psychology (Capetown, July), 2012.
- Takahashi, J., & Gyoba, J. 「Relationships between self-reported autistic-like traits and visual short-term memory in typically developed individuals.」 International Association for the Scientific Study of Intellectual and Developmental Disabilities (IASSID) 3rd Asia-Pacific Regional Congress, (Tokyo, August), 2013.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「Differential effect of visual and auditory spatial cues on visual numerosity judgment」 Vision Sciences Society Annual Meeting (Florida, May) 2014.
- Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「Visual field asymmetry in auditory facilitation effects for visual identification and localization performance」 The 10th Asia-pacific conference on Vision (Takamatsu, July) 2014.
- Asaoka, R., & Gyoba, J. 「Accuracy and resolution differences in time perception between the central and peripheral visual field」 The 10th Asia-pacific conference on Vision (Takamatsu, July) 2014.
- Saito, G., & Gyoba, J. 「Orientation of the palms alters bistable visual motion perception」 The 10th Asia-pacific conference on Vision (Takamatsu, July) 2014.
- Tachibana, R., & Gyoba, J. 「Comparison of Effectiveness of Different Types of Misdirection: Using Card Magic illusions」 The 10th Asia-pacific conference on Vision (Takamatsu, July) 2014.
- Tachibana, R., & Gyoba, J. 「Effect of Different Types of Misdirection on Attention and Detection of Change」 28th International Congress of Applied Psychology, (Paris, July) 2014.

Takeshima, Y., & Gyoba, J. 「Application of audio-visual integration: Alteration of visual perception by high-intensity sound」 28th International Congress of Applied Psychology (Paris, July) 2014.

Saito, G & Gyoba, J. 「Proprioceptive information on hands alters visual motion event perception」 The 52th Korean Society for Cognitive and Biological Psychology Conference. The Korean Journal of Cognitive and Biological Psychology. Jeju, Korea (January) 2015.

Tachibana, R., Saito, G., Asaoka, R., Gyoba, J., & Koizumi, M. 「The processing load according to word order preference in utterance: NIRS and eye tracking study in Kaqchikel Maya」 The 52th Korean Society for Cognitive and Biological Psychology Conference. The Korean Journal of Cognitive and Biological Psychology. 27, pp76. Jeju, Korea (January) 2015

<国内発表>

約 125 件 (省略)

阿部恒之教授

<招待講演・学会主催シンポジウム>

阿部恒之 「味と香りと行動の人間科学」, 日本心理学会第 74 回大会シンポジウム (大阪大学, 9 月 22 日), 2010 (指定討論).

阿部恒之 「東日本大震災は被災地の心理学者に何を考えさせたか」, 北海道心理学会・東北心理学会第 11 回合同大会シンポジウム (北翔大学, 8 月 21 日), 2011.

戸島貴代志・佐倉由泰・阿部恒之 「機縁としての顔—復興の狼煙と哲学・文学・心理学」, 日本顔学会第 18 回大会シンポジウム (東北大学, 11 月 10 日), 2013.

<自主企画ワークショップ>

(話題提供) 「日本心理学会・味嗅覚と行動に関する研究会—味わうこと, 香ること, 食べること」, 日本心理学会第 74 回大会 (大阪大学, 9 月 21 日), 2010.

(話題提供) 「東日本大震災後の犯罪: 被災地における犯罪の実態と不安」, 日本心理学会第 77 回大会・公募シンポジウム (北海道医療大学, 9 月 20 日), 2013.

<国際学会>

Wiwattanapantuwong, J., & Abe, T. 「Psychological influence over natural disaster

- preparation: a cross-country comparison between Thai and Japanese citizen」, The 3rd Thailand-Japan International Academic Conference (TJIA 2010) (名古屋大学, 11月19日), 2010.
- Kawashima, M., Shitata, M., Hikima, R., & Abe, T. 「Evaluation of facial attractiveness with emotional change: Does a woman become more beautiful when she experiences tokimeki?」, The 10th Scientific Conference of Asian Societies of Cosmetic Scientists, (ソウル, 4月9日), 2011.
- Kikuchi, F., Akita, Y., & Abe, T. 「Influence of olfactory cognition on the perceived effect of lip balm」, The 9th Tsukuba International Conference on Memory, (学習院大学・3月7日), 2011.
- Wiwattanapantuwong, J., & Abe, T. 「The role of emotions in disaster preparation: A cross-country comparison between Japan and Thailand」, International Society for Research on Emotion 2011 Conference, (京都ガーデンパレス・7月27日), 2011.
- Abe, T. 「Crime and mutual aid in disaster areas」, The 16th World Congress of the International Society for Criminology (神戸・国際会議場, 8月9日), 2011.
- Wiwattanapantuwong, J., & Abe, T. 「The difference of disaster preparation styles between central and southern Thailand's citizen」, The 4th Thailand-Japan International Academic Conference, (東京大学・11月26日), 2011.
- Abe, T. 「Introduction of Psychological Laboratory」, The First Social Science and Humanities Forum between Japan and Russia (モスクワ大学・12月8日), 2011.
- Wiwattanapantuwong, J., Lee, C., & Abe, T. 「Citizen's viewpoints toward natural disaster's threat: An examination of cultural difference between Taiwan and Thailand」, Ninth International Conference on Environmental, Cultural, Economic and Social Sustainability, (ANA クラウンプラザ広島・1月23-25日), 2013.
- Nakamata, T., & Abe, T. 「Eye movement response to pleasant/unpleasant facial expression」, The Fourteenth Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology (ニューオーリンズ・1月17-19日) 2013.
- Nakamata, T., Hirano, D., & Abe, T. 「The factors affecting littering: Signboards, prior Litters, environment, and monitoring camera」, The 13th European Congress of Psychology (ストックホルム・7月9日-12日), 2013.
- Wiwattanapantuwong, J., Honda, A., & Abe, T. 「Moral dilemmas in Japan after the Fukushima nuclear disaster: Effects of residential area and disaster experience」, International Society for Research on Emotion 2013 Conference (米国パークレー・

8月3日～5日), 2013.

Abe, T. 「Dark, Cold, and Hungry, but Full of Mutual Trust: Manner of Disaster Victims」, Round Table Discussion (モスクワ大学・10月10日), 2013.

Abe, T. 「The Criminal Perception of Victims after the Great East Japan Earthquake」, The 6th Annual Conference of the Asian Criminological Society (大阪商業大学・6月28日, 自主企画シンポジウム “Disaster and Crime: Crime and the Control after the Great East Japan Earthquake”) , 2014.

Mori, T., Yamamoto, M., Matsubara, H., Okamoto, H., Abe, T., Hirayama, M., Saito, T., Komatsu, M., & Matsuki, T. 「Crime after the Great East Japan Earthquake (1): Time series analysis of the number of reported crimes in the Miyagi prefecture」, The 7th Annual Conference of Asian Criminological Society(香港城市大学・6月24～26), 2015.

Okamoto, H., Saito, T., Matsuki, T., Abe, T., Mori, T., Yamamoto, M., Matsubara, H., T., Hirayama, M., & Komatsu, M. 「Crime after the Great East Japan Earthquake (2): An analysis of the victims of crime survey of residents in the Iwate, Miyagi, Fukushima, and Ibaragi Prefectures」, The 7th Annual Conference of Asian Criminological Society (香港城市大学・6月24～26), 2015.

Abe, T., Hirayama, M., Komatsu, M., Okamoto, H., Mori, T., Yamamoto, M., Matsubara, H., Saito, T., & Matsuki, T. 「Crime after the Great East Japan Earthquake (3): Change of norms during disasters」, The 7th Annual Conference of Asian Criminological Society (香港城市大学・6月24～26), 2015.

<国内学会での一般研究発表>

菊地史倫・佐藤 拓・阿部恒之 「嘘の誤算—嘘の露見が弁解の効能に与える影響」日本心理学会第74回大会(大阪大学, 9月22日), 2010.

設楽茉莉絵・河島三幸・阿部恒之 「ときめきは表情にあらわれるか」日本心理学会第74回大会(大阪大学, 9月22日), 2010.

河島三幸・設楽茉莉絵・引間理恵・阿部恒之 「ときめいているときの表情—他者による弁別と形態特徴」第15回日本顔学会大会(東京医科歯科大学, 10月24日), 2010.

設楽茉莉絵・河島三幸・阿部恒之 「ときめいている顔の魅力と印象」東北心理学会第64回大会(宮城学院女子大学, 9月11日), 2010.

加藤ちあき・阿部恒之 「携帯型ゲームの生理心理学的効果」東北心理学会第64回大会(宮城学院女子大学, 9月11日), 2010.

- Juthatip Wiwattanapantuwong・阿部恒之 「防災意識の国際比較研究—タイ人, 日本人, タイ人日本留学生を対象に」 東北心理学会第 64 回大会(宮城学院女子大学, 9 月 11 日), 2010.
- 河島三幸・設楽茉莉絵・引間理恵・阿部恒之 「感情変化に伴う表情の魅力の変化:ときめく女性はキレイ?」 SCCJ 研究討論会・ASCS 韓国大会国内報告会(大阪国際交流センター, 6 月 25 日), 2011.
- 李 佳容・阿部恒之 「日台の化粧習慣と美容意識」 北海道心理学会・東北心理学会第 11 回合同大会(北翔大学・8 月 21 日), 2011.
- Juthatip Wiwattanapantuwong・阿部恒之 「防災意識に与える被災感情の影響—タイにおける面接調査」 北海道心理学会・東北心理学会第 11 回合同大会(北翔大学・8 月 21 日), 2011.
- 李 佳容・阿部恒之 「化粧意識についての日台比較—半構造化面接を中心に」 日本感情心理学会第 19 回大会(京都光華女子大学・9 月 3 日), 2011.
- 織田弥生・高野ルリ子・阿部恒之 「短期的・長期的心理状態を測定可能な情動・覚醒質問紙の作成(3)—妥当性の検討(2)」 日本心理学会第 75 回大会(日本大学・9 月 15 日), 2011
- Juthatip Wiwattanapantuwong・阿部恒之 「被災感情が防災意識に与える影響—日本とタイの国際比較」 日本感情心理学会第 19 回大会(京都光華女子大学・9 月 3 日), 2011.
- 張 燕・阿部恒之 「美容整形意識の日韓比較—ソウルにおける面接調査」 日本感情心理学会第 20 回大会(神戸大学・5 月 26 日), 2012.
- Juthatip Wiwattanapantuwong・本多明生・阿部恒之 「東日本大震災の復興活動に対する感情評価」 日本感情心理学会第 20 回大会(神戸大学・5 月 27 日), 2012.
- Juthatip Wiwattanapantuwong・張燕・本多明生・阿部恒之 「韓国における東日本大震災の評価」 東北心理学会第 66 回大会・新潟心理学会第 49 回大会(新潟大学・7 月 14 日), 2012.
- 中俣友子・阿部恒之 「快・不快表情に対する反応—視線の動きに注目して」 日本感情心理学会第 20 回大会(神戸大学・5 月 27 日), 2012.
- 中俣友子・阿部恒之 「単純作業における反応合理性」 東北心理学会第 66 回大会・新潟心理学会第 49 回大会(新潟大学・7 月 15 日), 2012.
- 張 燕・阿部恒之 「東アジアにおける美容整形の意識の比較」 東北心理学会第 66 回大会・新潟心理学会第 49 回大会(新潟大学・7 月 15 日), 2012.

- Juthatip Wiwattanapantuwong・本多明生・阿部恒之 「東日本大震災における逸脱行動とその許容性に関する実態調査」 日本心理学会第76回大会(専修大学・9月12日), 2012.
- Juthatip Wiwattanapantuwong, Chia-jung Lee, & Tsuneyuki Abe “Citizen’s viewpoints toward natural disaster’s threat: An examination of cultural difference between Taiwan and Thailand” Ninth International Conference on Environmental, Cultural, Economic and Social Sustainability (広島国際センター・1月23-25日予定), 2013.
- 杉浦元亮・野内類・佐藤翔輔・邑本俊亮・今村文彦・阿部恒之・本多明生・岩崎雅宏 「生きる力とは何か—3.11 震災経験の認知科学的分析」 第31回日本自然災害学会学術講演会(弘前大学・9月19日), 2012.
- 菊地史倫・佐藤 拓・阿部恒之 「ユーモアの聞き手の不利益とユーモア認知が弁解者の性格特性の推測に与える影響」日本感情心理学会第21回大会(東北大学・5月11-12日), 2013.
- 小形佳祐・阿部恒之 「覚醒水準と唾液中コルチゾールのサーカディアンリズム—生活リズムの観点から」日本感情心理学会第21回大会(東北大学・5月11-12日), 2013.
- Juthatip Wiwattanapantuwong・本多明生・阿部恒之 「東日本大震災・復興活動に対する感情的地域差」日本感情心理学会第21回大会(東北大学・5月11-12日), 2013.
- 中俣友子・平野大二郎・阿部恒之 「ゴミの不法投棄抑制要因と嫌悪感情」日本感情心理学会第21回大会(東北大学・5月11-12日), 2013.
- 本多明生・Juthatip Wiwattanapantuwong・阿部恒之 「原子力発電に対する態度研究の現在」日本感情心理学会第21回大会(東北大学・5月11-12日), 2013.
- 佐藤翔輔・邑本俊亮・野内 類・今村文彦・杉浦元亮・阿部恒之・本多明生・岩崎雅宏第「災害時の「生きる力」に関する探索的研究—東日本大震災の被災経験者の証言から」, 第32回日本自然災害学会学術講演会(北見工業大学・9月24-25日), 2013.
- 中俣友子・阿部恒之 「ゴミの不法投棄抑制に対する看板と環境の効果—名取川における現場実験」日本社会心理学会第54回大会(沖縄国際大学・11月2-3日), 2013.
- 小形佳祐・阿部恒之 「真偽判断に制御焦点が及ぼす影響」日本感情心理学会第22回大会(宇都宮大学5月31日-6月1日), 2014.

Juthatip Wiwattanapantuwong・阿部恒之 「逸脱行動に対する感情評価の検討—災害時の創発規範」 日本感情心理学会第 22 回大会（宇都宮大学 5 月 31 日-6 月 1 日）， 2014.

中俣友子・阿部恒之 「現場実験によるゴミの不法投棄抑制要因の検討」 日本感情心理学会第 22 回大会（宇都宮大学 5 月 31 日-6 月 1 日）， 2014.

馬 艶青・阿部恒之 「身体意識尺度の作成」 日本感情心理学会第 22 回大会（宇都宮大学 5 月 31 日-6 月 1 日）， 2014.

本多明生・Juthatip Wiwattanapantuwong・阿部恒之 「放射能汚染の恐怖は震災復興施策への反応を特徴付ける」 日本心理学会第 78 回大会（同志社大学・9 月 10-12 日）， 2014.

小形佳祐・阿部恒之 「嘘検出における感度と反応バイアスの性差について」 日本心理学会第 78 回大会，（同志社大学・9 月 10-12 日）， 2014.

坂井信之准教授

<学会シンポジウム・ワークショップ・講演>

坂井信之 「食品・日用品の認知と評価～味覚と嗅覚の複合感覚を中心に」 日本官能評価学会第 16 回大会講演（東京農業大学，11 月 26 日）， 2011 年 11 月.

坂井信之 「風味知覚形成のメカニズム」 東北心理学会第 66 回大会・新潟心理学会第 49 回大会合同大会 大会企画シンポジウム「食を豊かにする多感覚知覚」（新潟大学，7 月 15 日）， 2012 年 7 月.

坂井信之 「色彩と心理」 第 20 回日本歯科色彩学会総会・学術大会講習会（日本大学松戸歯学部，7 月 28 日）， 2012 年 7 月.

Sakai, N. 「The psychology of eating: From the point of view of experimental, social, and applied psychology.」 The 2nd Social Science and Humanities Forum between Japan and Russia, 10.11, Moskow, Russia, 2013 年 10 月.

Sakai, N. 「Heuristic perception of products by consumers: Theory & applications」 SenseAsia 2014, 5.13, Singapore, 2014 年 5 月.

坂井信之 「和食を科学する」シンポジスト『第 61 回日本栄養改善学会学術総会』 2014 年 8 月 22 日 パシフィコ横浜

<国際学会での一般研究発表>

Sakai, N., & Fujiwara, S. 「The effects of packages of skin care products on perception of skin conditioning after using the products」 9th Pangborn Sensory Science Symposium, 9.4-8, Tronto, Canada, 2011.

- Onoe, T., Ohyama, N., & Sakai, N. 「Effects of combination between fragrances and colors on performance of the hand soap」 9th Pangborn Sensory Science Symposium, 9.4-8、Tronto, Canada, 2011.
- Matsui, C., & Sakai, N. 「Does eating with someone make foods better taste?Effect of the social context on taste perception」 9th Pangborn Sensory Science Symposium, 9.4-8、Tronto, Canada, 2011.
- Yoshimatsu, H., Murata, M., Yamada, N., Ikenishi, T., Kondo, N., Niikura, Y., Sako, N., & Sakai, N. 「The effect of mint flavor on taste perception」 9th Pangborn Sensory Science Symposium, 9.4-8、Tronto, Canada, 2011.
- Saka, N., Fujimoto, M., & Murata, M. 「Interactions between flavor and taste: Using dashi soup as a taste stimulus」 12th International Multisensory Research Forum、2011.
- Sakai, N. 「Tasting with eyes」 12th International Multisensory Research Forum、2011.
- Sakai, N., Yoshimatsu, H., Ikenishi, T., Niikura, Y., Hagiwara, N., & Sako, N. 「Processing of mint flavor activates different brain areas from those of mint aroma.」 XVI International Symposium on Olfaction and Taste, Stockholm, Sweden, June 23-27 2012.
- Imada, S., Sakai, N., Takagaki, A., Koyama, H., Yokota, K., & Nakanishi, D. 「Effects of package of the commercial food on evaluation of the palatability: Good packages are not always “good” for the product」 5th European Conference on Sensory and Consumer Research, Bern, Switzerland, 2012.
- Sakai, N., Kurosaki, N., & Fuchimoto, J. 「The impact of communication on palatability evaluations of food and beverage.」 Pangborn Sensory Science Symposium, 2013.
- Fuchimoto, J., Ohnuma, T., Araki, S., Shigyo, T., & Sakai, N. 「The effect of ester flavor on the perception of beer.」 Pangborn Sensory Science Symposium, Rio de Janeiro, Brazil, 2013.
- Onuma, T., Fuchimoto, J., & Sakai, N. 「Is it true that unfamiliar brands are the meaningless symbols? : Intra-brand assimilation occurs to palatability evaluation of carbonated beverages.」 Pangborn Sensory Science Symposium, Rio de Janeiro, Brazil, 2013.
- Penwankul, Y., & Sakai, N. 「Comparison of perceived Asian country image among Thai consumers」 6th Thailand-Japan International Academic Conference 2013, 11.9, Osaka, 2013.
- Onuma, T., Fuchimoto, J., & Sakai, N. 「Fall in love at second look: Gaze bias in the

- comparison stage of visual decision making.」SenseAsia 2014, 5.12, Singapore, 2014.
- Sakai, N., Kanda, M., & Onuma, T. 「Fragrance of fabric softener changes impression of women.」 SenseAsia 2014, 5.12, Singapore, 2014.
- Onuma, N., Fuchimoto, J., Matsumoto, S., & Sakai, N. 「Psychological study on tipsy feeling after drinking a non-alcoholic beer.」 International Conference on Applied Psychology, 7.10, Paris, France, 2014.
- Sakai, N. 「Conformity in food palatability; the effects of a number of influencers and positive and/or negative directions.」 International Conference on Applied Psychology, 7.12, Paris, France, 2014.
- Hasegawa, T. and Sakai, N. 「The relationships between the likings of concentrations of sweeteners, umami and daily eating behavior.」 『22th Annual Meeting of the Society for the study of Ingesting Behavior』 2014年7月29日, Seattle, WA, USA.
- Nakamura, M. and Sakai, N. 「Impact of eating-together on facial expression of emotion.」 『First World Congress Facial Expression of Emotion.』 2014年10月9日, Porto, Portugal.
- Yuwadee Penwannakul and Nobuyuki Sakai 「Country-of-origin Effect as a Stereotype: Role of experience and Country-of-origin Image」 『The 7th Thailand-Japan International Academic Conference 2014』 2014年11月22日

<国内学会での一般研究発表>

- 碓 哲崇・安松啓子・坂井信之・池西岳樹・新倉祐司・萩森夏芽 「スペアミン
トによる味覚抑制はカルボン酸に起因する」 日本味と匂学会第46回大会,
2012年10月
- 坂井信之・大沼卓也・今田純雄 「選択することがカレーのおいしさ評定に及ぼ
す効果」 日本味と匂学会第46回大会, 2012年10月
- 神田光栄・松井千笑・小野間統子・坂井信之 「食物の咀嚼回数やおいしさ評定
における共食の影響」 日本味と匂学会第46回大会, 2012年10月
- 坂本光司・神田光栄・坂井信之・永友茂美 「玄関における香りが女性の印象形
成に及ぼす影響」 日本味と匂学会第46回大会, 2012年10月
- 大沼卓也・坂井信之 「口コミ情報がカレーのおいしさ評定に及ぼす影響」 東
北心理学会第67回大会, 2013年5月.
- 大沼卓也・荒木茂樹・坂井信之 「ワインボトルを用いた視線のカスケードモデ
ルの検討」 日本感情心理学会第21回大会, 2013年5月.
- 坂井信之・小野間統子・松本彩和 「飲料摂取が認知活動に及ぼす影響」 ビール、

- ノンアルコールビール、エナジードリンクの効果」 日本健康心理学会第 26 回大会, 2013 年 9 月.
- 神田光荣・坂井信之 「香りによる人物の印象が瞳孔径の変化に及ぼす影響」 日本心理学会第 77 回大会, 2013 年 9 月.
- 大沼卓也・瀧本 潤・坂井信之 「視覚的意思決定の初期段階における視線の偏り- 注視パターン別の初回滞留時間の検討- 」 日本心理学会第 77 回大会, 2013 年 9 月.
- 長谷川智子・坂井信之 「甘味・旨味の好悪と日常の食生活について (1) 甘味・旨味の好悪に関する基礎的研究」 日本心理学会第 77 回大会, 2013 年 9 月.
- 瀧本 潤・大沼卓也・坂井信之 「エステル香の添加が飲料の評価に及ぼす影響」 日本心理学会第 77 回大会, 2013 年 9 月.
- 神田光荣・坂井信之 「香りが人物の印象に与える影響- NIRS による検討- 」 日本味と匂学会第 47 回大会, 2013 年 9 月.
- 小野間統子・瀧本 潤・坂井信之 「ノンアルコール飲料による醜悪感の心理学的検討」 日本味と匂学会第 47 回大会, 2013 年 9 月.
- 大沼卓也・坂井信之 「カテゴリーとしてのブランドが炭酸飲料のおいしさ評価に及ぼす影響」 日本味と匂学会第 47 回大会, 2013 年 9 月.
- 松本彩和・瀧本 潤・坂井信之 「エナジードリンクが認知活動に及ぼす心理的影響の検討」 日本味と匂学会第 47 回大会, 2013 年 9 月.
- 長谷川智子・坂井信之 「子どもの共食に関する心理学的研究 (1)」 日本発達心理学会第 25 回大会, 2014 年 3 月
- 大沼卓也・坂井信之 「選択肢の空間的位置が注意と選好判断に及ぼす影響」 日本感情心理学会第 22 回年次学術大会, 2014 年 5 月
- 坂井信之 「食物のおいしさ評価は他者評価を知ることによって変わるか?」 『日本応用心理学会第 81 回大会』 2014 年 8 月 30 日~31 日中京大学
- Yuwadee Penwannakul・坂井信之 「商品に対する消費者の知覚と評価における原産国効果- タイの消費者を対象に- 」 『日本応用心理学会第 81 回大会』 2014 年 8 月 30 日~31 日中京大学
- 瀧本 潤・荒木茂樹・中村 剛・坂井信之 「食習慣や味覚感受性がビールのおいしさに及ぼす影響」 『第 48 回日本味と匂学会大会』 2014 年 10 月 2 日~4 日
- 大沼卓也・坂井信之 「ラットにおける味と匂いの連合学習と快・不快価の転移」 『第 48 回日本味と匂学会大会』 2014 年 10 月 2 日~4 日
- 庄子道生・坂井信之 「水素・ヒノキ精油含有入浴剤の使用がヒトの心理と生理

に及ぼす影響」『第 48 回日本味と匂学会大会』2014 年 10 月 2 日～4 日
荒木茂樹・小島英敏・澁本 潤・中村 剛・裕 哲崇・坂井信之「ビールの香り
により脳賦活の fMRI 計測」『第 48 回日本味と匂学会大会』2014 年 10 月 2
日～4 日
石田純規・伴正 保・山上圭吾・坂井信之「食酢共存下で見られる塩味増強効果
の Time Intensity と NIRS を用いた脳機能計測による客観的評価」『第 48 回
日本栄養・食糧学会東北支部大会』2014 年 11 月 1 日
大沼卓也・坂井信之 「匂いと味の学習における組み合わせ特異性の検討」 東
北心理学会第 68 回大会, 2014.
石田純規、伴正 保、山上圭吾、坂井信之「食酢共存下で見られる塩味増強効果
の Time Intensity と NIRS を用いた脳機能計測による客観的評価」『平成 26 年
度 日本食品科学工学会 中部支部大会』2014 年 12 月 13 日
長谷川智子・坂井信之・岩崎公二郎「子どもの共食に関する心理学的研究（2）
児童期の孤食・共食時における行動の比較」『第 26 回日本発達心理学会』,
2015 年 3 月 20 日～22 日, 東京大学本郷キャンパス

辻本昌弘准教授

<招待講演・学会主催シンポジウム>

辻本昌弘 「南米日系人の調査から」『フィールドワーク：東北フィールド学派
の系譜をめぐって』日本質的心理学会第 7 会大会 大会企画シンポジウム（茨
城大学, 11 月 27 日）, 2010.

辻本昌弘 「アルゼンチン日系人の歴史と生活史」東京大学社会心理学コロキウ
ム（東京大学, 3 月 6 日）, 2015.

<国際学会での一般研究発表>

Tsujimoto, M. 「An indigenous form of social exchange in Okinawa Island」 International
Conference of Revisited Asian Society, (Yogyakarta, July 23), 2011.

<国内学会での一般研究発表>

辻本昌弘・Alejandro Kuda 「アルゼンチン日系人の生活史」 東北心理学会第 64
会大会（宮城学院女子大学, 9 月 12 日）, 2010.

辻本昌弘「生活史研究の方法論：移民の口述を例に」 東北心理学会第 67 回大会
（東北工業大学, 5 月 11 日）, 2013.

荒木剛助教（2010 年度以降の業績）

荒木 剛・佐藤 拓・菊地史倫・池田和浩 「侵入思考に対する自我違和的評価とコーピングの関係(2)」 日本心理学会第74回大会, 2010.

柴田寛助手 (2011年度の業績)

<国際学会での一般研究発表>

Honda, A., Shibata, H., Hidaka, S., Gyoba, J., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. 「The Effects of head movement and accurate proprioceptive feedback in training of sound localization」 12th International Multisensory Research Forum (Fukuoka), 2011.

Kanda, T., Honda, A., Shibata, H., Asai, N., Teramono, W., Sakamoto, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「The sense of verisimilitude has different spatial-temporal characteristics from those producing the sense of presence in the evaluation process of audiovisual contents」 12th International Multisensory Research Forum (Fukuoka), 2011.

<国内学会での一般研究発表>

神田敬幸・本多明生・柴田 寛・浅井暢子・寺本 渉・坂本修一・岩谷幸雄・行場次朗・鈴木陽一 「視聴覚コンテンツにおける臨場感・迫真性の規定因」 第16回日本バーチャルリアリティ学会大会, 2011.

神田敬幸・本多明生・柴田 寛・浅井暢子・寺本 渉・坂本修一・岩谷幸雄・行場次朗・鈴木陽一 「視聴覚コンテンツの臨場感と迫真性に関する実験的研究—シンバル演奏場面における視野制限と音圧レベルの効果—」 電子情報通信学会(ヒューマン情報処理研究会), 2011.

柴田 寛・乾 敏郎・小川健二 「社会的な文脈で行われる手の動作の理解における下前頭回の役割」 第34回日本神経科学大会, 2011.

鈴木結花助教 (2012年度の業績)

<国際学会での一般研究発表>

Suzuki, Y., Okuyama, T., & Tanaka, M., 「Signal detection study of the effect of sound on the discrimination of hardness」 European Conference on Visual Perception, (Alghero, Italy; September 6), 2012.

上原俊介助教 (2013年度～の業績)

<国内学会での一般研究発表>

上原俊介・中川知宏・田村 達・小形佳祐・齋藤五大 「怒りと道徳的違反の知

覚: 危害の正当性と義憤および私憤に対するその影響」 日本心理学会第 77 回大会, 2013 年 9 月.

上原俊介・中川知宏・田村 達・森 丈弓・小形佳祐 「何が義憤の怒りを生起させるか? 公正と配慮の道德観」 東北心理学会第 67 回大会, 2013 年 12 月.

上原俊介・手島啓文・田村 達・中川知宏 「道徳的違反と怒り感情: 私憤喚起における権利意識の効果」 日本心理学会第 78 回大会, 2014 年 9 月.

上原俊介・手島啓文・田村 達・中川知宏 「道徳違反場面における義憤喚起の要因と効果: 被害の種類による影響」 東北心理学会第 68 回大会, 2014 年 11 月.

2 教員の受賞歴 (2010 年度~2015 年 5 月 20 日)

行場次朗教授

寺本 渉・吉田和博・浅井暢子・日高聡太・行場次朗・鈴木陽一 「日本バーチャルリアリティ学会 2011 年度論文賞」, 2011.

行場次朗 「第 6 回今井賞」, 2011.

高橋純一・行場次朗・山脇望美 「日本認知心理学会第 10 回大会優秀発表賞 (総合性評価部門)」, 2012

阿部恒之教授

菊地史倫・庄司 耀・阿部恒之「日本認知心理学会第 7 回大会優秀発表賞」, 2010 年 5 月

遠藤光男・桐田隆博・阿部恒之「2010 年度基礎心理学研究優秀論文賞」, 2011 年 12 月

阿部恒之「東北大学全学教育貢献賞」, 2012 年 1 月

Juthatip Wiwattanapantuwong・本多明生・阿部恒之「日本感情心理学会第 21 回大会独創研究賞」, 2013 年 5 月

中俣友子・平野大二郎・阿部恒之「日本感情心理学会第 21 回大会グッド・プレゼンテーション賞」, 2013 年 5 月

阿部恒之「ロシア国立モスクワ大学心理学部・交流促進に対する感謝状」, 2013 年 12 月

中俣友子・阿部恒之「日本顔学会第 18 回大会 (フォーラム顔学 2013) 原島賞, 2013 年 11 月

坂井信之准教授

坂井信之「電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション賞」2013年12月

瀧本 潤・荒木茂樹・中村 剛・坂井信之「日本味と匂学会優秀ポスター賞」2014年10月

上原俊介助教

上原俊介・中川知宏・田村 達・小形佳祐・齋藤五大「日本心理学会第77回大会優秀発表賞」, 2013年12月

IV 教員による競争的資金獲得 (2010~2015年度)

(1) 科学研究費補助金

大淵憲一教授

科学研究費補助金 (基盤研究(B)、研究分担者) 「中高年者の高次脳機能と筋運動機能および生活習慣との関連に関する神経心理学的研究」2007年度~2011年度

科学研究費補助金 (基盤研究(B)、研究分担者) 「脳画像の適正な社会的使用のための基礎研究」2008年度~2012年度

科学研究費補助金 (基盤研究(C)、研究分担者) 「教育価値観と葛藤解決の包括的研究: 国際比較と世代間比較」2008年度~2011年度

グローバル COE「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」(事業推進担当者) 2008年度~2012年度

科学研究費補助金 (基盤研究(B)、研究代表者) 「現代日本人の価値観: 古層と伝統的思想(仏教、儒教、神道・国学)の影響」2010年度~2013年度

科学研究費補助金 (基盤研究(C)、研究代表者) 「日本人の謝罪傾向: 比較文化的検討」2014年度~2016年度

科学研究費補助金 (基盤研究(C)、研究分担者) 「不表出攻撃による抑うつ発生メカニズムとその介入技法の開発」2015年度~2017年度

行場次朗教授

科学研究費補助金「基盤研究 (C) (一般)」 「意味微分法で抽出される感性次元の脳内基盤の解明」 (2009~2011年度) 代表

科学研究費補助金「基盤研究 (B) (一般)」 「顔の視覚像が感性印象に寄与する因子の実験的・心理学的分析」 (2009~2011年度) 分担

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「児童青年期精神障害および高齢者関連疾患における先進的個別化予防ケアシステムの構築に関する研究」
(平成 20～平成 24 年度) 分担

科学研究費補助金「基盤研究 (B) (一般)」 「「心のデザイン」モデルによる視覚芸術の特性と脳内基盤の解明」 (2006～2008 年度) 代表

科学研究費補助金「特別推進研究」 「マルチモーダル感覚情報の時空間統合」
(2007～2011 年度) 分担

科学研究費補助金「基盤研究 (B) (一般)」 「実験心理学における古典的実験機器のアーカイブ化とその活用」 分担

文部科学省学術フロンティア推進事業「五感を介する刺激測定に基づく健康向上のための人間環境システムの構築」 (平成 16～20 年度) 分担

科学研究費補助金「基盤研究 (S) (一般)」 「O S 型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究」 (平成 22～26 年度) 分担

科学研究費補助金「基盤研究 (B) (一般)」 「実験心理学における古典的実験機器のアーカイブ化とその活用」 (平成 22～24 年度) 分担

科学研究費補助金「基盤研究 (B) (一般)」 「3 次元顔モーフィングモデルによる高次視覚印象の創出と感性インタフェースへの応用」 (平成 24～26 年度) 分担

科学研究費補助金「挑戦的萌芽研究」 「逆理的効果に基づく新しい感性概念「迫真性」の追求とその応用」 (平成 24～25 年度) 代表

科学研究費補助金「基盤研究 (C) (一般)」 「新しい感性概念「迫真性」の重要性とその心理脳内基盤の検討」 (平成 26～28 年度) 代表

阿部恒之教授

「ハイパー・ダイアログの包括的理解」 (研究分担者), 基盤研究 (C)2150002 ,
(研究代表者: 戸島貴代志), 2009 年度～2011 年度

「対話の時間性—「機」の諸相について」 (研究分担者), 基盤研究 (C) 24520004 ,
(研究代表者: 戸島貴代志), 2012 年度～2014 年度

「大規模災害後の犯罪対策に関する実証的研究—犯罪発生の予防と犯罪不安の低減のために」 (研究分担者), 基盤研究 (B) 25285025, (研究代表者: 岡本英生), 2013 年度～2015 年度

坂井信之准教授

坂井信之,科学研究費補助金(基盤研究(C)・研究代表者)「共食の重要性に関する心理学的側面」(2011年度~2013年度)

坂井信之,科学研究費補助金(基盤研究(C)・研究分担者)「心身的リハビリテーション効果の口腔ケアリング・リハビリテーションの確立」(2013年度~2015年度)

坂井信之,科学研究費補助金(基盤研究(C)・研究代表者)「食物の「おいしさ」を正確に測る方法の開発と応用」(2014年度~2016年度)

坂井信之,科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究・研究分担者)「ストーマにおけるおいとその対策に関する萌芽的研究」(2014年度~2016年度)

辻本昌弘准教授

科学研究費補助金若手研究(B)「アルゼンチン日系人の文化変容」(2009年度~2011年度) 代表

科学研究費補助金基盤研究(C)「地域社会の社会心理学」(2012年度~2014年度) 代表

鈴木結花助教(2011年度~2012年度)

科学研究費補助金「特別研究員奨励費」「表面の質感知覚および感性評価における触聴覚情報処理メカニズムの解明」(2011~2012年度8月) 代表

科学研究費補助金「研究活動スタート支援」「物体の情緒的質感知覚における触聴覚情報処理の解明」(2012~2013年度) 代表

上原俊介助教(2013年度以降)

科学研究費補助金(若手研究(B)、研究代表者)「親密な人間関係と怒りの感情表出に関する社会心理学的研究」2015年度~2017年度

(2) その他

行場次朗教授

(株)デンソー 学術指導「先端材料等に関する学術指導(文)」(2011年度~2013年度)

BASFコーティングジャパン株式会社・JFE鋼板株式会社 学術指導「仮設住宅の壁色における心理効果の検証」(2012年9月~2013年11月)

阿部恒之教授

- 東北大学防災科学研究拠点（総長裁量経費，2010年4月～2012年3月）
- 東北大学災害科学国際研究所特定プロジェクト研究（2012年度）
- 国土交通省東北地方整備局学術指導（2010年度～）
- 財団法人社会安全研究財団助成研究「大災害後の防犯対策に関する研究—東日本大震災後の調査に基づいて」（2012年4月～2013年9月）
- 東北大学災害科学国際研究所特定プロジェクト研究・拠点研究「具体的震災対策提言を目指した災害文化の研究」（2012年）
- 東北大学災害科学国際研究所特定プロジェクト研究（学外連携）「災害文化教育カリキュラムの構築」（2013年）
- 東北大学災害科学国際研究所特定プロジェクト研究（拠点A）「災害を生きる力（年度ごとに題目細部変更）」（2012年～2015年）
- 株資生堂共同研究「中国-日本の化粧文化比較に関する研究」（2014年～）
- 公益財団法人鉄道総合技術研究所共同研究「意思決定スキルの測定に向けた意思決定課題の開発」（2014年～）

坂井信之准教授

- 財団法人うま味研究会研究助成金「うま味と香りの交互作用における学習や食習慣の影響」（研究代表者：2010～2011年度）
- 財団法人アサヒビール学術振興財団助成金「共食することによって生じる「おいしさの亢進」に関する行動科学的研究」（研究代表者：2010～2011年度）
- （株）デンソー 学術指導「先端材料等に関する学術指導（文）」（2011年度）
- 日本たばこ産業株式会社 学術指導「消費者の嗜好に影響を及ぼす味、香り、その他因子の関係解明」（2012年度～）
- 小林製薬株式会社 共同研究「香りによる住宅内の印象変化に関する研究」（2012年度～2013年度）
- サントリー株式会社 共同研究「さっぱり感の嗜好性検討」（2012年度）
- クラシエホームプラダクツ株式会社 学術指導「洗顔による気分改善効果に関する心理学的知見」（2012年度～）
- ライオン株式会社 学術指導「香りや香味がヒトに与える心理・生理的な効果の評価法開発」（2012年度～2014年度）
- 杉山産業化学研究所研究助成「「おいしさ」の認知と記憶の関係性に関する認知神経科学的研究」（2013年度）

株式会社カネボウ化粧品 学術指導「美肌効果の実感と美容食品の味に関する研究」(2013年度～2014年度)

江崎グリコ株式会社 学術指導「ロングセラーの要素を含むチョコレート商品の開発」(2013年度～2014年度)

本田技術研究所 共同研究「運転行動における「ヒト特性」の研究」(2013年度)
株式会社マングラム 共同研究「体臭関連ニオイ成分がヒトの心身に及ぼす影響に関する研究」(2013年度～2014年度)

味の素株式会社 学術指導「ヒトにおける味覚・嗅覚の客観的評価」(2013年3月1日～2015年8月31日)

鈴木結花助教

BASFコーティングジャパン株式会社・JFE鋼板株式会社 学術指導「仮設住宅の壁色における心理効果の検証」(2012年9月～2013年11月)

V 教員による社会貢献(2010年度～2015年5月20日)

<委員等>

大淵憲一教授

日本学術会議連携委員(2005年度～)

日工組社会安全財団評議員(2013年度～)

放送大学客員教員(宮城学習センター所属)(1998年度～2010年度)

文部科学省科学技術・学術審議会専門委員(2007年度～2010年度)

文部科学省科学研究費補助金における評価に関する委員会評価者(人文・社会系)
(2007年度～2010年度)

独立行政法人社会技術研究開発センター評価委員会専門委員(2009年度～2012年度)

仙台地方裁判所委員会委員(2009年度～)

宮城県安全・安心まちづくり委員会委員長(2012年度～)

独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(2014年度～2015年度)

行場次朗教授

日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(2005～現在)

文部科学省科学技術動向研究センター専門調査員(2001年度～現在)

日本認定心理士会北海道・東北地区支部長(2012年度～2013年度)

日本学術会議連携会員 (2012～現在)

阿部恒之教授

国土交通省東北地方整備局・名取川美化アドバイザー (2010年10月～現在)
資生堂学園理事 (2014年度～現在)

坂井信之准教授

科学研究費委員会審査委員 (2013年度～2014年度)

荒木剛助教 (2008年度～2010年度)

仙台市教育局「学習意欲の科学的研究に関するプロジェクト」構成委員 (2010年度～)
仙台市教育局「たくましく生きる力育成プログラム」開発検討会議アドバイザー (2010年度～)

鈴木結花助教

日本認定心理士会北海道・東北地区支部事務局担当 (2012年度～2013年度まで)

上原俊介助教

日本認定心理士会北海道・東北地区支部事務局担当 (2013年度～2014年度)

<公開講座・公開シンポジウム・公開講演等>

大淵憲一教授

大淵憲一「犯罪理論の新展開：統制理論と緊張理論」． (法務省矯正研修所, 3月1日), 2010

大淵憲一「取調の心理学」． 東北管区警察局取調技能専科 (東北管区警察学校, 8月3日), 2010.

大淵憲一「ストレスと犯罪」 (法務省矯正研修所, 9月17日), 2010.

大淵憲一「ストレスと犯罪」 (法務省矯正研修所, 3月9日), 2011.

大淵憲一「自己統制研究の最前線」 (法務省矯正研修所, 9月16日), 2011

大淵憲一「取調の心理学」東北管区警察局取調技能専科 (東北管区警察学校, 10月19日), 2011.

大淵憲一「取調の心理学」 (宮城県警察学校, 12月7日), 2011.

- 大淵憲一「暴力とは何か」（子どもの虹情報研修センター, 5月29日）, 2012
- 大淵憲一「防犯の心理学」（福島市北信地区防犯協会, 6月6日）, 2012
- 大淵憲一「取調の心理学」東北管区警察局取調技能専科（東北管区警察学校, 10月15日）, 2012.
- 大淵憲一「取調の心理学」（宮城県警察学校, 11月6日）, 2012.
- 大淵憲一「我が国における性犯罪者の処遇プログラムとその効果」（企画、司会）.
日本心理学会公開シンポジウム、日本学術会議法共催（筑波大学東京キャンパス文京校舎、7月12日）, 2014.
- 大淵憲一「コンフリクト：ADRの心理学」宮城県行政書士会調停人養成研修（仙台市東京エレクトロンホール宮城、9月9日）, 2014
- 大淵憲一「犯罪の国際比較分析」第7期齋理蔵の講座（宮城県丸森町齋理蔵屋敷、10月4日）, 2014.

行場次朗教授

- 行場次朗 電子情報通信学会東京支部・「未来世代から見たコミュニケーション科学の魅力と学習意欲向上」第3種研究会公開シンポジウム『コミュニケーションと学習意欲－震災で学んだことを未来につなげるために－』 企画・司会 2011年5月29日
- 行場次朗 電子情報通信学会「未来世代から見たコミュニケーション科学の魅力と学習意欲向上」第3種研究会公開シンポジウム 『生きる勇気と喜びから学習意欲へ－震災で学んだことを未来につなげるために－』 司会 2011年7月29日
- 行場次朗 岩手県立盛岡第四高等学校出前講義 『基礎心理学入門』 講師 2011年10月25日
- 行場次朗 電子情報通信学会総合大会大会委員企画シンポジウム『高校生の学びの意欲向上支援を通じた社会貢献』 座長・司会 2012年3月20日
- 行場次朗 公開シンポジウム「高校生のための心理学講座シリーズ」 『認知心理学』 講師 2012年8月12日
- 行場次朗 日本イメージ心理学会第13回大会 特別講演 乾敏郎教授 『イメージ生成と変換の脳内機構』 2012年9月29日 企画・司会
- 行場次朗 日本イメージ心理学会第13回大会 特別講演 宮内哲・情報通信研究機構未来ICT研究所主幹研究員『眼は夢の像を追う－レム睡眠中の急速眼球運動に伴う脳活動－』 2012年9月30日 企画・司会

行場次朗 日本認知科学会第 29 回大会 特別講演 邑本俊亮教授 『実践的防災学から認知科学に期待するもの』 2012 年 12 月 14 日 企画・司会

行場次朗 スマートエイジング・カレッジ 講師 『知性と感性の心理』 2012 年 12 月、2013 年 12 月、2014 年 12 月

行場次朗 東北大学文学部・文学研究科オープンキャンパス公開講義 講師 『おもしろい認知心理学入門』 2013 年 7 月 29 日

行場次朗 電子情報通信学会総合大会大会委員企画シンポジウム『(結) 楽しい学び実現は? —by ICT は学習者の理解から!—』 座長・司会 2014 年 3 月 21 日

阿部恒之教授

阿部恒之 講義「化粧品心理効果」, 日本化粧品技術者会主催・化粧品技術基礎講習会(有楽町・朝日ホール等), (2000~2014).

阿部恒之 講義「化粧品と心理」, 西日本化粧品工業会等主催・化粧品技術基礎講習会(大阪・大阪商工会議所国際会議ホール等), (2003~2014).

阿部恒之 講演「美しい年齢の重ね方・一瞬も一生も美しく/加点法の美意識」, 第 2 回元気!健康!フェア in とうほく(仙台国際センター, 2 月 28 日), 2010.

阿部恒之 講演「メンタルケア論 I —化粧品という感情調節装置」, 第 120 回メンタルケア・スペシャリスト養成講座・基礎課程(フォレスト仙台, 4 月 11 日), 2010.

阿部恒之 講演「心理学で解き明かす化粧の秘密」, 東北文化研究会(片平 さくらホール, 7 月 10 日), 2010.

阿部恒之 講義「心理学入門」, 平成 22 年度高大連携に係わる地域公開講座(宮城県立白石高校会場, 7 月 20 日), 2010.

阿部恒之 パネリスト「感情を表す, 感情を読み取る一人と人とを結ぶ心理学」, 同志社大学心理学部開設記念シンポジウム 2010(同志社大学, 9 月 23 日), 2010.

阿部恒之 講演「被災者のマナー—被災後の生活と治安」, 東北大学による東日本大震災 1 ヶ月後緊急報告会(仙台・トラストシティ カンファレンス, 4 月 13 日), 2011 (東北大学防災科学研究拠点).

阿部恒之・本多明生・Juthatip Wiwattanapantuwong 講演「被災者のマナー(2)—被災時の混乱と助け合い」, 東北大学による東日本大震災 3 ヶ月後緊急報告会(仙台・国際センター, 6 月 10 日), 2011 (東北大学防災科学研究拠点).

- 阿部恒之・本多明生・Juthatip Wiwattanapantuwong 講演「被災者のマナー(3)—被災後の生活と治安」, 東北大学による東日本大震災 6 ヶ月後報告会・復興に向けての大学の役割 (仙台・トラストシティ カンファレンス, 9月13日), 2011 (東北大学防災科学研究拠点).
- 阿部恒之 講演「震災と心理学—被災者のマナー」, 広島修道大学人文学部主催 学術講演会 (広島修道大学・6月24日), 2011.
- 阿部恒之 講演「メンタルケア論 I —化粧という感情調節装置」, 第130回メンタルケア・スペシャリスト養成講座 (仙台会場)・基礎課程 (フォレスト仙台・10月30日), 2011.
- 阿部恒之 講演「男と女—見た目の違いと心の違い」, 斉理蔵の講座, (丸森町・斉理蔵・6月4日), 2011.
- 阿部恒之 講演「加齢と美しさ」, 加齢研市民公開講座・スマートエイジング (加齢研・10月15日), 2011.
- 阿部恒之・岡元美也子・松田佳重子 鼎談 「東北のミューズ (女神) たち」, あしたが、もっと、カラフルでありますように～資生堂ヘア・メーキャップアーティストによる、色とりどりのラブレター展 (メディアテーク仙台・1月14日), 2012.
- 阿部恒之 特別講演「東アジアの化粧とマナー」, 化粧文化研究者ネットワーク 第22回研究会 (資生堂五反田ビル・6月30日), 2012.
- 阿部恒之・西島 悦・我妻恵子 講演「美しさを願うことがもたらすもの」, 加齢研主催・東北大学サイエンスカフェスペシャル (石巻中央公民館・7月21日), 2012.
- 阿部恒之・佐々木昌彦 対談「復興の狼煙」, 復興の狼煙講演会 (福山中央図書館・12月15日), 2012.
- 阿部恒之 講演「美しさを願うことがもたらすもの」, 加齢研主催・東北大学サイエンスカフェスペシャル (亶理町中央公民館・10月5日), 2013.
- 阿部恒之 講演「美しさを願うことがもたらすもの」, 加齢研主催・東北大学サイエンスカフェスペシャル (気仙沼大谷公民館・10月18日), 2014.
- 阿部恒之 講義「心理学の世界」, 平成27年度宮城野高校特別講座, 5月30日), 2015.

坂井信之准教授

- 坂井信之 講演「食育とは何?」八尾市保育士・調理師食育研修会、2011年6月

- 坂井信之 講演「おいしく食べるための心理」大阪市保育所職員研修、2011年6月
- 坂井信之 講演「おいしく食べるための心理学」東大阪市保育所職員研修会、2011年7月
- 坂井信之 講演 大阪府幼稚園新規採用教員研修会講師、2012年1月
- 坂井信之 「食品の嗜好と選択の心理学」『ビール酒造組合勉強会』講師 2014年9月19日
- 坂井信之 「消費者の感じているおいしさ・心地よさとは？」『花王 C&E 委員会講演会』講師 2014年10月6日
- 坂井信之 「心理学とは？」『盛岡第三高等学校平成26年度緑丘プレ大学講座』2014年10月16日
- 坂井信之 「モノを評価するヒトの心理」『自動車技術会エレクトロニクス部門委員会』講演会講師 2014年10月21日
- 坂井信之 「食べることの心理学～おいしく食べてスマートエイジング」『スマートエイジングカレッジ』2014年12月5日
- 坂井信之 「おいしさの認知における脳の働き 脳のトップダウン処理とクロスモダリティ」『NTT データ経営研究所 応用脳科学コンソーシアム』講師 2015年1月26日
- 坂井信之 「“楽しいイベント”はあるか？」『NRI ハッカソン 2 Hack for “Festival”』講師 2015年1月31日 野村総合研究所
- 坂井信之 「香りの基礎知識- 香りの心理的な作用- 」『鳥居薬品外部講師講演会』2015年5月18日

辻本昌弘准教授

- 辻本昌弘 「人間の心理と行動」有備館講座（宮城県大崎市・スコレハウス、5月15日）、2010
- 辻本昌弘 「困難をどう生き抜くか」山形大学人文学部特別招待講義（山形大学、6月3日）、2010
- 辻本昌弘 「人間の心理と行動」福島県立安積黎明高等学校「大学・学問体験講座」（7月7日）、2010
- 辻本昌弘 「人間の心理と行動」みやぎ県民大学（東北大学、9月17日）、2011
- 辻本昌弘 「地域社会の死生観」SA カレッジ（東北大学、5月25日）、2012
- 辻本昌弘 「死者の記憶と世代の継承」齋理蔵講座（宮城県丸森町、7月7日）、

2012.

辻本昌弘 「人間の心理と行動」長野県長野高等学校「学部学科研究会」（9月14日）, 2013.

上原俊介助教

上原俊介「何が義憤の怒りを喚起させるか？ふたつの可能性」第17回西日本社会的感情研究会（大阪大学中之島センター, 7月27日）, 2013.

上原俊介「何が義憤を生起させるか：公正と配慮の道徳心による効果」（東北大学, 6月21日）, 2014.

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2010～2015年度）

仁平義明教授

日本心理学会議員（2001年度～現在）

日本音楽知覚認知学会監事（2009年度～現在）

日本心理学会常務理事（2009年度～現在）

日本心理学会優秀論文賞選考委員（2009年度～現在）

日本心理学会倫理委員会委員長（2009年度～現在）

日本心理学会公益社団法人化特別委員会委員長（2009年度～現在）

日本心理学諸学会連合教育委員会委員（2009年度～現在）

日本認知心理学会安全研究部会長（2003年度～現在）

日本認知心理学会理事（2009年度～現在）

日本自閉症スペクトラム学会評議員（2008年度～現在）

大淵憲一教授

『Psychology, Crime, and Law』 編集委員（2001年度～現在）

『Tohoku Psychologica Folia』 編集委員長（2010年度～現在）

日本グループ・ダイナミックス学会理事（2009年度～2011年度）

日本犯罪心理学会編集委員（2001年度～現在）

日本犯罪心理学会常任理事（2006年度～現在）

日本心理学会代議員（2009年度～2011年度）

日本社会心理学会理事（2005年度～現在）

日本応用心理学会理事（2006年度～現在）

国際犯罪学会第16回世界大会組織委員（2008年度～2011年度）

日本犯罪心理学会会長（2009 年度～2012 年度）
日本犯罪心理学会理事（2012 年度～現在）
日本心理学会教育研究員会委員（2012 年度～現在）
日本犯罪心理学会第 53 回大会大会委員長（2015 年度）

行場次朗教授

日本心理学会理事広報委員会委員長（2009 年度～2011 年度）
日本認知心理学会常務理事（2009 年度～2010 年度）
日本認知心理学副理事長将来計画委員会委員長（2010 年度～2011 年度）
日本認知心理学会理事長（2012 年度～現在）
日本基礎心理学会常務理事（2005 年度～現在）
International Multisensory Research Forum 2011 Organizing Committee（2010～
2011 年度）
International Conference on Computer Vision Theory and Applications プログラ
ム委員（2005 年度～現在）
電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ顧問（2008 年～
2012 年度）
日本イメージ心理学会第 13 回大会大会委員長（2012 年）
日本認知科学会第 29 回大会大会委員長（2012 年）
東北心理学会幹事（1998 年度～2013 年度）
東北心理学会理事（2014 年度～現在）
第 31 回国際心理学会議(ICP2016)実行委員広報委員長（2011 年度～現在）
日本顔学会第 18 回大会大会委員長（2013 年）
日本認知心理学会第 12 回大会大会委員長（2014 年）

阿部恒之教授

日本生理心理学会評議委員（2004 年～現在）
『Tohoku Psychologica Folia』 編集委員（2006 年～現在）
『感情心理学研究』 編集委員長（2010 年～現在）
日本感情心理学会理事（2010 年～2012 年）
日本感情心理学会常任理事（2012 年～現在）
日本心理学会代議員（2011 年～現在）
日本心理学会倫理委員（2012 年～現在）

日本心理学会優秀論文選考委員（2013年～2014年）
日本心理学会学術大会委員（2013年～現在）
日本心理学会編集委員（2013年～現在）
日本心理学会常務理事（2015年～）
国際心理学会 2016 プログラム委員（2013年～現在）
日本感情心理学会第21回大会大会長（2013年）
日本顔学会第18回大会（フォーラム顔学 2013）実行委員長（2013年）

坂井信之准教授

日本味と匂学会 評議員（2008年～現在）
におい・かおり環境学会誌編集委員（2008年～2012年）
『感情心理学研究』 編集委員（2010年～2012年）
日本感情心理学会第21回大会実行委員長（2013年）
『Tohoku Psychologica Folia』 編集委員（2012年～現在）
SenseAsia Exective Committee Member（2014年～現在）

辻本昌弘准教授

『Tohoku Psychologica Folia』 編集委員（2005年度～現在）
日本グループ・ダイナミックス学会理事（2015年度～現在）
日本質的心理学会学会賞選考委員（2015年度～現在）
日本犯罪心理学会第53回大会準備委員会委員（2015年度）

上原俊介助教

日本感情心理学会第21回大会実行委員会委員（2013年度）
日本顔学会第18回大会実行委員会委員（2013年度）
日本認知心理学会第12回大会準備委員会運営委員長（2014年度）
『International Journal of Psychology Research & Therapeutics』 編集委員（2014年度～現在）
日本犯罪心理学会第53回大会準備委員会委員（2015年度）

Ⅶ 教員の教育活動

（1）学内授業担当（2015年度）

1 大学院授業担当

大淵憲一教授

社会心理学特論
心理学総合演習Ⅰ（分担）
心理学総合演習Ⅱ（分担）
課題研究

行場次朗教授

心理学研究実習
心理学研究演習Ⅱ
心理学総合演習Ⅰ・Ⅱ
実験心理学特論
課題研究

阿部恒之教授

心理学研究演習Ⅲ
実験心理学特論
心理学総合演習Ⅰ（分担）
心理学総合演習Ⅱ（分担）
心理学研究実習Ⅰ・Ⅱ（Ⅰは主担、Ⅱは分担）
課題研究

坂井信之准教授

心理学研究演習Ⅳ
応用心理学特論
心理学総合演習Ⅰ（分担）
心理学総合演習Ⅱ（分担）
心理学研究実習Ⅰ・Ⅱ（分担）
課題研究
生態学合同講義（1コマ：生命科学研究科）
人文社会科学研究（分担）

辻本昌弘准教授

心理学研究演習Ⅴ

心理学総合演習Ⅰ（分担）
心理学総合演習Ⅱ（分担）
心理学研究実習Ⅰ（分担）
心理学研究実習Ⅱ（分担）
課題研究

上原俊介助教

心理学研究実習Ⅰ・Ⅱ（分担）

2 学部授業担当

大淵憲一教授

社会心理学各論
心理学研究法（分担）
心理学基礎実験（分担）

行場次朗教授

心理学基礎実験
心理学研究法
実験心理学概論
実験心理学各論
人文社会総合

阿部恒之教授

実験心理学概論
実験心理学演習
実験心理学各論
心理学基礎実験Ⅰ・Ⅱ（Ⅰは主担、Ⅱは分担）
心理学研究法（分担）

坂井信之准教授

実験心理学基礎購読
心理学基礎実験（分担）
応用心理学各論

応用心理学演習

心理学研究法（前期は主担、後期は分担）

人文社会科学総合（分担）

辻本昌弘准教授

社会心理学概論

社会心理学基礎購読

心理学基礎実験（分担）

文化心理学各論

文化心理学演習

心理学研究法（分担）

上原俊介助教

心理学基礎実験（分担）

3 共通科目・全学科目授業担当

大淵憲一教授

人文社会総論（分担）

現代学問論（分担）

行場次朗教授

人文社会科学総合

心理学

阿部恒之教授

人文社会科学総合（2 コマ担当）

全学・人文社会総論（1 コマ担当）

全学・心理学（文系）

加齢研・スマートエイジングカレッジ（1 コマ担当）

リーディング大学院・実践的防災学3（1 コマ担当）

坂井信之准教授

心理学（医・保・歯）

英語原書購読入門

辻本昌弘准教授

心理学

人文社会科学総合（分担）

上原俊介助教

基礎ゼミ

(2) 学術振興会会員 (2010～2015 年度)

大淵憲一教授

平成 24～25 年度 外国人特別研究員 呉 正培

行場次朗教授

平成 22 年度 DC1 高橋純一

平成 23 年度 PD 鈴木結花 PD 柴田理瑛

平成 24 年度 DC1 竹島康博

平成 25 年度 PD 高橋純一

平成 26 年度 DC1 立花 良

阿部恒之教授

平成 27 年度 PD 板倉有紀

(3) 他大学への出講 (2010～2015 年度)

大淵憲一教授

放送大学宮城学習センター (2001 年度～2011 年度)

宮城学院女子大学 (2001 年度～現在)

ノースアジア大学 (2004 年度～現在)

東北福祉大学 (2010 年度, 2012 年度, 2015 年度)

沖縄国際大学 (2010 年度, 2015 年度)

山形大学 (2014 年度)

仙台白百合大学 (2015 年度)

行場次朗教授

岩手大学（2014 年度）
新潟大学（2012 年度）
山梨大学（2010 年度～現在）
岩手大学（2010 年度）
福島大学（2006 年度～現在）
東北福祉大学（2001 年度～現在）
放送大学宮城学習センター（2001 年度～2012 年度）

阿部恒之教授

福島学院大学福祉学科（2003 年度～現在）
武蔵野大学薬学科（2006 年度～現在）
宮城学院大学（2008 年度～現在）
昭和女子大学（2009 年度～現在）
広島大学（2012 年 2 年度）
トゥルク大学（2012 年度）
岩手大学（2012 年度）
東北福祉大通信講座スクーリング（2013 年度）
復興大学復興人材育成教育コース（2013 年度～現在）
放送大学宮城学習センター（2015 年度）

坂井信之准教授

朝日大学（2008 年度～現在）
大阪市立大学（2011 年度）
尚絅学院大学（2012 年度～現在）
放送大学宮城学習センター（2012 年度～現在）

辻本昌弘准教授

いわき明星大学（2004 年度～2012 年度）
弘前大学（2012 年度）
岩手大学（2013 年度）
琉球大学（2013 年度）
山形大学（2014 年度）

沖縄国際大学（2014 年度）

宮城学院女子大学（2014 年度）

荒木剛助教（2009 年度～2011 年度）

東北学院大学（2009 年度～2011 年度）

宮城県高等看護学校（2010 年度～2011 年度）

鈴木結花助教（2012 年度）

東北文化学園大学（2008 年度～2012 年度）

宮城学院女子大学（2012 年度）

上原俊介助教

東北文化学園大学（2013 年度～現在）

宮城学院女子大学（2013 年度～現在）

東北福祉大学（2013 年度）

常磐大学（2014 年度）

放送大学宮城学習センター（2015 年度～現在）